人間科学部
学修ガイドブック

2024

SCHOOL of HUMAN SCIENCES

専修大学

専修大学 21 世紀ビジョン
「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

社会知性（Socio-Intelligence）

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、
深い人間理解と倫理観をもち、地球的視野から独創的な発想により
主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力

専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した４人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉学する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「社会知性（**Socio-Intelligence**）の開発」を 21 世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

人　間　科　学　部

学修ガイドブック

2024

令和６年度

専　修　大　学

専修大学学則

第１章　大学の目的および使命

第１条　本大学は，社会現象に対する自由でとらわれない研究を基礎とし，旧い権威や強力に対してあくまで批判的であることを精神とし，人間の値打を尊重する平和的な良心と民主的な訓練を身につけた若い日本人を創りあげることを目的としている。

学修ガイドブックとは…

学修ガイドブックは，みなさんのカリキュラムについて詳しく記載したものです。卒業するまでカリキュラムは変わりません。このガイドブックをよく読み，紛失することのないよう大切に活用してください。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学部の心理学科，社会学科がそれぞれに規定する所定の卒業要件単位を学則で定める在籍期間中に修得することによって，幅広い教養と豊かな人間性を有し，専門分野に関しては，実験・観察・調査を軸として，科学的・実証的に人間の理解を目指し，人間の心と社会に生起するさまざまな現象のメカニズム（因果関係）を解明する領域を総合的に学び，主体的に社会を支え活動できる能力を養い，高度な専門性を身に付けた者に対し，心理学科では学士（心理学）の，社会学科では学士（社会学）の学位を授与します。

心理学科

(1) 文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身に付け，多様な価値観を受け入れた上で，社会生活上の諸課題に取り組むことができる。（知識・理解，態度・志向性）
(2) 心理学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を説明することができる。（知識・理解）
(3) 人間行動の理解のために，研究機器の利用方法をはじめとしてさまざまな実証的研究の手法を活用することができる。（汎用的技能）
(4) 現代心理学の持つ批判的，分析的かつ主体的な人間行動理解に基づき，知見や技能を活用することができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）
(5) 未解決の問題を発見し，それを適切な方法で解決することができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）

社会学科

(1) 幅広い一般知識として，社会学の専門教育を超えた，文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を理解し，説明することができる。（知識・理解）
(2) 社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を体系的に理解し，社会的行為と諸制度との相互関係を社会学的に説明できる。（知識・理解）
(3) 実証的調査の方法を用いて量的・質的なデータを収集・分析し，グループで作業する能力とコミットメントを身につけ，自らの思考を文章や口頭によって分かりやすく他者に伝えることができる。（汎用的技能）
(4) 諸社会が有する文化や価値の多様性に関心を持ち，他者に寛容な態度で接するとともに，社会の成員としての自己を理解し，自分が得た知識や価値観を反省し相対化して行動することができる。（態度・志向性）
(5) 社会における実践的な課題を発見し，上記の能力を総合的に駆使して理論的に思考・分析し，社会を構想し提言することができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

人間科学部では，教育研究上の目的及び養成する人材の目的を達成するために，教育課程を「転換・導入科目」,「教養科目」,「外国語科目」,「専門科目」の４つの科目群から構成することとし，教育課程全体の体系性・順次性を確保し，かつ教養教育と専門教育の有機的連携を図ります。

心理学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，科目区分「転換・導入科目」には,「専修大学入門科目」,「キャリア基礎科目」,「情報リテラシー科目」,「基礎自然科学」,「保健体育基礎科目」を配置しています。

・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を理解し，説明することができる能力を養成するため，科目区分「教養科目」には,「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」,「融合領域科目」,「保健体育系科目」を配置しています。

・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には,「英語」,「英語以外の外国語」,「海外語学研修」，科目区分「専門科目」には,「心理学講読１」を配置しています。

・科目区分「専門科目」には，以下の科目を配置しています。

①心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力と多様な価値観を受け入れ，主体的に学ぶ自己設計・管理力を養成するための科目を配置しています。

②心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力とそれらの知識の統合と活用する能力や論理的思考力を養成するための科目を配置しています。

③心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力とそれらの知識の統合と活用する能力や論理的思考力に加えて問題解決能力についても養成するための科目を配置しています。

④心理学の研究方法を理解するための情報・データリテラシー能力を養成するための科目を配置しています。

⑤倫理観と社会的責任と論理的思考力を持って，これまで学んだ心理学の知識の統合と活用に取り組み，実際の問題解決を行う能力を養成するための科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

・大学での学修の基盤となる能力を養成する「転換・導入科目」は，多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する初年次教育として実施します。

・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は,「転換・導入科目」の「専修大学入門科目」において実施し，必履修科目として，１年次に全員が学びます。

・情報・データリテラシーの基礎力養成は,「転換・導入科目」の「情報リテラシー科目」において実施します。

・幅広い領域の知識・理解の修得は,「教養科目」において実施し，８単位以上修得することを卒業要件としています。

・言語運用能力のうち，母語以外の言語運用能力の養成は，「外国語科目」において実施し，英語から４単位以上（外国人留学生は日本語８単位以上），英語以外の外国語から４単位以上修得することを卒業要件としています。

・科目区分「専門科目」は，以下のように実施され，必修科目 32 単位，選択必修科目 32 単位，選択科目 20 単位以上修得することを卒業要件としています。

①心理学専門科目に関連した言語運用能力の養成は，「心理学講読１」において実施します。

②心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力と多様な価値観を受け入れ，主体的に学ぶ自己設計・管理力の養成は，必修科目として１年次に「心理学基礎実験１（心理学実験）」，「心理学概論」，「臨床心理学概論」，２年次に「心理学基礎実験２」において実施するほか，「心理学研究法」をはじめとする 19 の選択必修科目と「公認心理師の職責」をはじめとする３つの選択科目において実施します。

③心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力，知識の統合と活用する能力，論理的思考力の養成は，選択必修科目の「心理学の思想と歴史１・２」，「基礎心理学特殊講義Ａ」をはじめとする 10 の選択科目において実施します。

④心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力，知識の統合と活用する能力，論理的思考力，問題解決能力の養成は，選択必修科目の「情報処理心理学実習１・２」，「心理学特殊講義Ａ（障害者・障害児心理学）」をはじめとする 15 の選択科目において実施します。

⑤心理学の研究方法を理解するための情報・データリテラシー能力の養成は，必修科目として１年次に「心理学データ解析基礎１（心理学統計法）・２」を実施するほか，「心理学コンピュータ実習１」をはじめとする４つの選択必修科目において実施します。

⑥倫理観と社会的責任，論理的思考力，心理学の知識の統合と活用する能力，問題解決力の養成は，必修科目として３年次に「心理学実験演習１」，４年次に「心理学実験演習２」と「卒業論文」において実施します。

(3) 教育内容・方法

①転換・導入科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は，初年次教育の少人数演習形式とします。

「キャリア入門」，「情報入門１・２」，「あなたと自然科学」，「スポーツリテラシー」は，専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため，その基礎となる内容と，大学で学ぶときだけではなく，生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し，専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び，異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」，「社会科学基礎科目」，「自然科学系科目」は，特に，文化，歴史，社会，自然など幅広い教養を身につける内容とします。また，「融

合領域科目」は，基礎的な知識や技能を背景として，専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を養成する内容とします。「保健体育系科目」は，自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず，自己管理力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し，適切なコミュニケーションを行うことで，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は，一部の授業科目を除き，演習形式とします。

１年次に履修する英語は，入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し，外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は，多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ，初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また，異文化・多文化への理解を深め，世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」,「言語文化研究」は，講義形式とします。

④専門科目

心理学専門科目に関連した言語運用能力をつけることを目的とする「心理学講読１」は，演習形式とします。

心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力，多様な価値観を受け入れ，主体的に学ぶ自己設計・管理力をつけることを目的する必修科目の「心理学概論」,「臨床心理学概論」のほか,「心理学研究法」をはじめとする 19 の選択必修科目と「公認心理師の職責」をはじめとする３つの選択科目は講義形式とします。少人数のグループで実施し様々な実証的研究の手法を修得する，必修科目の「心理学基礎実験１（心理学実験）・２」は実験・実習形式とします。

心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力，知識の統合と活用する能力，論理的思考力をつけることを目的とする選択必修科目の「心理学の思想と歴史１・２」,「基礎心理学特殊講義Ａ」をはじめとする 10 の選択科目は講義形式とします。

心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力，知識の統合と活用する能力，論理的思考力，問題解決能力をつけることを目的とする「心理学特殊講義Ａ（障害者・障害児心理学）」をはじめとする 15 の選択科目は講義形式とし，選択必修科目の「情報処理心理学実習１・２」は実験・実習形式とします。

心理学の研究方法を理解するための情報・データリテラシー能力をつけることを目的とする必修科目の「心理学データ解析基礎１（心理学統計法）・２」と「心理学コンピュータ実習１」をはじめとする４つの選択必修科目は実験・実習形式とします。

倫理観と社会的責任，論理的思考力，心理学の知識の統合と活用する能力，問題解決力をつけることを目的とする「心理学実験演習１・２」,「卒業論文」では，少人数でのゼミ形式の授業に参加することで心を研究する学問知とフィールド知の双方向性の理解を目指すため，演習形式とします。

社会学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，科目区分「転換・導入科目」には,「専修大学入門科目」,「専門入門ゼミナール」,「キャリア基礎科目」,「情報リテラシー科目」,「基礎自然科学」,「保健体育基礎科目」を配置しています。

・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を理解し，説明することができる能力を養成するため，科目区分「教養科目」には,「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」,「融合領域科目」,「保健体育系科目」を配置しています。

・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には,「英語」,「英語以外の外国語」,「海外語学研修」を配置しています。

・「専門科目」には，第一に，専門知識を理解して活用する力，論理的思考力，問題解決力，多様な価値観を受け入れる力，倫理観と社会的責任，自己設計・管理力を養成するため，社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた基礎的な理論とともに，社会的行為と制度を理解するための科目を配置しています。

第二に，専門知識を理解して活用する力，論理的思考力，問題解決力，多様な価値観を受け入れる力，倫理観と社会的責任，自己設計・管理力に加えて，情報・データリテラシーを養成するために，社会調査の技法を身につけるとともに，理論的・実証的研究の方法を活用して，社会における実践的な課題を分析する能力を修得するための科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

・大学での学修の基盤となる能力を養成する「転換・導入科目」は，多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する初年次教育として実施します。

・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は,「転換・導入科目」の「専修大学入門科目」において実施し，必修科目として，1年次に全員が学びます。

・情報・データリテラシーの基礎力養成は,「転換・導入科目」の「情報リテラシー科目」において実施します。

・幅広い領域の知識・理解の修得は,「教養科目」において実施し，8単位以上修得することを卒業要件としています。

・言語運用能力のうち，母語以外の言語運用能力の養成は,「外国語科目」において実施し，英語から4単位以上（外国人留学生は日本語8単位以上），英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。

・専門分野の基礎的な知識・理解，知識を統合して活用する力，論理的思考力，問題解決力，多様な価値観を受け入れる力，倫理観と社会的責任，自己設計・管理力の養成は，主に「社会学原論」をはじめとする必修科目（10科目32単位必修），社会学の各専門領域に関する選択必修科目（14科目28単位選択必修），社会学の隣接諸科学の選択科目（22単位選択）において実施します。

・社会学科専門科目に関連した言語運用能力のうち，体系的な専門知識にもとづいて自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達する能力の養成は，主に各年次に配置されたゼミナール形式の授業および「卒業論文」において実施します。また，情報・データリテラ

シーの養成は，主に社会調査法科目群（「社会調査の基礎」,「調査設計と実施方法」,「データ分析法実習」,「統計学実習」,「多変量解析法実習」,「質的分析法」,「社会調査実習Ａ」）において実施します。

(3) 教育内容・方法

①転換・導入科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は，初年次教育の少人数演習形式とします。

「データ分析入門」,「キャリア入門」,「情報入門１・２」,「あなたと自然科学」,「スポーツリテラシー」は，専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため，その基礎となる内容と，大学で学ぶときだけではなく，生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し，専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び，異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」は，特に，文化，歴史，社会，自然など幅広い教養を身につける内容とします。また,「融合領域科目」は，基礎的な知識や技能を背景として，専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を養成する内容とします。「保健体育系科目」は，自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず，自己管理力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し，適切なコミュニケーションを行うことで，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は，一部の授業科目を除き，演習形式とします。

１年次に履修する英語は，入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し，外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は，多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ，初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また，異文化・多文化への理解を深め，世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」,「言語文化研究」は，講義形式とします。

④専門科目

専門科目では，教育課程の編成および実施の方針にもとづき，以下の科目区分および内容の授業科目を配置し，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実験・実習）とします。

・専門科目では，社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得するため，社

会学科の専門教育課程編成を構成する三つの系（文化・システム系，生活・福祉系，地域・エリアスタディーズ系）に即しつつ，実証的かつ体系的な学修，研究指導をおこないます。そうした方針のもと，「社会調査実習Ａ」，「文献研究Ａ」，「専門ゼミナールＡ・Ｂ」と「卒業論文」は必修科目とします。また，配当年次については，科目間の関係や履修の順序などに配慮して体系的な履修が可能となるように配当しています。

・社会的行為や制度について科学的・実証的に研究する方法を修得するため，社会調査の実習授業（「社会調査実習Ａ・Ｂ」）を少人数指導の形式（10 人程度を目安とするクラス）で開講します。「社会調査実習Ａ・Ｂ」では，自らの思考を文書によって伝える技術・表現を育成するため，調査の成果を報告書として刊行します。

・社会調査に主体的，能動的にのぞむのにふさわしい知識や能力を身に付けるため，社会調査法科目群を体系的に配置します。

・社会学の理論や方法論についての理解を深め，かつ，その知識を文書や口頭で伝え，議論する力を育成するため，文献の精読やディスカッションを中心とする演習授業（「文献研究Ａ・Ｂ」）を少人数指導の形式（10 人程度を目安とするクラス）で開講します。

・諸社会が有する文化や価値の多様性への関心を高めるため，年度ごとに３つのテーマを設定し，そのテーマに精通した学者や実務家を学外から講師として招いた講義科目（「社会学特殊講義Ａ・Ｂ・Ｃ」または「社会学特殊講義Ｄ・Ｅ・Ｆ」）を開講します。

・専門科目を中心とする教育内容を，総合的に駆使して，社会における実践的な課題について思考し，分析することができる能力を修得するため，「専門ゼミナールＡ・Ｂ」を少人数指導の形式（10 人程度を目安とするクラス）で開講します。社会学科の全学生は，２年次の後期に，各自の関心や問題意識にもとづき所属ゼミナール（担当教員）の選択を行ない，３年次の「専門ゼミナールＡ」と４年次の「専門ゼミナールＢ」において，同じ教員による一貫した指導を受けながら，各自が主体的に研究に取り組み，卒業論文を執筆します（必修）。

人間科学部長
下斗米　淳

は　じ　め　に

新入生の皆さん，ご入学おめでとうございます。私たち人間科学部の教職員一同，皆さんをお迎えできたことを大変うれしく思います。志を抱き，あるいはこれから志を立てようと門をくぐられた人間科学部は，2010年に開設された学部です。従いまして，皆さんは15期生になります。

皆さんはこれまでの長い「児童・生徒」の時代から「学生」と呼ばれる時代を迎えられました。この児童・生徒そして学生という呼び方は，学校教育法に定められた教育課程に従って区別されています。しかし語源をみますと，児童は心身がまだ未発達なこどもという意味，生徒は芽を出したばかりで成長に向けて歩みだしたことを意味する言葉です。こうした時代から今，皆さんは学生になりました。学生という言葉はもともと“がくしょう”と読まれていて，学問をする人という意味です。すなわち，学生となった皆さんは，学問をするために生きていく人になったことになります。初等・中等教育を受けてきた中でも，学問をしてこなかったわけではないと思いますが，それでもこれまでのように手取り足取り「教わる」のではなく，大学では自分自身で問題意識を醸成させてその真理を探求する「学び」をすることになります。人間科学部の先生は，皆さん一人ひとりの問題意識を大切にしながら真理探究をお手伝いして，一緒に問題の答えを見いだすメイトのような存在になることでしょう。「主体的に学ぶ人」になって頂きたいと思います。

では，人間科学とは何か。この問いに対して皆さんがその答えを見いだすことになりますが，諸学問領域の狭間を埋めるためでもなければ，諸学問領域を総称するものでもありません。諸学問領域とは別の次元から，人間存在を考えていこうとする学問が人間科学であると言えます。人が社会を構成し，その社会により人はかたち作られています。このように人と社会は一方向ではなく相互に規定し合うものですから，人間科学部は，心理学と社会学の双方から人間存在を解き明かそうとしています。皆さんは学籍として心理学科・社会学科に所属をすることになりましたが，共に「人間科学を学ぶ人」になって頂きたいと思います。

この学修ガイドブックは，皆さんの「学び」についてのルールやガイドが書かれています。これからの4年間どのように真理探究をすすめ，いかに皆さん一人ひとりの人間力を高めていくかを解説しています。また人間科学部の先生方から「学ぶ」皆さんへの願いを表したものでもあります。新入生の皆さんにとっては，これからの4年間は心も身体も生涯の中で一番動ける時期であると思います。従って，大学内外で活動し，様々な課題に直面してはその解決をしていくことになりますが，これからのキャンパスライフにおいて核となる「学び」を着実に進めて頂けるよう，皆さんの傍らにこのガイドブックをおくようにして下さい。

人間科学部学生の皆さんは，おそらく「学び」にかなり手応えを感じていくことになると思います。皆さんには，その手応えを得ながら4年間を過ごして欲しいと思います。そして，自分らしさを大切にしながら，豊かな将来にするための基盤を構築して頂けることを願っています。

目　　次

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）　…… 3
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）　…… 4
はじめに　…… 11
第１章　卒業までに何を学ぶか
Ⅰ　大学の授業科目　…… 17
1　専修大学の学士課程教育　…… 17
2　専修大学の科目ナンバリング　…… 18
3　専修大学の数理・データサイエンス・ＡＩ教育　…… 21
4　全学公開科目　…… 22
5　授業科目の種類　…… 22
6　単位制と履修年次指定制　…… 23
7　単位の考え方と算定基準　…… 23
8　オンライン授業による修得単位の上限について　…… 23
Ⅱ　大学卒業の要件と科目の履修　…… 24
1　大学卒業の要件　…… 24
2　履修計画の立て方　…… 25
3　履修上限単位数　…… 25
4　科目の再履修　…… 25
5　履修モデル　…… 26
Ⅲ　科目の履修登録　…… 27
Ⅳ　試験と成績評価　…… 28
1　試験の種類　…… 28
2　受験上の注意，その他　…… 29
3　定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価　…… 30
4　卒業論文　…… 30
5　成績評価と通知　…… 30
Ⅴ　卒業　…… 33
1　卒業見込証明書の発行　…… 33
2　卒業発表　…… 33

第２章　転換・導入科目と教養科目，外国語科目の学び方
Ⅰ　転換・導入科目　…… 37
専修大学入門科目　…… 37
専門入門ゼミナール　…… 38
キャリア基礎科目　…… 38

情報リテラシー科目 …… 39
基礎自然科学 …… 40
保健体育基礎科目 …… 41
Ⅱ　教養科目 …… 43
人文科学基礎科目 …… 43
社会科学基礎科目 …… 45
自然科学系科目 …… 46
融合領域科目 …… 48
保健体育系科目 …… 49
Ⅲ　外国語科目 …… 51
英語 …… 51
英語以外の外国語 …… 56
海外語学研修 …… 59
Ⅳ　外国人留学生の特例履修科目 …… 63

第３章　専門科目の学び方
専門科目では何を学ぶか …… 67
心理学科
Ⅰ　心理学科の学生のために …… 68
1　心理学科の特色 …… 68
2　１年次でどう学ぶか …… 68
Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法 …… 69
1　卒業要件 …… 69
2　科目の履修方法 …… 70
人間科学部心理学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 78
人間科学部心理学科（外国人留学生）転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 79
人間科学部心理学科専門科目一覧 …… 80
社会学科
Ⅰ　社会学科の学生のために …… 81
1　社会学科の特色 …… 81
2　１年次でどう学ぶか …… 82
Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法 …… 82
1　卒業要件 …… 82
2　科目の履修方法 …… 84
人間科学部社会学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 94
人間科学部社会学科（外国人留学生）転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 95
人間科学部社会学科専門科目一覧 …… 96
人間科学部専門科目一覧 …… 97

第４章　資格課程について
Ⅰ　教職課程 …… 101
Ⅱ　司書・司書教諭・学校司書課程 …… 102
Ⅲ　学芸員課程 …… 102
Ⅳ　大学院教職課程 …… 103
Ⅴ　科目等履修生 …… 103

付　　録
Ⅰ　専修大学履修規程 …… 107
Ⅰ　専修大学定期試験規程 …… 110
Ⅱ　定期試験における不正行為者処分規程 …… 114

第１章

卒業までに何を学ぶか

Ⅰ　大学の授業科目

Ⅱ　大学卒業の要件と科目の履修

Ⅲ　科目の履修登録

Ⅳ　試験と成績評価

Ⅴ　卒　　業

Ⅰ　大学の授業科目

１．専修大学の学士課程教育

専修大学に入学したみなさんが，これから４年間専修大学に在学し，各学部学科で定められている授業科目の単位を修得すると，それぞれの専攻分野を付した「学士」となって卒業し，「社会への第一歩」を踏み出します。

この入学から「社会への第一歩」を繋ぐ「学び」の道のりを「学士課程」と呼んでいます。

しかしながら，中学や高校の勉強と大学での「学び」は同じではありません。大学では，一人ひとりが自分で「学び」を選択し，自ら研鑽することが求められます。大学における「学び」は，受動的，画一的な「学習」ではなく，能動的，自律的な「学修」なのです。

そこで専修大学の「学士課程教育」では，まず，みなさんが大学での「学び」や生活にスムーズに適応し，大学および社会で求められる必要不可欠な基礎的知識と技能を修得できるよう転換・導入科目を設置しています。例えば，少人数の専修大学入門ゼミナールは全ての学部の学生が履修する科目です。この科目で，専修大学の学生としての自覚と心構えを得るでしょう。

この転換・導入科目に加えて，専修大学の学士課程教育は，教養科目，外国語科目および専門科目の４つの科目群で構成されています。転換・導入科目を土台に，教育課程全体の体系性・順次性が確保されるとともに，かつ教養教育と専門教育の有機的連携が図られています。2019 年度からは科目ナンバリングも導入され，科目の体系性・順次性がよりわかりやすくなりました。

教養科目には，「人文科学基礎科目」，「社会科学基礎科目」，「自然科学系科目」，「融合領域科目」および「保健体育系科目」の５つの科目群があり，興味を持った分野をより深く学べるようになっています。今日的かつ学際的・融合的な科目も用意されています。外国語科目は，「英語」，「英語以外の外国語」，「海外語学研修」の３つの科目群で構成されています。外国語の重要性はみなさんも十分に理解しているでしょう。専門科目は，それぞれの専攻分野について，基礎から応用へと段階的に学修できる科目配置となっています。専修大学の多様な科目を履修することで，各自の興味や関心を深化，発展させたり，専門分野を多角的に考察したりすることで，社会に通用する力を確実につけることができます。

つまり，専修大学の学士課程教育を通じて，どの学部に所属していても，社会に出てから必要な基礎的知識や技能を学び，課題解決能力，論理的思考力，コミュニケーション能力などを身につけることができます。専修大学の学士課程教育は，一人ひとりの「学修」が，将来の持続的成長につながるよう，様々に工夫されています。

みなさんの将来には，無限の夢と希望が満ち溢れています。しかし内外の環境は急速に変化しており，それらに適時適切な対応をしつつ，世界に飛翔するためには，国際的通用性を備え，先見性・創造性・独創性に富み，積極的に社会を支え，社会を改善する意欲・能力が肝要です。「学び」は一瞬の夢ではありません。生涯続く険しい道のりです。高い志と気概を失うことなく，21 世紀を生き抜くために，専修大学での学びを通じて人生の礎を築いてください。

２．専修大学の科目ナンバリング

科目ナンバリングとは，授業科目に適切な番号を付し分類することで，学修の段階や順序等を表し，教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。専修大学では科目ナンバリングを，６桁のアルファベットと数字で構成される「コースコード」で表すこととし，2019 年度から全ての学部で導入しています。コースコードを用いることで，学びたい分野で開講されている科目とそのレベルを参照することができます。学びたい科目の詳細な授業内容は講義要項（シラバス）で確認することができますので，みなさんの興味関心を最大限に活かした，より体系的な履修計画を立てることができます。

なお，コースコードは講義要項（シラバス）に表示されるほか，単位修得学業成績証明書（和文・英文）および二種複合証明書に記載されます。コースコードは，年度毎に付番するのではなく，原則として授業科目に固定したものとして付されます。

１．「科目ナンバリング」の意義

みなさんが，履修する授業科目を検討する際に，授業科目の分類，標準的な学修の段階や順序を理解したうえで選択することができます。

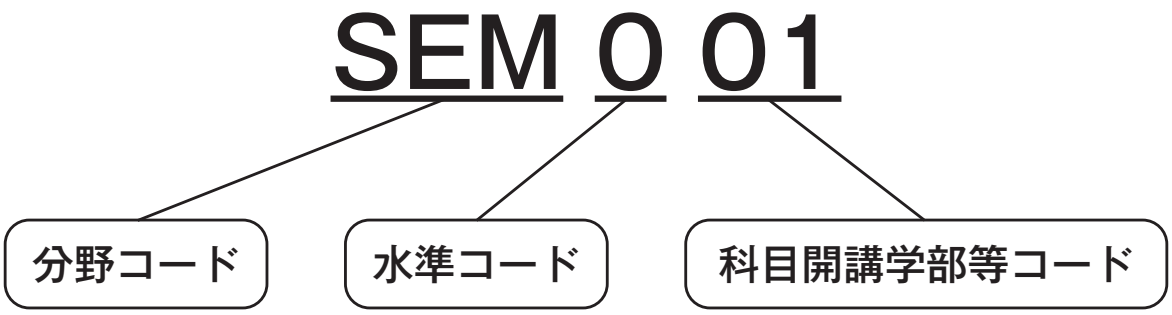
また，コードの構成は全学部で統一されているため，全学公開科目のように他学部で開講されている科目を履修する際に，学問分野や科目の水準など，開講科目の位置づけを理解することが容易になるので，主体的な学修を進めるうえでの助けとなります。

さらに，コースコードは学外にも公開されますので，国際交流協定校で修得した単位を専修大学で認定する際や，在学中・卒業後に海外の大学・大学院に入学する場合の単位互換等を円滑に進められることが期待できます。

２．「コースコード」の構成

「コースコード」は，「①分野コード（科目の学問分野を表す）」「②水準コード（科目のレベル，水準や難易度を表す）」「③科目開講学部等コード（開講学部や科目区分等）」から構成され，授業科目毎にコードが付されます。

例えば，転換・導入科目の「専修大学入門ゼミナール」の場合，次のようなコースコードが付されます。



＜各コードの意味＞

①分野コード　専修大学で開講されている科目を１１１の分野に分け，３桁のアルファベットで表します。

科目の分野	分野コード	科目の分野	分野コード	科目の分野	分野コード
会計学	ACC	ドイツ語	GER	経営学	MAN
アラビア語	ARA	地理学一般	GGR	数理科学	MAT
考古学	ARC	情報学一般	GIN	学芸員課程	MCP
芸術一般	ARL	心理学一般	GPS	経営情報学	MNI
地域研究	ARS	ギリシャ語	GRK	金融・ファイナンス	MOF
美学・芸術諸学	ASA	アジア史・アフリカ史	HAA	新領域法学	NFL
文化財科学・博物館学	CAS	ヨーロッパ史・アメリカ史	HEA	自然科学一般	NSC
中国語	CHI	人文学一般	HMN	海外語学研修	OSS
中国文学	CHL	思想史	HOT	財政・公共経済	PFP
民事法学	CIL	史学一般	HSG	哲学一般	PHE
臨床心理学	CLP	人文地理学	HUG	自然地理学	PHG
商学	CME	人間情報学	HUI	計算基盤	POI
キャリア科目	CRE	人体病理学	HUP	政治学	POL
刑事法学	CRL	情報通信技術	ICT	精神神経科学	PSS
文化人類学・民俗学	CUA	国際開発問題	IDG	公法学	PUL
発達心理学	DEP	融合領域科目	IDS	地誌学	REG
デザイン学	DES	国際経済政策	IEP	宗教学	RES
経済史	ECH	国際法学	ILA	ロシア語	RUS
経済政策	ECP	インドネシア語	IND	社会科学一般	SCS
経済統計	ECS	国際関係論	INR	ゼミナール	SEM
理論経済学	ECT	情報システム	INS	空間情報科学	SIS
教育心理学	EDP	イタリア語	ITL	学校司書課程	SLP
教育工学	EDT	日本文化	JAC	特別支援教育	SNE
教育学	EDU	日本文学	JAL	社会学	SOC
英語一般	ENG	日本語教育	JLE	社会情報学	SOI
英語学	ENL	日本語学	JLI	社会法学	SOL
経済学・政治経済学	EPE	日本史	JPH	社会心理学	SOP
環境政策・環境社会システム	EPS	日本語	JPN	特殊講義	SPL
英語　読む・聴く	ERL	ジャーナリズム	JRN	スペイン語	SPN
英語　話す・書く	ESW	コリア語	KOR	スポーツ科学	SPS
倫理学	ETH	ラテン語	LAT	社会システム工学	SSE
実験心理学	EXP	司書課程	LCP	統計科学	STS
美術史	FAH	図書館情報学・人文社会情報学	LHS	SWP 科目	SWP
外国語教育	FLE	英米・英語圏文学	LIE	教職課程	TCP
フランス語	FRE	文学一般	LIG	卒業論文・卒業研究	THE
基礎法学	FUL	言語学	LIN	司書教諭課程	TLP
ジェンダー	GDE	論理学	LOG	世界の言語と文化・言語文化研究	WLC

②水準コード　学士課程４年間におけるそれぞれの科目の位置づけ（学修段階）に基づいて，１桁の数字で表します。科目の配当年次とは異なりますので，３・４年次に水準の低い科目を履修することも，１・２年次に高い水準の科目を履修することもありえます。

水準コード	学　修　段　階
0	転換教育および導入教育を目的とした科目
1	学問分野の初級レベル，入門的位置づけの科目 （主に大学１年次を想定したレベル）
2	学問分野の中級レベル，基礎的位置づけの科目 （主に大学２年次を想定したレベル）
3	学問分野の上級レベル，発展的・応用的位置づけの科目 （主に大学３・４年次を想定したレベル）
4	学士課程で学修する最高水準の科目 （主に４年次を想定したレベル）

③科目開講学部等コード　科目を開講している学部等を２桁の数字で表します。

科目開講学部等コード	科　目　開　講　学　部　等
01	転換・導入，教養，外国語科目
02	資格課程科目
03	ＳＷＰ科目
11	経済学部
12	法学部
13	経営学部
14	商学部
15	文学部
16	ネットワーク情報学部
17	人間科学部
18	国際コミュニケーション学部

３．専修大学の数理・データサイエンス・ＡＩ教育

令和３年に発表された第６期科学技術基本計画では，前期計画で掲げた「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより，経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」である Society 5.0 を現実のものとすることが再提示されました。Society 5.0 で実現する社会とは，IoT （Internet of Things）でモノとモノがつながり，様々な知識や情報が共有され，今までにない新たな価値を生み出すことで，これらの課題や困難を克服するとされています。サイバー空間では，人工知能（ＡＩ）により，必要な情報が必要な時に提供されるようになり，それがフィジカル空間におけるロボットや自動運転技術などで，少子高齢化，地方の過疎化，貧富の格差などの課題が克服されることが期待されています。

フィジカル空間でのロボットなどの技術革新も必要となりますが，Society 5.0 を支えるのはサイバー空間におけるビッグデータの収集と解析，解析結果のフィジカル空間へのフィードバックです。そのため，大学では所属学部の文系理系を問わず，必要とされる数理・データサイエンスの基礎的な素養を持つ人材から高度な技術を持つ専門的な人材まで，様々なレベルに対応した戦略的な人材育成を推進することが必要です。これらの素養や技術を用いて社会の諸課題を解決し，一人ひとりの人間が中心となる社会，すなわち Society 5.0 を実現するという目標は，専修大学の教育目標である「社会知性の開発」にも通じるものです。

専修大学人間科学部では，Ｓｉデータサイエンス教育プログラム（※）として，「情報入門１」「情報入門２」を設置しています。「情報入門１」では情報倫理について理解し，情報機器，ネットワークの基本的な使い方および情報処理の基本的な考え方を学修します。「情報入門２」では，「情報入門１」で修得した内容をさらに発展させ，プログラミングやシミュレーションなどについても学修します。この「情報入門１」と「情報入門２」はいずれも選択科目ではありますが，積極的に受講することを推奨します。

※このプログラムは，本学が標榜する「社会知性（Socio- Intelligence）の開発」の一翼を担うものであり，その目的は，近年急速に進みつつあるビッグデータとＡＩ（人工知能）が駆動する情報化社会を生き抜く力を身につけ，社会の諸課題を解決する手段の一つを養うものです。今後，「専修大学が創り育てる知」のあり方の一つとなります。Ｓｉデータサイエンス教育プログラム開講科目の単位修得者には，数理・データサイエンス・ＡＩに関する基礎的能力を有することを証明（令和６年度より修了証明書を発行予定）します。なお，令和５年度に文部科学省「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）認定制度」の認定を受けており，令和６年度以降に「応用基礎レベル」の申請を計画しています。

４．全学公開科目

⑴　全学公開科目とは

本学では，各学部・学科の教育方針に則して，多様な授業科目を開講している。このうち，「専門科目」は学部別に開講されているため，他学部で開講している専門科目に興味があっても，以前は履修することができなかった。

みなさんの多様な履修希望に応え，他学部で開講されている専門科目を卒業単位として履修できるよう，「学部間相互履修制度」が設けられた。この制度で履修できる科目が「全学公開科目」である。

⑵　公開される科目

各学部で開講する全ての専門科目が公開される訳ではない。どの科目を「全学公開科目」とするか，そして，何年次に配当するかは科目を開講している各学部で定める。

卒業するまでに，どんな科目が「全学公開科目」として履修できるかは，１年次のガイダンスおよびホームページで告知する。

⑶　講義内容

「全学公開科目」の講義内容を知りたい場合は，その科目を公開する学部の講義要項（シラバス）を閲覧する必要がある。各学部の講義要項（シラバス）はホームページで確認できる。

⑷　履修手続

「全学公開科目」は，公開している学部での履修に支障をきたさないよう，履修者数の制限を行うことがある。このため，履修を希望する学生は，その科目担当者の履修許可を得なければならない。

履修手続・選考等の詳細は，ガイダンスおよびホームページで告知する。

⑸　修得した単位の扱い

「全学公開科目」を履修して修得した単位は，卒業要件単位のうち自由選択修得要件単位として認定される。心理学科は22単位，社会学科は20単位まで卒業要件単位に認定される。

５．授業科目の種類

大学で履修する科目は，必ず修得しなければならない科目や多くの科目のなかから自分の学びたいものを自由に選択できる科目など，次のとおり４種類に分類できる。

必　修　科　目……卒業までに必ず修得しなければならない科目（授業科目一覧では○印で示す）
選択必修科目……決められた科目群の中から指定された方式で選択し，卒業までに必ず修得しなければならない科目（授業科目一覧では◎印で示す）
選　択　科　目……適宜選択履修できる科目（授業科目一覧では△印で示す）
必 履 修 科 目……指定された年次に必ず履修しなければならない科目

６．単位制と履修年次指定制

１つの科目の授業を受け，試験に合格する等の成績評価基準を満たすことで，その科目についての「単位」が与えられる。「単位」とは一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるもので，大学で開講している各授業科目には，科目の種類や時間数によってそれぞれ単位数が定められている。大学において学修する場合，すべて単位数によって勉学の達成度が計算され，卒業の可否が決定される。これが単位制である。

また，一部の科目は指定された年次内に単位を修得しなければならない。これを**履修年次指定制**という。所定の年次で単位を修得することが，次の年次における配当科目を登録・履修し得る条件となっている場合もある。履修方法は学科によって幾分ちがいがあるので注意すること。

７．単位の考え方と算定基準

大学の授業は，講義，演習，実験，実習，実技などによって行われる。そして，単位とは，授業の受講に加え，事前の準備や事後の展開という学修の過程に要する時間を加味したもので，学修の量を数字で表した学修成果の指標といえる。なお，単位数は，それぞれの科目により異なる。

大学設置基準において「１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成すること」とされており，大学での２単位の講義科目であれば，授業を含めて90時間の学修が必要とされていることになる。毎週１時限の教室での授業が１学期行われて30時間分の学修をしたものとみなしている。したがって，２単位科目の場合，残りの60時間分を教室外で学修しなければならない。漫然と授業を受けるだけでなく，事前の準備や事後の展開にも力を入れるように心がけてほしい。

みなさんは，まずこの単位制度を充分理解して，学期や学年ごとに配当されている授業科目を計画的に，かつコンスタントに修得していく努力が求められる。

８．オンライン授業による修得単位の上限について

令和２年度から続くコロナ禍において，本学を含む多くの大学では，インターネット等を介して教室以外の場所でも授業を受講することができる「オンライン授業」が取り入れられ，普及してきました。

本学では，卒業の要件として修得すべき単位数のうち，オンライン授業とする授業科目（総授業回数の半数以上をオンラインで行う授業科目）から修得することができる単位数の上限を，専修大学学則（第５条の４第２項）において60単位と定めています。

各授業科目の授業運営方法（対面・オンライン）は，講義要項（シラバス）などに掲載しますが，ガイダンスでのお知らせや，年度ごとに配布する時間割などの資料を確認のうえ，各自でこの上限単位数を踏まえた学修計画を立ててください。

Ⅱ　大学卒業の要件と科目の履修

１．大学卒業の要件

大学を卒業するためには，⑴４年以上（休学の期間を除いて８年以内）在学すること，⑵所定の科目の単位を修得すること，の２要件が必要である。卒業要件を充たした者は，学位記が授与され，心理学科は学士（心理学），社会学科は学士（社会学）の学位が与えられる。

卒業までに最低限修得しなければならない単位を**卒業要件単位**という。「大学設置基準」にその一般的最低基準が示されており，大学の決めた卒業要件単位を修得しなければその大学を卒業することはできない。

本学における人間科学部の卒業要件単位は，各学科とも下記のとおりであるが，内訳条件については第２章「転換・導入科目と教養科目，外国語科目の学び方」および第３章「専門科目の学び方」の各学科の条件を参照のこと。

卒業要件単位

学　　科	卒　業　要　件　単　位					
	転換 導入	教養	外国語	専門	自由 選択	合計
心理	2	8	8	84	22	124
心理（外国人留学生）	2	8	8	84	22	124
社会	6	8	8	82	20	124
社会（外国人留学生）	6	8	8	82	20	124

２．履修計画の立て方

それぞれの個性と志向に応じて，４年間の大学生活全体の大枠を考えたその上で，各年度の具体的な履修計画を立てなくてはならない。

もちろん大学生活全体の大枠を考えると言っても，入学当初から上級年次の選択科目のどれとどれを履修するかというようなことは決めておくことはできない。学修の段階が進むにしたがって何を選択すべきかという判断もできるようになるからである。しかし，各年次でどのくらいずつ単位を修得していったらよいかはあらかじめ考えておく必要がある。この際下級年次で比較的多く，上級年次で少なくなるよう計画するのが賢明である。とくに４年次には卒業論文に取り組み，就職活動をしたりしなくてはならないので，あまり卒業要件単位を残しておかないほうがよい。このように計画することによって上級年次になってから，余裕をもって広い範囲から選択科目を選び，また自主的な学修を深くすすめることができるようになる。

科目の選択に際して，転換・導入科目と教養科目，外国語科目については，第２章の「転換・導入科目と教養科目，外国語科目の学び方」をよく読み，また，専門科目については，学科によって異なるので，第３章の「専門科目の学び方」をよく読んで研究する必要がある。

それでは，履修計画を立てる際の注意事項を次にあげておく。

① 年度はじめに提供されるガイダンス資料を熟読し，シラバスを活用して各自の履修計画をたてる。

② 科目の年次配当を十分考慮し，履修機会を逃さない。
（原則として配当年次以外の履修は認められない。）

③ 各年次ごとに相応の単位を修得する。

④ 必修科目，選択必修科目の単位は必ず指定された年次に修得する。

⑤ 卒業要件単位は，必要な最低修得単位であるから実際にはこれを上回る単位数を履修する計画をたてる。

３．履修上限単位数

人間科学部では，履修できる上限の単位数が定められており，各年次一律に48単位が上限となる。海外語学短期研修及び資格課程科目については，年間履修上限単位数には含めない。また，履修上限単位数には，再履修科目も含める。

４．科目の再履修

配当年次が指定された科目の単位は配当された年次で必ず修得しなければならない。万一やむを得ない理由で必修科目および選択必修科目の単位を修得できなかった場合には，原則として次の年次にそれらの科目を再履修する。ただし，次の年次に進級すると，その年次に配当されている必修

科目や選択必修科目があり，それらと再履修科目が時間割の上で重複し，両方を同時に履修できない場合がある。もし，そのような場合は，まず**再履修科目を優先して履修しなければならない**。したがって必修科目や選択必修科目の再履修は極力さけるように努力しなければならない。

なお，この原則は選択科目にはあてはまらず，もちろん，自らの判断で再履修しても良い。

不明な点は，各学科のカリキュラム委員の教員もしくは教務課の窓口に問い合わせること。

５．履修モデル

専修大学の人間科学部ホームページの各学科のページに，「履修モデル」を掲載しているので，履修の際に参考にすること。ただし，「履修モデル」はあくまで目安として，履修登録をする際には，必ずこの学修ガイドブックに記載されている，自身が所属する学科の「転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧」と「専門科目一覧」で，卒業要件が満たせる計画であることを確認すること。

Ⅲ　科 目 の 履 修 登 録

科目の登録は，各自が考えた履修計画に基づいてその年度の授業科目の単位を修得する意志を表示する手段である。各自，学修ガイドブックおよび年度はじめに行う履修ガイダンスに従って，その年度に履修する科目を選択し，定められた期日までに登録しなければならない。これを本学では履修登録と呼んでいる。次にあげる注意事項をよく確認し，誤りのないよう履修登録を行うこと。

① 所定の期日までに履修登録を行わなかった場合，その年度の授業科目の履修は認められず，単位は修得できない。

② 履修登録手続きに関する各種登録方法や重要事項等については，履修ガイダンスまたはin Campusのライブラリに掲載されるガイダンス資料および人間科学部時間割（冊子・データ）で確認すること。

③ 一部の科目については，抽選や履修者選抜を行う場合があるので，履修ガイダンスまたはin Campusのライブラリに掲載されるガイダンス資料および人間科学部時間割（冊子・データ）で確認すること。

④ 履修登録期間後の科目の変更は原則として認めないので十分検討して登録する。

⑤ 専門ゼミナールＡおよび心理学実験演習１は原則として，履修する前の年の10～11月頃，テーマ，募集人員，選考方法などについてのガイダンスがあり，選考のうえ，各ゼミナールおよび心理学実験演習１の履修者が内定される。

⑥ 同一曜日・同一時限においては，１科目しか登録できない。ただし，前期科目，後期科目のように期間の異なるものは，この限りでない。

⑦ 前年度までに単位を修得した科目は，指定された科目を除いて再度履修することはできない。

⑧ 学年・学科・クラスが指定されている場合は，それに従って科目を履修しなければならない。

⑨ 同じ名称をもつ科目は，指定された特定の科目を除いて２つ以上は履修できない。なお，心理学基礎実験２および心理学実験演習１・２は２時限続きの科目であるため，２時限続けて履修しなくてはならない。

⑩ 必修科目は，指定された年次で必ず履修しなければならない。なお，当該年度に修得できなかった場合は，翌年度必ず再履修しなければならない。

⑪ 履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に，履修中止申請期間内に所定の申請手続きを行うことにより，当該授業科目の履修を中止することができる。（一部の科目を除く）

Ⅳ　試験と成績評価

試験は，日常の学修成果を問うものである。したがって試験には，厳正な態度で臨まなければならない。遅刻はもちろんのこと，自己の健康管理を怠り欠席することのないよう注意しなければならない。

定期試験は，定期試験規程（p.110を参照）に基づいて実施されるので，規程を熟知し，さらに次の事項についても十分理解しておかなければならない。　※実施の時期は変更することがある。

１．試験の種類

⑴　前期試験

前期のみの半期授業科目について７月から８月の間に実施する。

⑵　後期試験

後期のみの半期授業科目および通年の授業科目について１月から２月の間に実施する。

⑶　追試験

前期試験または後期試験をやむを得ない理由で受験できなかった場合，当該授業科目について前期追試験を８月，後期追試験を２月から３月の間に実施する。

なお，本学では，「やむを得ない理由」が拡大解釈されることのないよう，厳しい基準を設けている。医師の診察を要しない程度の病気や寝坊による遅刻等は，「やむを得ない理由」とは見なされないので注意すること。

①　追試験受験手続

追試験の受験希望者は，指定された期間に追試験受験願と，試験欠席理由を証明する書類を教務課人間科学部に提出し，受験許可を得なければならない。

◎追試験受験手続きの手順

1		2		3
指定された手続日に教務課発行の「追試験受験願」「試験欠席理由書」を受け取り，必要事項を記入する。	→	「追試験受験願」「試験欠席理由書」に試験欠席を証明する書類を添えて教務課に提出し，確認と検印を受ける。	→	「追試験受験願控」を受け取り手続完了。

②　やむを得ないと認める試験欠席理由および提出しなければならない書類は，次のとおりである。

・教育実習　　教育実習参加を証明するもの

・就職試験　　就職試験受験を証明するもの

・公式試合	公式試合参加を証明するもの
・天災その他の災害	被災を証明するもの
・二親等以内の危篤又は死亡	危篤又は死亡を証明するもの
・本人の病気又は怪我	医師の診断書
・交通機関の事故	遅延又は事故を証明するもの
・その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項	学部長の承認を得た本人記載の理由書

２．受験上の注意，その他

⑴　受験について

受験上の注意については，定期試験規程にも定められているが，さらに次の点にも十分注意を払う必要がある。

①　同じ名称の授業科目がいくつも開講されている場合があるので，自分の履修した科目の授業曜日・時限および担当者を試験時間割で確認し，間違いのないようにすること。

②　同一科目でも，試験場が複数教室に分かれている場合が多いので十分注意すること。

③　試験監督から配布された答案用紙以外の用紙を使用しないこと。

④　答案用紙の再交付は行わない。

⑤　試験場内での私語は，不正行為と見なされるので絶対にしないこと。

また，廊下等での私語は，受験中の学生の迷惑となるので慎むこと。

⑵　定期試験時間割

定期試験時間は，授業時間とは異なり，原則として60分である。定期試験時間割は，試験実施前にin Campusでお知らせする。ただし，資格課程科目の試験時間割は，教務課資格課程からのお知らせを確認すること。

【注意】

学生証不携帯者は，いかなる理由があっても受験できない。

ただし，当該試験開始時刻までに教務課窓口に申し出た場合は，当日のみ有効の「臨時学生証」の交付（有料）を受けて受験することができる。試験開始時刻前に試験場で学生証不携帯に気づいた場合は，所定の手続をすることにより臨時学生証の交付を認めることがある。

試験当日は，不測の事態に備えて**試験開始30分前には登校**し，**学生証の携帯**と試験場を必ず確認すること。

なお，遅刻をした場合に受験が認められるのは，試験開始後20分までに試験場に到着した場合である。

３．定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価

科目によっては平常点で成績評価が行われるため，前期試験，後期試験は実施されず，したがって追試験も実施されないものがある。

平常点で評価される科目の場合，各科目の授業期間を通しての，授業への貢献度や授業での発表内容，レポート，授業の中で実施されるテスト等（注１）によって総合的に成績評価が行われる。

注１）授業の中で実施されるテストは，期末テスト，授業内テスト，中間テスト，小テスト等と呼ばれ，定期試験規程に定められた試験ではないため，追試験は実施されない。

ただし，これらのテストのうち，授業期間の最終週に実施されるものの中には，授業科目担当教員の判断によって，定期試験規程を準用して実施する場合もあり，その授業科目については，追試験が実施される（追試験を受験するためには，前述の追試験受験手続をとり，受験許可を得ることが必要になる）。

４．卒業論文

卒業論文は，必修科目になっている。卒業論文は４年次で提出し，その審査に合格しなければならない。卒業論文は，専門的かつ自主的な研究の中核であり，指導教員の指導を受け，その指導による学修の成果として提出するものである。

⑴　論　文　提　出

提出締切日は 12 月中旬とする。日時・場所など詳細についてはお知らせを確認し，期限を厳守すること。

⑵　論文の規格

学科ごとに規格・様式等が定められているので，詳細については学科の指示に従うこと。

⑶　提出時に携行すべきもの

学生証，卒業論文題目届（題目届，論文の題目及び中表紙は完全に一致していることが必要である。）

⑷　口　述　試　験

１月中旬～１月下旬

欠席すると単位は与えられない。この期間はスケジュールを空けておくこと。

５．成績評価と通知

⑴　成績評価の方法について

学業成績は，授業科目ごとに行う試験（筆記試験，口述試験，実技試験またはレポート）によって評価されるが，科目によっては，それに学修の状況等を平常点として加味し評価する場合や，平

常点だけで評価する場合もある。

成績評価は，100点を満点とし，60点以上を合格とする。また，授業科目ごとの成績に対してグレードポイント（ＧＰ）を付与し，ＧＰＡ（Grade Point Average）を算出する。

⑵　成績評価の区分

評　点	評　価	ＧＰ※	内容
100～90	S	4.0	抜群に優れた成績
89～85	A＋	3.5	特に優れた成績
84～80	A	3.0	優れた成績
79～75	B＋	2.5	良好な水準に達していると認められる成績
74～70	B	2.0	妥当と認められる成績
69～65	C＋	1.5	一応の水準に達していると認められる成績
64～60	C	1.0	合格と認められるが最低限度の成績
59～0	F	0.0	不合格
認定	N	なし	留学等で修得した単位を本学の単位として認定。GPA に算入しない。
履修中止	W	－	所定の期日までに履修中止の手続きを行った場合。GPA に算入しない。

※ＧＰ＝グレードポイント

⑶　ＧＰＡ（Grade Point Average）制度について

ＧＰＡ制度は，国内外の大学で一般的な成績評価方法として使用されているもので，授業科目ごとの成績評価（本学ではＳからＦの８段階）に対してグレードポイント（ＧＰ）を付与し，この単位当たりの平均を算出した値がＧＰＡである。具体的な算出方法は次のとおり。

$$\frac{(\text{Sの修得単位数}\times 4.0)+(\text{A＋の修得単位数}\times 3.5)+(\text{Aの修得単位数}\times 3.0)+(\text{B＋の修得単位数}\times 2.5)+(\text{Bの修得単位数}\times 2.0)+(\text{C＋の修得単位数}\times 1.5)+(\text{Cの修得単位数}\times 1.0)+(\text{Fの単位数}\times 0.0)}{\text{総履修単位数（F評価の授業科目の単位数を含む）}}$$

【ＧＰＡに関する各種要件】

・ＧＰＡの算出対象となる科目は，卒業要件にかかわる科目（全学公開科目など，自由選択修得要件単位となる科目を含む）とする。

・留学等で単位認定された科目（N）は，ＧＰＡに算入されない。また，履修中止した科目についても，ＧＰＡに算入されない。

・不合格（F）の科目を再度履修した場合，成績の合否にかかわらず，ＧＰＡには最新の評価が反映される。

・ＧＰＡは，小数点第３位を四捨五入し，小数点第２位まで表示とする。

・一度単位を修得した科目を，次学期以降に再度履修することはできない。

⑷　履修中止について

「履修中止」とは，履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に，履修中止申請期間に所定の手続きを行うことにより，当該授業科目の履修を中止することができる制度である。履修中止申請期間は，前期（対象科目：前期および通年科目）と後期（対象科目：後期科目）にそれぞれ設定される。日程，手続方法，その他詳細については，お知らせを確認すること。

なお，履修中止申請をする際には，以下の点に注意すること。

①履修中止した授業科目については，当該授業への出席，定期試験の受験，単位の修得はできない。

②履修中止した授業科目の単位は，年間の履修上限単位に含まれる。また，履修中止単位数分の新たな履修登録は認めない。

③履修中止した授業科目は，ＧＰＡに算入されない。

④履修中止により，当該年度の履修登録科目がなくなる場合は，履修中止申請が認められない。

⑤履修中止申請した授業科目について，履修中止申請期間後に申請を取り下げることはできない。

⑸　成績通知について

学業成績の結果は点数で表し，９月（前期科目）および３月に「成績通知書」にて通知する。成績通知書は，大学のホームページを経由して閲覧することができる。

なお，就職活動等で使用することになる「単位修得学業成績証明書」には，修得した授業科目のみをＳからＣの評価で記載する。併せて，通算のＧＰＡを記載する（ＧＰＡには不合格科目も算入される）。

※資格試験，留学などの結果により単位を認定する科目もある。この場合，認定される科目の評価は，点数などで表さず，すべて「Ｎ」と記載する。

V　卒　　業

1．卒業見込証明書の発行

４年次は多くの学生にとって忙しい１年になる。卒業論文などで大学生活の総まとめをすると同時に，将来を考えて就職活動にも時間をさかなければならなくなるからである。就職活動に際し必要となる書類の１つに**卒業見込証明書**がある。これは，各自が３年次までに修得すべき最低限の単位をすでに修得し，４年次の年度末には卒業する見込みであることを証明する書類である。企業は，採用の適否を判断する資料の１つとしてしばしば卒業見込証明書の提出を要求するので，３年次までにしかるべき卒業要件単位を修得し，大学からこの証明書を交付してもらい，それを企業などに提出しなければならない。以下に表示する卒業見込証明書の発行条件を念頭におき，万全を期して履修計画を立て，勉学に精進してほしい。

卒業見込証明書の発行条件

発行年次	発行条件
4　年　次	３年次終了時に卒業要件単位を90単位以上修得していること。

2．卒業発表

⑴　卒業が決定した学生については，２月下旬に第１次卒業決定者としてホームページで発表する。

⑵　２月下旬に行われる追試験の結果，卒業が決定した学生については，３月中旬に第２次卒業決定者として，ホームページで発表する。

⑶　卒業の可否は，ホームページおよび成績通知書を確認すること。電話での問い合せには一切応じない。

第２章

転換・導入科目と教養科目，外国語科目の学び方

Ⅰ　転換・導入科目

Ⅱ　教養科目

Ⅲ　外国語科目

Ⅳ　外国人留学生の特例履修科目

Ⅰ　転換・導入科目

大学における学修では，高校までとは異なり，授業に出席して講義を聴くことや，教科書や参考文献などの基礎文献を読むことに加え，みなさんが，自らの問題関心や勉学の目的に沿って，自主的に勉強に取り組まなければなりません。そのためには，図書館を利用し，パソコンを駆使するなどして，勉学に必要な資料を収集すること，専攻によっては実態調査などのフィールドワークを行うこと，そして自ら学んだ内容をまとめて教員や他の学生に報告すること，その成果を論文やレポートにまとめることなど，みなさんの積極的な勉学が求められます。

転換・導入科目は，大学で学ぶための基本的な技法（アカデミックスキル）を身につける「専修大学入門科目」に加え，専門科目への導入としての役割を持つ「専門入門ゼミナール」を学ぶことで，アカデミックスキルを定着させます。さらに，大学，そして社会で求められる知識や技能・能力を伸ばし，教養科目，外国語科目，専門科目を学ぶための基本的な力を養う科目が置かれています。その力とは，情報を分析し活用する力（情報リテラシー科目），自分の将来を切り開いていく力（キャリア基礎科目），複合的な視点で観察し思考する力（基礎自然科学），自分の健康を維持管理する力（保健体育基礎科目）です。これらは基礎となる科目ですから，１年次に履修することになります。

ここに設置されている科目を学ぶことで，みなさんはアカデミックスキルを修得しつつ，情報化・複雑化が進む社会で活躍するために必要とされるさまざまな力を伸ばすことができ，社会知性を身につけるのに役立つことでしょう。

（1）専修大学入門科目

「専修大学入門科目」には，**専修大学入門ゼミナール**が設置されています。この科目は，みなさんが，高校生活から大学生活への転換を図り，専修大学の学生としての自覚を持ち，大学での学修に求められる基本的なスキル（技法）を身につけることが目標であり，具体的な目的として，以下の点をあげることができます。

第１に，大学で学ぶことの意味を充分理解することです。大学の学修では，みなさんが，将来的な展望も踏まえ，積極的に学修を深めることが求められます。

第２に，専修大学の学生としての自覚を持つために，専修大学の歴史を学ぶことです。みなさんが，これから４年間勉学に励む「学びの庭」である専修大学の成り立ちと歴史を支えた先人たちの努力の歩みを知ることは，専修大学で学修することの意義を理解することでもあります。

第３に，アカデミックスキルを修得することです。すなわち「講義をどのように聞くか」「どのように資料を収集するか」「学修の成果をどのように相手に伝えるか」「どのように討論するか」「学修の成果をどのようにまとめるか」について学ぶこと，より具体的には「講義でのノートのとり

方」「資料の収集方法」「報告の方法（レジュメの作成方法）」「討論の方法」「論文・レポートの書き方」など，大学における学修の方法を修得することです。

専修大学入門ゼミナールは，みなさんが，これらの目的を達成できるよう，おおよそ１クラス25名前後の少人数により実施されます。

また，**専修大学入門ゼミナール**は，学修のための入門科目ということだけにとどまらず，みなさんが，新入生として専修大学という同じ「学びの庭」に集った友人や教員との交流を通じて，大いに語り，励まし合いながら，大学生活を満喫するための基礎作りの場ともなります。

なお，心理学科において**専修大学入門ゼミナール**は，単位の修得は義務づけられていませんが，必ず履修しなければならない「必履修」科目です。単位を修得できなかった場合でも，次年度に履修することはできません。

（２）専門入門ゼミナール

専門入門ゼミナールは２年次以降学ぶ専門科目への導入的な役割を担っています。それぞれの学科で専門的に学ぶ学問には特有の考え方や研究の仕方があります。どのように文献を読み，どのように分析し，どのように研究したことを形にするかという一連の研究方法の基礎を学んでいきます。

この科目は，社会学科に設置されている必修科目です。

（３）キャリア基礎科目

「キャリア基礎科目」は，「大学生活において，さまざまな選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動する力を身につけること」を目的としています。大学生活をどのように送るか，卒業後の進路をどのように選択するかといったことは誰も簡単に決めることはできません。これを解決するには，将来どのような働き方をしたいか，そのために大学４年間をいかに過ごすかなど，自分のキャリアについてさまざまな視点から検討し，デザインすることが必要です。

そもそも，「キャリア（career）」の語源はラテン語で，「車道」や「車輪の跡（轍）」などを意味しています。ですから，ある人のキャリアとは，その人が歩んできた人生の軌跡ということになります。こうした語源から，キャリアは「個人のさまざまな立場・役割・職務の連鎖」と一般に定義されています。一方，「デザイン」は，「設計」とか「構想」を指します。したがって，キャリアをデザインするとは，「自分の立場や役割を認識し，それにふさわしい己の有り様について構想を練る」ということになります。言い換えれば，過去の人生を踏まえながら，未来の自分の生き方，働き方や学び方について深く考え，そのために現在自分は何をすべきかを認識すること，となります。

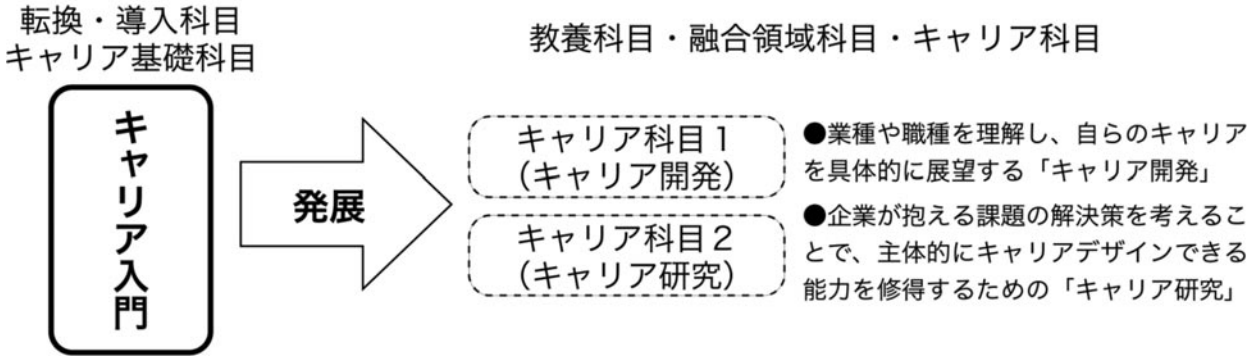
１年次にキャリアデザインに対する基本的な考え方を身につけることで，将来に対する漠然とした不安感を取り除き，自分の将来像や課題をより具体的にしていきます。そしてそれを解決・実現するために自分が身につけるべき能力を明確にし，充実した学生生活に向けた具体的な第一歩を踏み出すこともこの科目のねらいのひとつです。

キャリア基礎科目に設置される**キャリア入門**は，自分の性格や価値観を知ることから始め，社会の成り立ちや具体的な仕事の内容，働くことにまつわる法律などを知ること，さらには自分の目標を実現するためにはどのような能力が必要かなどについて理解することが，主な目的です。そして，その後の学生生活において，どのように専門知識を学んでいけばいいかといった「大学内での学習」と，ボランティアやインターンシップなど実際の経験を積み重ねる「大学外での学習」を総合的に組み立てることができるようになります。

授業では一方的に話を聴くのではなく，自分の言葉で語る機会を大切にしています。授業で学んだ知識をグループワークなどで表現し，先生や仲間，大学外からのゲストスピーカーから意見をもらうことで，自分の考えを客観的に見つめ，少しずつキャリアに関する視点を身につけていくことができます。さらに，授業で取り扱ったことについて発展的に学習できるよう，キャリアデザインセンターでは各種講座を授業の進捗に合わせて展開しています。これに加え，授業期間中にキャリアカウンセリングを受けると，よりいっそう自分に適したキャリアを見つけられるでしょう。

このように**キャリア入門**を受講すると，キャリアに関わる意識や能力がどの程度身についたか認識できるようになり，大学内外での学びを意識しながら，キャリアに対する知識を獲得し，職業選択の段階へとスムーズに移行することが可能になります。あるべき自分を早い段階で意識し，己の進むべき道を主体的に選択できるよう，キャリアの考え方をしっかり修得してください。

なお，**キャリア入門**は，１年次の選択科目です。１年次に履修しなかったり，履修して単位を修得できなかった場合でも，次年度以降に履修することはできません。



（４）情報リテラシー科目

大学での学修は，単に知識を覚えるのではなく，なぜそうなるのかを自分で考えることが必要です。そのためには，自分でデータを分析し，表現することが必要になります。そのため情報リテラシー科目では，PC 等の情報技術を使って科学的・論理的な思考をするのに必要な基礎的な事項を学修します。

「情報リテラシー科目」として設置される**情報入門１**，**情報入門２**では，専修大学から利用できるさまざまな知的資源の検索・収集方法を学修し，表計算ソフトウエア等を使って情報を加工・分析します。また，統計データを実際に PC を使って分析します。分析結果などをプレゼンテーショ

ンやWebを通して表現する能力を身につけます。さらに，コンピュータ処理の特徴を理解し，どのようにコンピュータに指示を与えるのかを学修します。詳しくは，専修大学　情報入門で検索してください。テキストなどを参照できます。

なお，**情報入門１**，**情報入門２**は１年次の選択科目です。１年次に履修しなかったり，履修して単位を修得できなかった場合でも，次年度以降に履修することはできません。

情報入門１の学修内容	情報入門２の学修内容
●専修大学の情報システムの利用法 ●情報倫理についての理解 ●検索サイトや CiNii などのデータベースを使ったデータ検索 ●文書作成 ●表計算 ➢データ分析 ➢計算式によるデータ分析 ➢グラフによる可視化 ➢絶対参照・相対参照の概念 ➢統計資料を使った分析	●プレゼンテーションソフトウエアによるスライド作成・表現法の学修 ●表計算ソフトウエアを使った高度な処理 ●HTML 文を記述することによるWeb（ホームページ）の作成 ●アンケート集計（クロス集計など） ●プログラミング（どのようにコンピュータへ処理方法の指示を与えるか） ●シミュレーション

（５）基礎自然科学

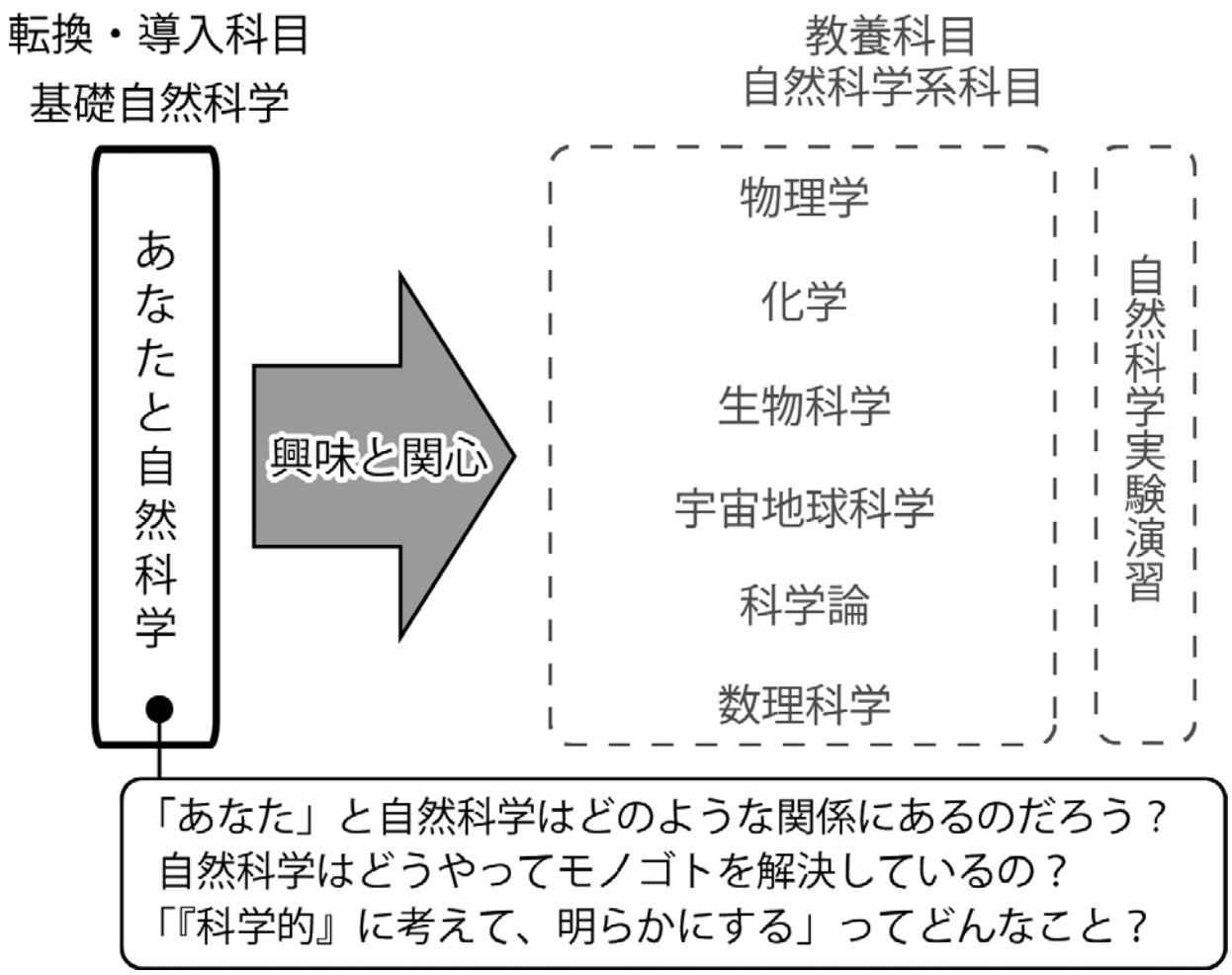
専修大学における自然科学系の講義は，みなさんが『社会の抱える諸問題に対する総合的な科学的思考力を育むことができるようなること』を目的としています。なぜ文科系の学部を専攻するみなさんが，自然科学系科目を受講する必要があるのでしょう。

現在，私たちは，地球温暖化，エネルギー問題，安全性や倫理性に関する問題（遺伝子操作，放射能など）に直面しています。みなさんが，将来どのような職業に就いたとしても，自然科学的な考え方や知識，結論の根拠を自分で判断する力や科学的に論述する力は必要になるでしょう。

「基礎自然科学」に設置された科目である**あなたと自然科学**は，みなさんの自然科学的な思考力・探究力・論述力を高め，みなさんと自然科学の関係を知るための導入として設置されます。ここで学んだことは，卒業までに学んでいく教養科目の自然科学系科目につながっていきます。この科目で興味・関心を深め，教養科目で学びたい自然科学の分野を見つけるのが良いでしょう。

なお，社会学科では**あなたと自然科学**は，単位の修得は義務づけられていませんが，１年次に必ず履修しなければならない「必履修」科目です。単位を修得できなかった場合でも，次年度に履修することはできません。

心理学科では１年次の選択科目です。１年次に履修しなかったり，履修して単位を修得できなかった場合でも，次年度以降に履修することはできません。



（6）保健体育基礎科目

スポーツリテラシーを学ぶ

スポーツリテラシーとは，「スポーツ実践を通じて，その過程における経験をスポーツ文化に関する知を活用しながら分析・鑑賞・評価し，スポーツによるコミュニケーションを創り出す能力」を言います。「保健体育基礎科目」の**スポーツリテラシー**では，スポーツが有するさまざまな可能性に触れて身体知を養い，スポーツを通じた学士力の養成と心身の健康の維持増進に取り組みます。また，共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践し，スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養います。

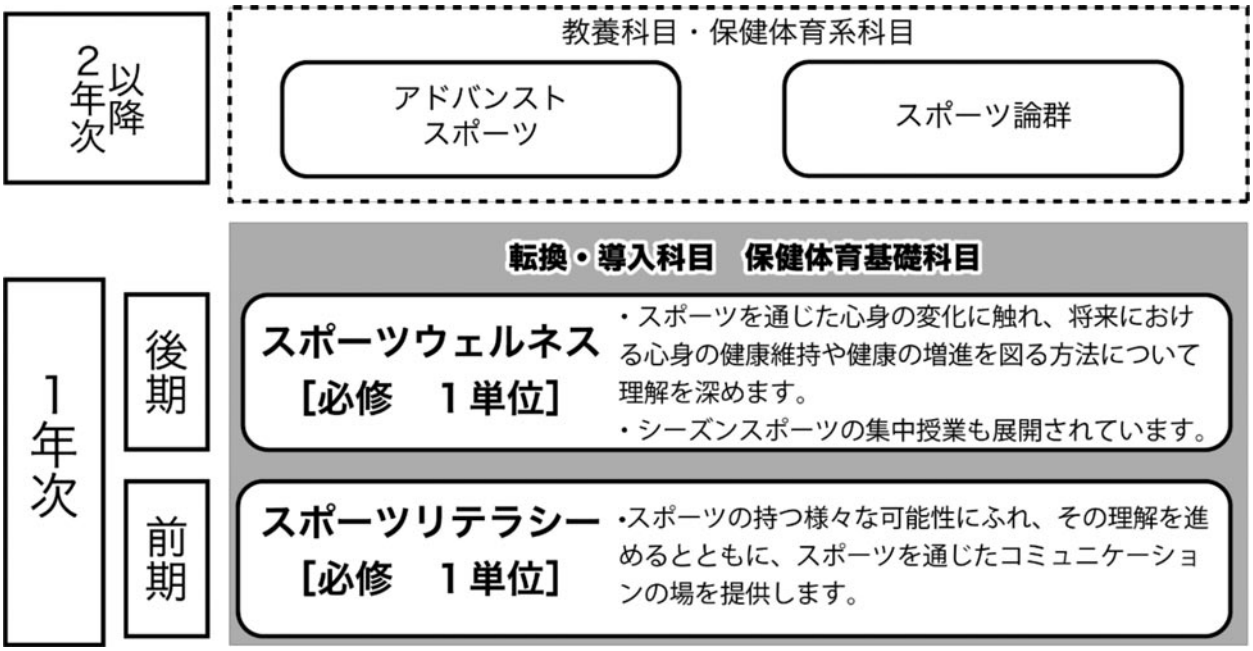
スポーツリテラシーでの取り組みは，同じ保健体育基礎科目の**スポーツウェルネス**や教養科目・保健体育系科目の**アドバンストスポーツ**での実践的な身体活動や**スポーツ論**で学ぶスポーツが有する多角的な価値の理解につながっていきます。

スポーツウェルネスを学ぶ

スポーツウェルネスとは，「スポーツ実践を通じて，積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことを言います。「保健体育基礎科目」の**スポーツウェルネス**では，スポー

ツを通じた身体活動が，健康なライフスタイルの創造に貢献することを体感し，「学びの力」の土台となる心身の健康の維持増進を果たすとともに，将来における健康面の課題を解決するための運動習慣の醸成を図ります。

転換・導入科目の保健体育基礎科目**スポーツリテラシー**（１単位）と**スポーツウェルネス**（１単位）の計２単位の修得が卒業要件となっています。



注意事項

◎**スポーツリテラシー**と**スポーツウェルネス**を履修する際は，事前に健康診断を受ける必要があります。２年次以降に再履修する場合も同様です。

◎同一年度に**スポーツリテラシー**と**スポーツウェルネス**の同一種目を履修することはできません。ただし，**スポーツリテラシー（ゴルフ）**と**スポーツウェルネス（集中授業ゴルフ）**の履修は可能です。

◎疾病，身体虚弱および肢体不自由など，運動を制限されている場合は，教務課教養・体育窓口もしくは第１回目の授業時に申し出てください。

◎個々の科目内容については，講義要項（シラバス）を参照してください。

◎転換・導入科目の必修科目として開講されていますので，１年次に単位を修得できなかった場合，２年次以降に再履修しなければなりません。

◎２年次以降から，教養科目・保健体育系科目の**アドバンストスポーツ**と**スポーツ論**が履修できます。

◎２年次以降の**アドバンストスポーツ**は，**スポーツリテラシー**と**スポーツウェルネス**の単位を修得した場合に履修できます。

◎再履修として履修する場合は，同一期間（前期または後期）の同じ曜日に**スポーツリテラシー**と**スポーツウェルネス**の２科目を履修することはできません。

Ⅱ　教養科目

教養科目の位置づけと目的

教養科目は専門科目と併せて，転換・導入科目で身につけた基本的な力を用いて，さらに知識を広げ，それぞれの分野の理解をいっそう深めることを目的としています。また，専門科目で展開される科目を別の視点から捉えることができるようになることも大きな目的です。教養科目は専門科目とともに専修大学の学士課程教育の大きな柱となっています。

教養科目を学ぶ意義

現代社会には情報があふれ，ストレスも多くなっています。このような時代には，バランスの取れた人間性を涵養することがますます重要になってきます。文化や社会，身体や自然への知識と理解，またそこから得られる国際的な広い視点は，複雑な社会で生きるための基礎となります。

教養科目の学び方

教養科目のうち，「人文科学基礎科目」と「社会科学基礎科目」は，１・２年次で履修します。科目ナンバリング，講義要項（シラバス）を参考にしながら，自分の学部・学科の専門性を考慮して，履修することが望まれます。「自然科学系科目」と「保健体育系科目」は，講義要項（シラバス）の配当学部・配当年次に従って履修します。「融合領域科目」は，２・３・４年次で履修します。

自然科学系科目と保健体育系科目については，転換・導入科目で展開されている科目において，入門的な内容や科目の大きな目標・目的を学んでいます。それらを基礎とし，さらなる学修によって，これらの分野をより深く理解することができます。

（1）人文科学基礎科目

人文科学基礎科目を学ぶ意義と目的

人文科学の領域にはさまざまな学問が含まれています。本学においては別表に示すように，大きい枠組みでは，文学・歴史学・哲学・芸術学・文化人類学・ジャーナリズム学・心理学に分かれています。これらの学問はさらに細かい分野に分けられているので，みなさんは多種多様な領域を持つ人文科学に驚くかもしれません。では，これらの学問分野はどうして人文科学としてひとくくりにまとめられているのでしょうか。それは，これらの学問がいずれも，人間の行い，これまで人間がやってきたことにかかわっているからです。人文科学は，具体的で個別的でもある人間のさまざまな営みを研究対象とし，そこから人間というものがどういう生き物であるのかを理解しようとする，そのような領域です。そして，人間の営みはさまざまですから，それに応じて多種多様な学問が生まれるのです。

人文科学の領域からは複数の科目を履修してみることを推奨します。そうすることによって，さ

まざまな人間観や世界観，歴史，多文化，異文化についての関心を広げること，そして，多面的なものの見方に立ち，日常生活での人間性に関わる諸問題の解決に取り組むことができるようになります。ここに人文科学領域の，単なる知識にはとどまらない最大の面白さがあり，これらの科目を学ぶ目的があります。

人文科学基礎科目の学び方

・人文科学基礎科目は，１・２年次に履修します。
・科目名が同じでも，担当する教員が異なる場合，扱う内容が異なることもあります。しかし，その場合でもその科目の目標は同じです。
・個々の科目内容については，講義要項（シラバス）を参照してください。
・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方，人間の営みのさまざまな側面を知り，自分とは違った観点をもつことができるようになるためには，一見すると関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは，学びを深める上での基本です。したがって，どの学科に所属していても，複数の学問領域から履修することが望まれます。

人文科学の学問領域と人文科学基礎科目の設置科目

人文科学の学問領域	人文科学基礎科目の設置科目
文　　学	日本の文化 日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待
歴　史　学	歴史の視点 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化
哲　　学	哲学 倫理学 論理学入門 ことばと論理
芸　術　学	芸術学入門
文化人類学	異文化理解の人類学
ジャーナリズム学	ジャーナリズムと現代
心　理　学	基礎心理学入門（心理学科を除く） 応用心理学入門（心理学科を除く）

（2）社会科学基礎科目

社会科学基礎科目を学ぶ意義と目的

人びとは何らかの社会的な組織や集団（企業，国家，家族，地域など）の一員として生きています。何気ないふるまいや考え抜いた選択も，自分自身から一歩離れて観察すると，社会的な組織や集団，各種制度の影響をうけていることに気付きます。社会科学とは，社会を構成する組織や集団，制度の内容を知り，それぞれがどのような影響を与えあっているのかを理解することで知識を深めることができます。

自分が生きている社会ですから，理解できていると思い込んでしまったり，先入観にとらわれて誤認したりすることもあります。それを防ぐには，「自分自身から一歩離れて観察する視点」（＝客観的な基準）が重要です。しかし，この視点は唯一無二のものが存在するわけではありません。多様な視点があり，学問領域によって異なる基準が用意されています。この点を踏まえ，社会科学基礎科目では，学問領域ごとに得意としている社会の観察眼を学べるよう，そして，多面的なものの見方に立って，一市民として，社会生活上の諸課題の解決に取り組むことができるよう，表にあるような科目を設置しています。

社会科学基礎科目の学び方

・社会科学基礎科目は，１・２年次に履修します。
・開講されている科目で扱う具体的な内容については，講義要項（シラバス）で確認してください。
・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方，固定観念に縛られずに社会で生じている出来事や課題への観察眼を養うことも大切で，そのためには，一見すると関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは，学びを深める上での基本です。したがって，どの学科に所属していても，複数の学問領域から履修することが望まれます。

社会科学の学問領域と社会科学基礎科目の設置科目

社会科学の学問領域	社会科学基礎科目の設置科目
社会科学全般	社会科学論 社会思想
経済学	経済と社会 現代の経済
法学	日本国憲法 法と社会
政治学	政治学入門 政治の世界
経営学	はじめての経営
商学	マーケティングベーシックス 企業と会計
教育学	教育学入門 子どもと社会の教育学
地理学	地理学への招待
社会学	社会学入門（社会学科を除く） 現代の社会学（社会学科を除く）
情報学	情報社会

（3）自然科学系科目

自然科学系科目を学ぶ意義と目的

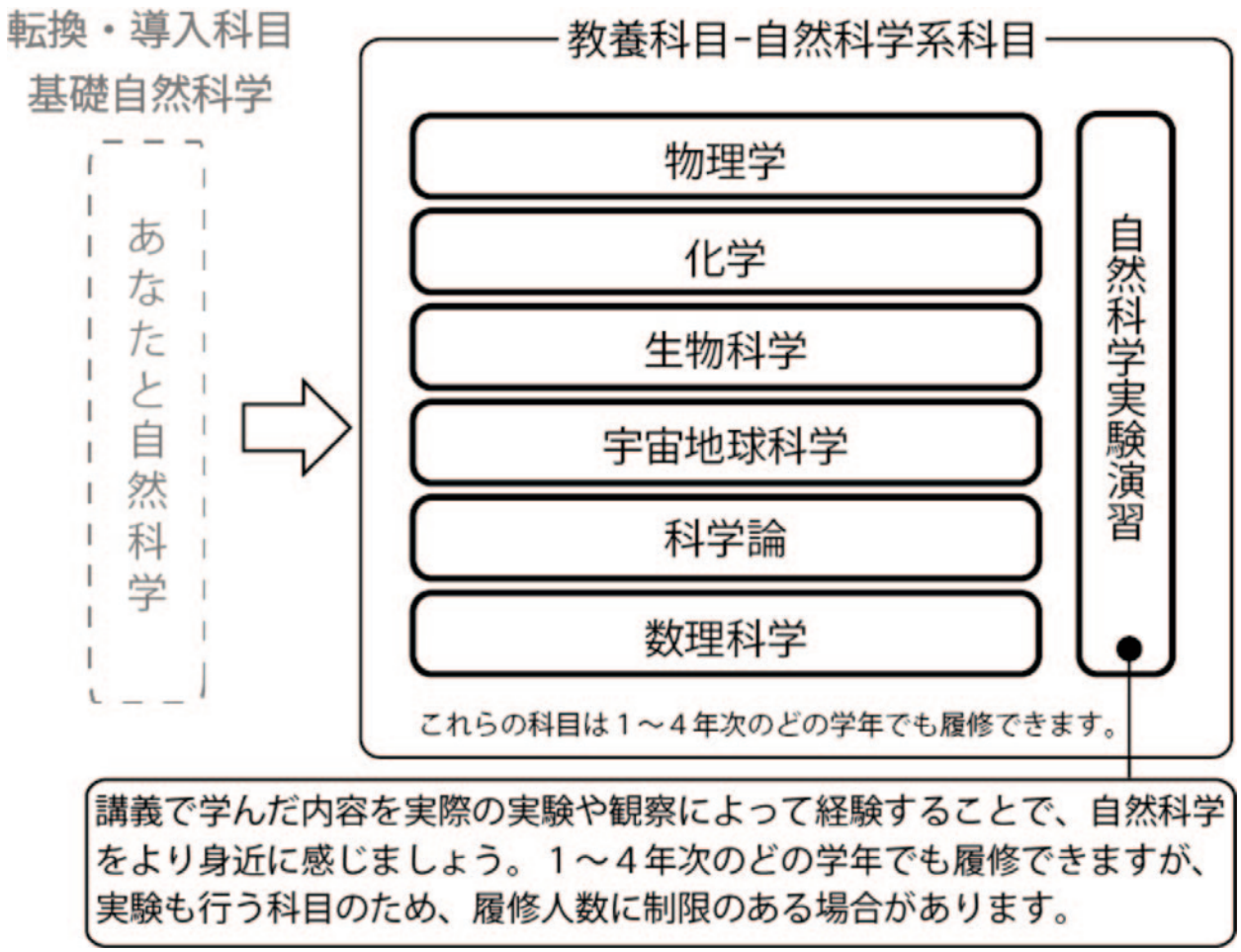
「自然科学系科目」として，**物理学**，**化学**，**生物科学**，**宇宙地球科学**，**科学論**，**数理科学**および**自然科学実験演習**が設置されています。転換・導入科目「基礎自然科学」の**あなたと自然科学**でその一端に触れた科学的思考力をそれぞれの科目を通じて深化させます。

そのために次のような目的で科目を設置しています。

①自然や物質の成り立ちと人間の存在に関する普遍的な原理の理解：現在では，宇宙の創成から人類の誕生に至るまでの科学的な理解が進んでいます。「地球に生きる私たち」という位置づけができる力を養います。

②現代社会を生き抜くための多角的な視野の形成：人文・社会科学系の学問と異なる，実験や観察に基づいたアプローチをする自然科学的な発想や視点を身につけ，客観的な思考力を養います。

③現代社会が抱える課題を解決する能力の育成：科学技術の著しい発展は，人類に恩恵をもたらす一方で環境問題や遺伝子操作などの数々の問題も生み出してきました。これらの問題に対する適切な判断力や深く広い生命観を培います。



自然科学系科目の学び方

それぞれの自然科学系科目が扱う内容に関する代表的なキーワードは，次の表のとおりです。「物質」や「環境」,「宇宙」といった広いテーマに関連するキーワードは，複数の科目に含まれていることが分かります。各自の学修目的に合わせて履修科目を選択してください。

科目名	それぞれの科目が扱う内容を表す代表的なキーワード
生物科学１ａ・１ｂ	細胞，遺伝子，DNA
生物科学２ａ・２ｂ	生物と環境の科学，生態学，進化学
生物科学３ａ・３ｂ	ホメオスタシス，脳・神経，内分泌，感覚，細胞
宇宙地球科学１ａ・１ｂ	恒星，銀河，太陽系，天体の運動，天体の観測
宇宙地球科学２ａ・２ｂ	プレートテクトニクス，地震，火山，地球史，環境変動
化学１ａ・１ｂ	物質の理解，ものつくりの基本，元素と周期表，物質の多様性，生体関連物質
化学２ａ・２ｂ	エネルギー資源，自然環境，リサイクル，有機化合物，生体分子
物理学１ａ・１ｂ	力学，波動，量子論，電磁気学
物理学２ａ・２ｂ	現代物理，宇宙論，相対論，素粒子論，統計熱力学
数理科学１ａ・１ｂ	代数
数理科学２ａ・２ｂ	解析・幾何
数理科学３ａ・３ｂ	統計
科学論１ａ・１ｂ	進化論，大きすぎて見えないもの，小さすぎて見えないもの
科学論２ａ・２ｂ	科学と技術，科学史，人間と科学

・興味のあるキーワードを中心に関連する科目を履修するのも一つの方法です。

㊀ 「環境」に興味がある→宇宙地球科学２ａ・２ｂと生物科学２ａ・２ｂ，および化学２ａ・２ｂを履修する。

㊀「宇宙」に興味がある→宇宙地球科学１ａ・１ｂと物理学２ａ・２ｂを履修する。

㊀分野を超えて幅広く，そして深く履修する。→数理科学で「数学」を学び，この知識を生物科学２ａ・２ｂの「生態学」の学修に活かす。

・「○○１ａ」など番号＋アルファベットまでが科目名です。「○○１ａ」と「○○１ｂ」は別科目です。

・「○○１ａ」,「○○２ａ」,「○○３ａ」は科目のテーマ・内容を区別する番号であり，難易度を意味するものではありません。「○○３ａ」から履修しても構いません。

・いずれの科目も，年次に関わらず自由に履修することができます。ただし，教室定員によっては履修者を抽選で決定することがあります。

・開講されている科目で扱う具体的な内容については，講義要項（シラバス）で確認してください。

・科目名が同じでも，担当する教員が異なる場合，扱う内容が異なることもあります。

（４）融合領域科目

融合領域科目を学ぶ意義と目的

「融合領域科目」は，各学部における専門科目とは異なり学際的なテーマを扱います。また一つのテーマについて多方面からのアプローチが存在することをみなさんに示しながら，どんな社会現象や自然現象にも複数の側面（多面性）があり，それらの間に複雑な関係性があることを理解させ，みなさんの思考力に総合的な分析力や判断力が加わることを主な目的としています。

融合領域科目に設置される科目	科目の目的や内容
学際科目	学際的なテーマを扱い，原則として複数の教員やゲストスピーカーが共同で講義を行います。広い視野からの多面的・学際的な検討により，総合的な判断力を育成します。
テーマ科目	新しく注目を集めている学問領域やテーマについて深く掘り下げて講義します。
新領域科目	学際科目やテーマ科目が扱うような特定の学問領域に属さない特殊領域の科目に対応し，講義します。
キャリア科目	業種や職種を理解し，自らのキャリアを具体的に展望することを目的とした**キャリア科目１（キャリア開発）**と，企業が抱える課題の解決策を考えることで，主体的にキャリアデザインできる能力を修得する**キャリア科目２（キャリア研究）**により構成されています。転換・導入科目の**キャリア入門**を基礎として，より進んだキャリア形成を目指します。
教養テーマゼミナール	少人数の相互コミュニケーションによるゼミナール形式の科目です。担当教員の専門分野に関連したテーマを設定し，発表・討論を中心に進め，深く研究を行います。
教養テーマゼミナール論文	同じ担当教員の**教養テーマゼミナール**を２年間以上履修する場合に履修することができます。設定したテーマについて深く研究し，論文を作成します。

融合領域科目の学び方

・融合領域科目は，２・３・４年次に履修します。

・開講されている科目で扱う具体的な内容については，講義要項（シラバス）で確認してください。

注意事項

◎**教養テーマゼミナール**は１・２・３に区分され，１は２年次，２は３年次，３は４年次配当の科目です。連続して同じ教員が担当する**教養テーマゼミナール**を履修することもできますし，年度毎に別の教員が担当する**教養テーマゼミナール**を履修することもできます。

◎同一年度に**教養テーマゼミナール**と専門科目のゼミナールを履修できます。

◎同一教員の**教養テーマゼミナール**を２年間以上履修する場合，**教養テーマゼミナール論文**を履修することが可能です。

◎**教養テーマゼミナール**は，毎年 11 月頃，次年度の履修者の募集を行います。募集要項は教務課で配付します。

（５）保健体育系科目

２年次以降，教養科目「保健体育系科目」のアドバンストスポーツとスポーツ論が履修できます。

アドバンストスポーツを学ぶ

アドバンストスポーツでは，スポーツを専門的レベルから学びます。対象スポーツにおける幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともに，トップアスリートとの交流，審判法やマッチメイク等のマネジメントについての学習などにより，スポーツをライフスタイルの中に取り込み，生涯にわたり身体的，精神的，社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につけることを目的にしています。

スポーツ論を学ぶ

スポーツ論は理論科目です。スポーツが有する多角的な価値について，社会科学，自然科学，人文科学などの視点から学び，世界共通の人類の文化であるスポーツに関する教養を深めるとともに，在学時および卒業後において日常的にスポーツに親しみ，スポーツを通じて地域社会と積極的に関わりながら心身の健全な発達，明るく豊かな生活の形成に繋げることのできる能力の醸成を目指します。

2年次以降

教養科目　保健体育系科目

アドバンストスポーツ
半期２単位

・「スポーツリテラシー」と「スポーツウェルネス」の２科目２単位を修得した場合に履修できる科目です。
・「する・見る・支える」スポーツの楽しさを広げ、スポーツをライフスタイルに取り入れていけるようなスキルを身につけます。
・シーズンスポーツの集中授業も展開されています。

スポーツ論
半期２単位

・スポーツ論は理論科目です。
・スポーツを様々な視点から捉えた６つの科目、
スポーツ論（健康と生涯スポーツ）
スポーツ論（オリンピックとスポーツ）
スポーツ論（スポーツコーチング）
スポーツ論（スポーツライフデザイン論）
スポーツ論（人類とスポーツ）
スポーツ論（トレーニング科学）
が展開されています。
・同一科目を重複して履修することはできません。

1年次

転換・導入科目　保健体育基礎科目

スポーツリテラシー　スポーツウェルネス

注意事項

◎**アドバンストスポーツ**は，転換・導入科目の「保健体育基礎科目」**スポーツリテラシー**と**スポーツウェルネス**の両方の単位を修得した場合に履修できます。

◎**アドバンストスポーツ**を履修する際は，事前に健康診断を受ける必要があります。

◎**アドバンストスポーツ**は同一種目を重複履修，また複数種目を履修する事ができます。

◎**スポーツ論**は，「**スポーツ論（健康と生涯スポーツ）**」のように（　）までが科目名です。

◎個々の科目内容については，講義要項（シラバス）を参照してください。

Ⅲ　外国語科目

外国語科目

外国語科目には，「英語」と「英語以外の外国語」，「海外語学研修」があります。

外国語科目「英語」では，高校時代までで学んできた英語を土台としつつ，日本を含めた世界を意識した英語の学習に取り組みます。急速なグローバル化の時代，みなさんが将来どの分野に進もうとも，英語は不可欠です。ぜひ目的意識をもって英語の学修を続けていきましょう。

外国語科目「英語以外の外国語」では，ことばそのものを修得すると同時に，その背景にある社会の考え方や文化（Cultures）に触れます。そこから，未知の人たちとのコミュニケーション（Communication）が始まります。新しいことばは，英語だけでは知ることのできない世界とつながる（Connections），異文化への新鮮な窓口です。

外国語科目「海外語学研修」は，実践的に語学力を伸ばす絶好の機会であると同時に，異文化圏での生活を肌で体験することによって，机上の学習では決して得ることのできない感動や刺激を受けることができます。

◎「CALL 自習室」と「語学相談」の紹介

生田・神田キャンパス 1 号館地下には CALL 自習室と CALL ライブラリーがあり，各種語学の視聴覚教材をはじめ，検定試験対策教材や雑誌等が視聴，閲覧できます。また，生田 10 号館 1 階情報コアゾーンにも CALL 自習スペースは設けられていて，こちらでは DVD を中心とした教材が利用できます。語学相談も受け付けているので，積極的に利用しましょう。

なお，インターネットブラウザ上で学習を行える e-learning 教材（ALC NetAcademy NEXT）もあります。専修大学の学生なら，手続きなしで活用することができ，英語資格試験対策などの学習を学内のみならず学外でも行うことができます。

（1）英語

英語を学ぶ意義

外国語科目の「英語」では，高等学校までで学んできた英語を土台としつつ，新たに大学生として英語や英語を取り巻く社会状況を理解し，学修することを目指します。コミュニケーションの手段として，また情報収集，発信の手段として不可欠な英語力をさらに伸ばしていくことを目指しましょう。また，実用的な面のみならず，異文化への関心や理解を深め，人間としての視野を広げることも大変重要です。

必修の英語科目に加え，英語の 4 技能（Reading, Listening, Speaking, Writing）をさらに高め，グローバル化時代の多様なニーズにこたえられるよう，様々な選択科目の英語が用意されています。幅広く用意された選択科目を積極的に履修することでさらなる英語力の向上を目指すととも

に，異文化への理解を深めましょう。

①英語の履修方法

人間科学部では，１年次で，外国語科目の英語４科目（４単位）を履修することとなっています。（A群）Basics of English（RL）1a, 1b または Intermediate English（RL）1a, 1b の２科目と，（B群）Basics of English（SW）1a，1b または Intermediate English（SW）1a，1b の２科目を履修します。

RL はリーディングとリスニングが中心，SWはスピーキングとライティングが中心の科目です。Basics と Intermediate の違いについては，次の②を見てください。

科目名に a がつく科目は前期，b がつく科目は後期開講で，これらの科目は半期１単位で半期ごとにそれぞれ成績がつきます。

これらの科目の単位を修得できなかった場合には，General English を履修して不足分の単位を修得しなければなりません。General English は半期科目として実施されます。

②英語の特徴

習熟度別クラスで学修します。入学時の「英語科目プレイスメントテスト」によって，Basics of English と Intermediate English のどちらを履修するかが決定します。

基礎的な学修が必要な場合は Basics of English，基礎が修得されている場合は Intermediate English を履修します。

Intermediate English はさらに Mid と High にわかれています。特に希望すれば，英語科目プレイスメントテストによって指定されたクラスより，１レベル上（Basics of English→Intermediate English（Mid），Intermediate English（Mid）→Intermediate English（High））のクラスの履修を許可されることもあります。

③選択科目について

外国語科目の英語では，みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。

◎１年次から履修できる選択科目

１年次から選択できる英語の選択科目は次の３種類です。これらは２～４年次でも履修できます。選択科目で修得した単位は，自由選択修得要件単位として，卒業要件単位に含まれます。

English Speaking a, English Speaking b

ネイティブスピーカーの指導のもと，会話を中心にコミュニケーション力を養います。この科目は，a，b それぞれ４単位まで履修することができます。

Computer Aided Instruction a, Computer Aided Instruction b

e-learning 教材を使用し，基礎的な英語力を強化します。

Computer Aided Instruction for TOEIC a, Computer Aided Instruction for TOEIC b

e-learning 教材を使用し，TOEIC®で 600 点以上のレベルの英語力獲得を目指します。

これらの科目は半期１単位です。

◎２年次から履修できる選択科目

２～４年次は，１年次から選択できる上記の３種類の科目に加えて，さらに５種類の選択科目を履修することができます。

Advanced English a, Advanced English b

発展的な内容を学修し，英検，TOEFL®，TOEIC®等の資格試験に対応できる英語力を目指します。この科目は，a，b それぞれ４単位まで履修することができます。

English Language and Cultures a, English Language and Cultures b

英語圏の文化，言語，コミュニケーションのあり方を，様々な題材を使って掘り下げていきます。この科目は，a，b それぞれ４単位まで履修することができます。

English Presentation a, English Presentation b

プレゼンテーションの技法を身につけ，聞き手にわかりやすく説明する能力を養います。

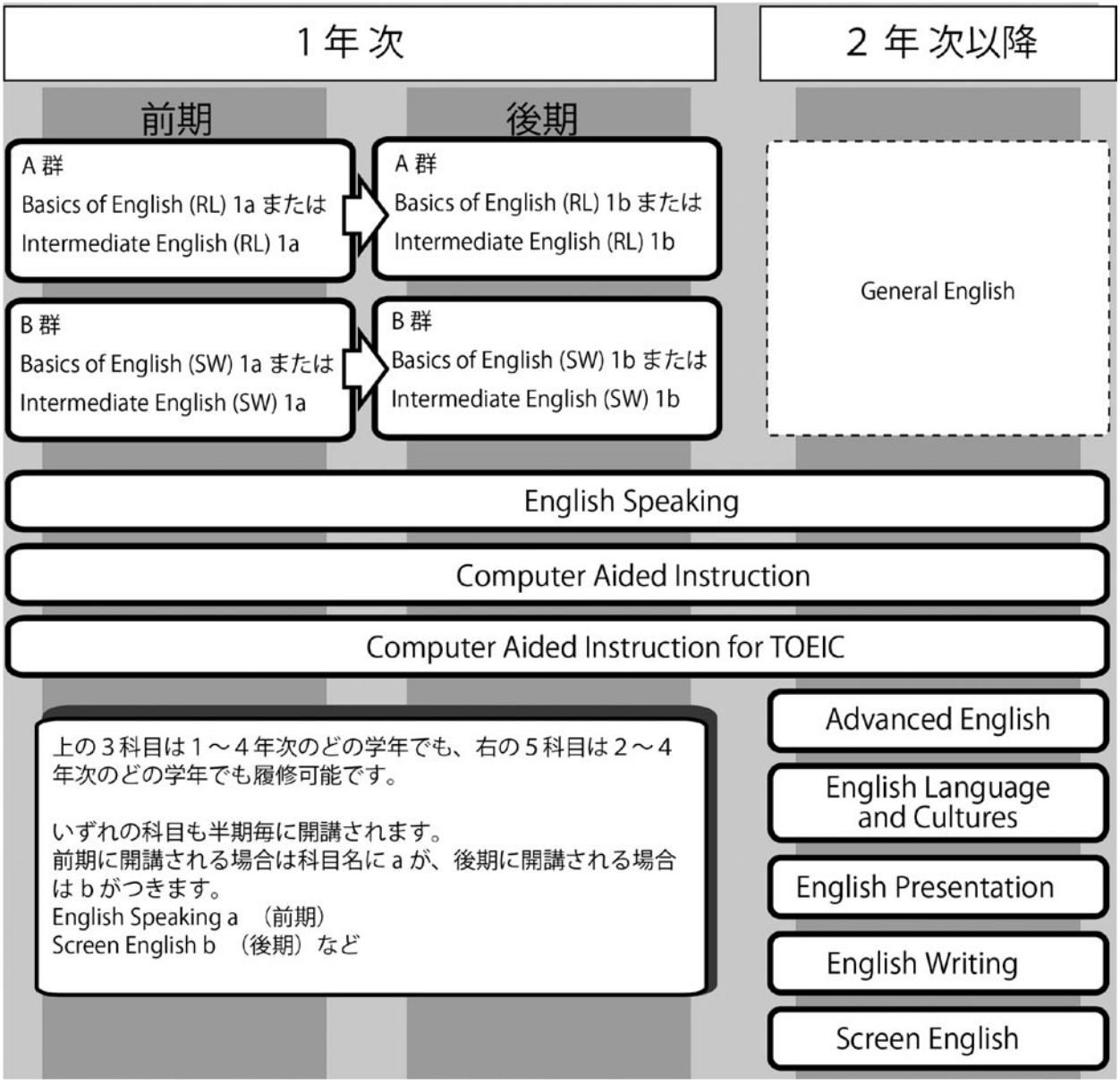
English Writing a, English Writing b

正しい文章を書き，正確に情報を伝達する能力を養います。

Screen English a, Screen English b

映画で使用される口語英語の文法・表現・音声について，基礎的な知識を学びます。

これらの科目は半期２単位です。



④資格試験による単位認定（英語）

英検，TOEFL®，TOEIC®において，一定の基準を満たしている学生には一定水準以上の英語力を有するものとみなし，下記の表のとおり単位を認定します。

	検定試験の種類	基準認定	認定単位数	認定科目群		認定科目名（単位数）
上位基準	英検（英検S-CBTを含む） TOEFL iBT®* TOEIC® Listening & Reading Test	準1級以上 またはCSE 2.0 2304 以上 83点以上 730点以上	4	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1)
						Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1)
						Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1)
				選択科目		Advanced English a (2)
						Advanced English b (2)
						English Language and Cultures a (2)
						English Language and Cultures b (2)

	検定試験の種類	基準認定	認定単位数	認定科目群		認定科目名（単位数）
下位基準	英検（英検S-CBTを含む） TOEFL iBT®* TOEIC® Listening & Reading Test	— 61点以上 600点以上	2	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1)
						Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1)
						Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1)
				選択科目		Advanced English a (2)
						Advanced English b (2)
						English Language and Cultures a (2)
						English Language and Cultures b (2)

* TOEFL iBT® = TOEFL Internet-Based Test

注意事項
単位認定の取り扱いについて
◎認定単位数の上限は４単位です。下位基準による２単位の認定を受けたものが，その後に上位基準を満たした場合，翌年度以降に追加認定を申請できますが，その際の認定単位数は，上限単位数から既認定単位数を差し引いた２単位となります。
◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も，認定はいずれか一種類の検定試験によります。
◎TOEFL ITP®，TOEIC®-IP は認定対象には含まれません。
◎認定科目の成績評価は点数で表さず，「認定」とします。
◎認定された単位は，各年次の履修上限単位数には含めません。
◎認定科目（群）は原則として，未修得科目のうち必修科目とし，すべての必修科目を修得している場合には，Advanced English a, b または English Language and Cultures a, b を認定します。

申請手続き
１）申請期間内に提出書類を教務課に提出してください。
２）申請期間は，当該年度の４月 20 日（休日の場合は前日）までとします。
３）提出書類は①単位認定申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。入学試験出願時に原本を提出した場合は，窓口で申し出てください。
４）合格資格の有効期限は申請日からさかのぼり，２年以内とします。

（２）英語以外の外国語

英語以外の外国語を学ぶ意義

Communication ＋ Cultures ＋ Connection：３つの C をさらに充実させよう

Communication：未知の人たちとコミュニケーションしよう！

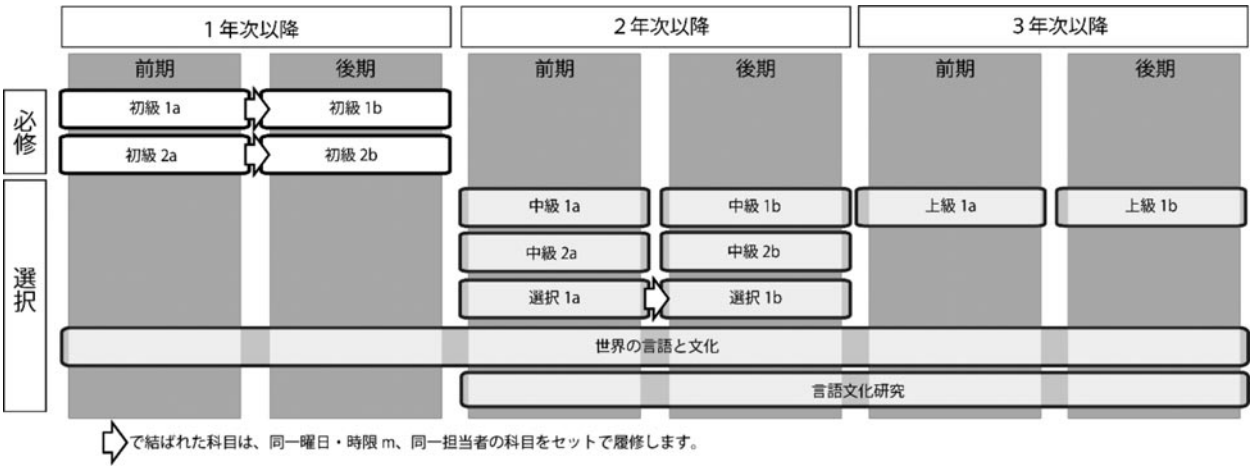
Cultures：さまざまな国，地域の社会と文化を理解しよう！

Connections：国を越えて，分野を越えて，人と，社会とつながろう！

英語以外の外国語には，**ドイツ語**，**フランス語**，**中国語**，**スペイン語**，**ロシア語**，**インドネシア語**，**コリア語**が設置されており，第三の外国語として**アラビア語**，**イタリア語**も勉強することができます。また，あわせて日本語による講義科目である**世界の言語と文化**と**言語文化研究**を履修することで，さまざまな国や地域の社会とその背後にある文化を勉強できます。

①英語以外の外国語の履修方法

人間科学部では，１年次において，外国語科目・英語以外の外国語の「導入」の科目（初級１ａ，１ｂ，２ａ，２ｂ）の４科目（４単位）を必修として履修することとなっています。科目名にａがつく科目は前期，ｂがつく科目は後期開講で，これらの科目は半期１単位で，半期ごとにそれぞれ成績がつきます。



②選択科目について

英語以外の外国語では，みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。

◎１年次から履修できる選択科目

１年次から選択できる科目は**世界の言語と文化**です。各国の言語の背景にある文化を広く学びます。

◎２年次以降に履修できる選択科目

中級１ａ，１ｂ：初級で学んだことの復習＋さらに発展した語学力・コミュニケーション力を養います。年度を越えてそれぞれ２科目まで履修することができます。

中級２ａ，２ｂ：初級で学んだことの復習＋さらにテーマ別に語学力を養います。年度を越えてそれぞれ２科目まで履修することができます。

上級１ａ，１ｂ：個別のテーマで，中級以上のさらに進んだレベルの語学力を養います。同一年度にそれぞれ２科目まで，年度を越えてさらに２科目，合計で４回履修することができます。

選択１ａ，１ｂ：第三の外国語として，入門的な語学力・コミュニケーション力を養います。

言語文化研究：世界各地のさまざまな文化や社会およびその間の関係を深く学びます。日本語による講義科目です。

注意事項

◎英語以外の外国語の「導入」科目（初級１ａ,１ｂ,２ａ,２ｂ）の４科目（４単位）を修得した場合は，同じ言語の選択１ａ・１ｂを履修することはできません。同様に，同じ言語の初級４科目（４単位）と選択１ａ・１ｂを同時に履修することはできません。

◎選択１ａ・１ｂは外国語科目の英語以外の外国語の「導入」の科目（初級１ａ，１ｂ,２ａ，２ｂ）の４科目（４単位）の単位を修得した後に履修できます。

◎必修の外国語として履修した科目の単位が未修得の場合は，再履修しなければなりません。

◎中級以上の科目については，開講されない外国語もあります。

◎英語以外の外国語に設定された卒業要件単位を超過して修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。

③資格試験による単位認定（英語以外の外国語）

高校までに，すでに英語以外の外国語を学修し，指定された資格試験で一定の基準を満たしている場合，入学年度当初に英語以外の外国語の初級１ａ・１ｂ および初級２ａ・２ｂ（４科目４単位）の認定を行い，中級の科目に進むことができます。

下表の資格試験の基準を満たしている学生は，初級１ａ・１ｂおよび初級２ａ・２ｂの単位認定の申請を行ってください。

検定試験の種類	認定基準	認　定 単位数	認定科目（単位数）
ドイツ語技能検定試験	４級	4	ドイツ語初級１ａ(1) ドイツ語初級１ｂ(1) ドイツ語初級２ａ(1) ドイツ語初級２ｂ(1)
Goethe-Institut　ドイツ語検定試験	Ａ１	4	
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	Ａ１	4	
実用フランス語技能検定試験	４級	4	フランス語初級１ａ(1) フランス語初級１ｂ(1) フランス語初級２ａ(1) フランス語初級２ｂ(1)
DELF-DALF フランス語資格試験	Ａ１	4	
中国語検定試験	４級	4	中国語初級１ａ(1) 中国語初級１ｂ(1) 中国語初級２ａ(1) 中国語初級２ｂ(1)
HSK 漢語水平考試	HSK４級	4	
スペイン語技能検定	５級	4	スペイン語初級１ａ(1) スペイン語初級１ｂ(1) スペイン語初級２ａ(1) スペイン語初級２ｂ(1)
DELE スペイン語検定試験	Ａ１	4	
ロシア語能力検定試験	３級	4	ロシア語初級１ａ(1) ロシア語初級１ｂ(1) ロシア語初級２ａ(1) ロシア語初級２ｂ(1)

インドネシア語技能検定試験	D級	4	インドネシア語初級１ａ(1) インドネシア語初級１ｂ(1) インドネシア語初級２ａ(1) インドネシア語初級２ｂ(1)
ハングル能力検定試験	４級	4	コリア語初級１ａ(1) コリア語初級１ｂ(1) コリア語初級２ａ(1) コリア語初級２ｂ(1)
韓国語能力試験	TOPIK Ⅰ （２級）	4	

注意事項
単位認定の取り扱いについて
◎同一言語の４科目４単位をセットで認定します。
◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も，認定はいずれか一種類の検定試験によります。
◎認定科目の成績評価は点数で表さず，「認定」とします。
◎認定された単位は，各年次の履修上限単位数には含めません。
◎認定された場合は，所定の手続きを経ることで，１年次に同一言語中級科目の履修が認められます。
◎認定された場合は，初級１ａ・１ｂおよび初級２ａ・２ｂを履修することはできません。別の外国語を学修する場合，２年次以降に選択１ａ・１ｂを履修してください。

申請手続き
１）申請期間内に提出書類を教務課に提出してください。
２）申請期間は，入学年度の４月20日（休日の場合は前日）までとします。
３）提出書類は①資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。

（３）海外語学研修

海外語学研修および交換留学

本学の国際交流センターでは，海外の大学等と協定を結び様々な留学プログラムを設け，留学を希望する学生のサポートを行っています。留学は実践的に語学力を伸ばす絶好の機会であると同時に，異文化圏での生活を肌で体験することによって，机上の学修では決して得ることのできない感動や刺激を受けることができます。各プログラムの詳細については，国際交流事務課・グローバルカウンターまで問い合わせてください。

留学プログラムを修了することによって単位認定される科目を次に紹介します。

①海外語学短期研修

海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に海外語学短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に海外語学短期研修２に認定されます。

「夏期・春期留学プログラム」は，夏期・春期休暇を利用して海外の協定校等で約１ヶ月にわたって集中的な語学研修を行うものです。留学プログラム開設コース及び内容については令和５年12月現在のものです。

海外語学短期研修１［２単位（１～３年次配当）］
夏期留学プログラム開設コース：社会知性開発　CIE オックスフォード（英国）
社会知性開発　ウーロンゴン大学（オーストラリア）

研修期間は約３～５週間で，１日４～５時間程度の初級レベルの語学研修と課外活動を行います。実践的な会話を学修し，ホームステイやフィールドトリップなどをとおして現地の文化・歴史・生活習慣を学べます。CIE オックスフォードでは，現地学生とプロジェクトワークを行い，英語でプレゼンテーションを実施します。ウーロンゴン大学では約３週間の語学研修終了後，シドニーにて２週間のインターンシップを体験します。

海外語学短期研修２［２単位（１～３年次配当）］
春期留学プログラム開設コース：
英　　語　カルガリー大学（カナダ），ワイカト大学（ニュージーランド）
中 国 語　北京大学（中国）
コ リ ア 語　慶熙大学（韓国）
ド イ ツ 語　マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク（ドイツ）
フランス語　トゥーレーヌ語学センター（フランス）
スペイン語　アリカンテ大学（スペイン）／グアナフアト大学（メキシコ）

※スペイン語コースはスペインとメキシコにおいて隔年で実施しています。

研修期間は４～５週間で，１日４時間程度の 語学研修と課外活動を行います。英語コースの 応募には TOEFL®スコアが必要です。また，コースによっては文化施設見学やフィールドトリップ等，様々なプログラムが展開されています。

注意事項
◎最新情報はホームページで確認してください。
◎単位は希望者のみに与えられますので，希望者は研修参加が決定した後で定められた期日までに科目履修登録を行ってください。
◎評価は各プログラムの習熟度により本学の基準で行い，「認定」として単位を授与します。
◎それぞれの言語ごとに各１回を単位を自由選択修得要件単位として修得することができます。ただし，４年次生の参加者及び同一留学プログラム同一言語コース２度目の参加者については対象となりません。
◎当該科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考される川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

②海外語学中期研修
海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
「中期留学プログラム」は，本学協定校あるいは研修校に前期または後期の４～５ヶ月間留学し，外国人留学生を対象に開講されている集中語学コースに参加するプログラムです。留学プログラム開設コース及び内容については令和５年 12 月現在のものです。

海外語学中期研修１～８［各２単位（２～４年次配当）］

中期留学プログラム開設コース：

英　　語（前期）：カルガリー大学（カナダ），オレゴン大学（米国），ウーロンゴン大学（オーストラリア），ワイカト大学（ニュージーランド）

英　　語（後期）：ネブラスカ大学リンカーン校（米国）

社会知性開発（後期）：ワイカト大学＋インターンシップ（ニュージーランド）

ドイツ語（前期）：ライプツィヒ大学（ドイツ）

フランス語（後期）：フランシュ＝コンテ大学 CLA（フランス）

中　国　語（後期）：上海大学（中国）

スペイン語（後期）：グアナフアト大学（メキシコ）

コリア語（後期）：檀国大学（韓国）

実践的なコミュニケーション能力の習得に加え，大学の正規授業を受けるために必要なアカデミックスキル（プレゼンテーション，ノート・テイキング，リサーチ，論文の書き方等）や，異文化について学ぶことができます。

注意事項

◎最新情報はホームページで確認してください。

◎中期留学プログラムの留学期間は在学期間に算入されます。

◎単位は希望者のみに与えられますので，希望者は中期留学プログラムへの参加決定後，所定の期間に教務課で面接の上，中期留学プログラムにおいて修得を希望する科目の履修登録を行ってください。

◎学修成果の評価は，当該科目担当教員が「事前授業」,「事後授業」,「留学先の成績表」等に基づいて行い,「認定」として単位を授与します。

◎単位は自由選択修得要件単位として，英語では**海外語学中期研修１～８（英語）**（各２単位），ドイツ語では**海外語学中期研修１～８（ドイツ語）**（各２単位），フランス語では**海外語学中期研修１～８（フランス語）**（各２単位），中国語では**海外語学中期研修１～８（中国語）**（各２単位），スペイン語では**海外語学中期研修１～８（スペイン語）**（各２単位），コリア語では**海外語学中期研修１～８（コリア語）**（各２単位）で，それぞれ最高 16 単位まで認定されます。

◎当該科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考される川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

③交換留学

交換留学には,「長期交換留学プログラム」（８ヶ月～１年間）と「セメスター交換留学プログラム」（４～５ヶ月）の２種類があります。どちらも本学協定校にて，正規授業科目を履修するプログラムです。留学中に修得した単位は，審査のうえ 60 単位を上限に本学の単位に振り替える

ことができます。また，国際交流協定に基づいて留学先大学への学費の支払いが免除されます（集中語学研修授業料は除く）。

募集時期・出発時期の詳細については国際交流センターの「交換留学・中期留学ガイドブック」を確認してください。

長期交換留学プログラム第１期：

英　　語：ウーロンゴン大学（オーストラリア），ワイカト大学（ニュージーランド）
中　国　語：上海大学，西北大学（中国），国立中山大学（台湾）
モンゴル語：モンゴル国立大学（モンゴル）
コ リ ア 語：檀国大学，慶熙大学（韓国）
ド イ ツ 語：マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク（ドイツ）
フランス語：リヨン政治学院（フランス）

長期交換留学プログラム第２期：

英　　語：ネブラスカ大学リンカーン校，サスクェハナ大学，オレゴン大学（米国），カルガリー大学（カナダ），ダブリン大学トリニティカレッジ（アイルランド）
スペイン語：イベロアメリカーナ大学（メキシコ）

セメスター交換留学プログラム：

英　　語：ネブラスカ大学リンカーン校，サスクェハナ大学，オレゴン大学（米国），カルガリー大学（カナダ），ダブリン大学トリニティカレッジ（アイルランド）

注意事項

◎プログラム及び内容については令和５年 12 月現在のものです。最新情報はホームページで確認してください。

◎交換留学プログラムの留学期間は在学期間に算入されます。

◎交換留学プログラムにおける単位認定は，所属学部によって規定が異なります。所属学部の教務課にて確認してください。

◎認定された科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考される川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

Ⅳ　外国人留学生の特例履修科目

外国人留学生のみなさんの学修がスムーズに行えるよう，本学では留学生のための科目を次の通り設置しています。

（１）教養科目・留学生専修科目

１年次（必修科目）

一般日本事情１　　一般日本事情２　　半期　２科目　４単位

（２）外国語科目・日本語科目

１年次（必修科目）

日本語文章理解１→日本語文章理解２　半期　２科目　２単位

日本語音声理解１→日本語音声理解２　半期　２科目　２単位

日本語口頭表現１→日本語口頭表現２　半期　２科目　２単位

日本語文章表現１→日本語文章表現２　半期　２科目　２単位

注意事項

◎矢印（→）で結ばれた科目（例えば，日本語文章理解１→日本語文章理解２）は，同一曜日・時限，同一担当者の科目をセットで履修します。ただし，前期に単位を修得できなかった場合は，後期の履修登録が削除されます。

２年次以上（選択科目）

応用日本語理解１　応用日本語理解２　半期　２科目　２単位

応用日本語表現１　応用日本語表現２　半期　２科目　２単位

注意事項

◎応用日本語理解１，２および応用日本語表現１，２を履修するためには，前年度までに日本語文章理解１，日本語文章理解２，日本語音声理解１，日本語音声理解２，日本語口頭表現１，日本語口頭表現２，日本語文章表現１，日本語文章表現２の単位を全て修得していなければなりません。

◎応用日本語理解１，２および応用日本語表現１，２は，同一年度に同じ科目を重複して履修することはできませんが，年度を変えれば，それぞれの１で３科目３単位，２で３科目３単位まで履修することができます。

◎母語の科目を，外国語科目（世界の言語と文化，言語文化研究を除く）として履修することはできません。

第３章

専門科目の学び方

専門科目では何を学ぶか

心　理　学　科

社　会　学　科

専門科目では何を学ぶか

人間科学部は，2010 年に文学部から分離して心理学科と社会学科の二学科編成で発足しました。しかし 1966 年に発足した文学部人文学科には両学科の前身となる心理学コースと社会文化コースが設置されていましたので，両学科の専門教育はすでに 50 年以上の伝統があることになります。

人間科学部ではディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）として皆さんが在学中に身につけるべき能力として次のように定めています。

> 本学部の心理学科，社会学科がそれぞれに規定する所定の卒業要件単位を学則で定める在籍期間中に修得することによって，幅広い教養と豊かな人間性を有し，専門分野に関しては，実験・観察・調査を軸として，科学的・実証的に人間の理解を目指し，人間の心と社会に生起するさまざまな現象のメカニズム（因果関係）を解明する領域を総合的に学び，主体的に社会を支え活動できる能力を養い，高度な専門性を身に付けた者に対し，心理学科では学士（心理学）の，社会学科では学士（社会学）の学位を授与します。

ここに見られるように本学部の専門科目の履修をつうじて「科学的・実証的に人間の理解を目指し，人間の心と社会に生起するさまざまな現象のメカニズム（因果関係）を解明する領域を総合的に学び，主体的に社会を支え活動できる能力を養い，高度な専門性」を身につけることが要求されています。

人間科学部のきわだった特徴は，それぞれの学年に少人数教育を徹底した演習形式の科目が配置されており，実験・実習・ゼミナールなどによって科学的な研究方法を身につけ，最終年度には卒業論文を提出することが卒業要件に含まれている点にあります。そのため演習形式で行われる必修の実験・実習科目の履修には十分な意欲と努力が必要とされます。

また両学科とも講義形式による多彩な専門科目が展開されており，これらを広く学ぶことによって専門的な知識をしっかりと身につけていかねばなりません。

どちらの学科も積み上げによる学修効果を期待してカリキュラムが編成されているので，次ページ以降の説明を良く理解して，自分なりの学修計画を立てていってください。

心　理　学　科

Ⅰ　心理学科の学生のために

１．心理学科の特色

心理学は人間性の理解をめざす学問分野の１つであり，人間の意識や行動，そしてそれをもたらす精神活動や心理的機能について，実証的・科学的に解明していくことをめざしている。わたしたちの意識や行動は，物的・対人的・社会的・文化的な環境とのかかわりで生じるが，一方，精神活動や心理的機能は，わたしたちの身体，特に脳・神経系を基盤にして営まれていると考えられる。その意味で，心理学は人文科学・自然科学・社会科学の接点に位置しており，方法や技法の点でも，心理学独自のものに加えて，諸科学のものを取り入れながら，学際的に研究が進められている。

以上の枠組みにしたがって，次のような教育が提供されることになる。心理学のさまざまな領域でこれまでに蓄積されてきた研究成果や，展開されてきた理論を習得するとともに，実証科学としての心理学の研究方法を実習を通して体得し，現代の心理学の諸問題について，みずからが主体的に思考し，みずから立案した実証的な研究を通してその思考を妥当化する試みを体験することができる教育である。

この教育が目標とするところは，次のような人材の育成にある。

① 大学院へ進学し，将来研究者として心理諸科学の進歩に寄与しうる人材

② 学部卒業後もしくは大学院へ進学した後に「公認心理師」をはじめとする心理系の資格を取得し，広くひとのこころの健康のために貢献しうる人材

③ 国家・地方公務員として，あるいは民間企業の中で，心理学の知識を活かしながら，各部門で責任ある指導的役割を果たしうる人材

④ 心理学とは直接には関連しない職責にあっても，心理学教育を受けたことで獲得した人間と科学に対する深い理解をもつ常識ある人材

２．１年次でどう学ぶか

大学における学修は，高校時代までのようにあらかじめ設定された時間割にしたがって教員から一方的に与えられるものを受動的に受け入れるというかたちをとるのではなく，みずからの志向に合わせて主体的に科目の選択を行い，学修対象に積極的にはたらきかけながら学び取るという姿勢でなされてはじめて実を結ぶことになる。これは，「転換・導入科目」「教養科目」「専門科目」のいずれについても異なるところはない。これまでの受け身の学修法を払拭して，知識を学問として，すなわち体系的・理論的・体験的に学び，主体的能動的に考えぬくという学修態度をぜひ体得してほしい。

卒業までに124単位以上を修得しなければならないが，１年次には修得単位の目安を38単位とし，これを充たすように履修計画を立ててほしい。

「専門科目」は，１年次には「心理学概論・臨床心理学概論」「心理学データ解析基礎１（心理学統計法）・心理学データ解析基礎２」「心理学基礎実験１（心理学実験）」の５科目が必修である。

Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法

大学を卒業するために必要な要件と，科目の具体的な履修方法について概説する。よく読んで，これに沿って履修計画を立ててほしい。

1．卒業要件

大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要であるが（一般的な要件については，p．24「大学卒業の要件と科目の履修」を参照），心理学科生は以下の表に示した要件を充たさなければならない。次項「科目の履修方法」を読み，具体的な履修方法を理解した上で，あらためてこの表を見直し，要求されているものが何であるかを確認してほしい。

人間科学部心理学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目【必履修】		2	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	人文科学基礎科目	8	8	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	英語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	32	84	
	選択必修科目	32		
	選択科目	20		
自由選択修得要件単位		22		
卒業要件単位		124		

［心理学科］

【外国人留学生】 人間科学部心理学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目【必履修】		2	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	留学生専修科目	4	8	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	日本語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	32	84	
	選択必修科目	32		
	選択科目	20		
自由選択修得要件単位		22		
卒業要件単位		124		

［心理学科・外留］

2．科目の履修方法

履修にあたっては，以下の４点に注意を払ってほしい。

① 「転換・導入科目」２単位,「教養科目」８単位以上,「外国語科目」８単位以上,「専門科目」84単位以上,「自由選択修得要件単位となる科目」22単位以上，合計124単位以上を修得しなければならない。

② 各年次に修得する単位の目安（１年次38単位，２年次38単位，３年次36単位，４年次12単位）があるので，この指針にもかなうように毎年の履修計画を立ててほしい。

③ 配当年次が指定されている科目については，その年次に履修しなければならない。
　また，指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は，それが「選択必修科目」である場合には，なるべく低年次で履修しておく方が望ましい。

④ 同一名称の科目は，原則として１つしか履修できない。一度に同一名称の科目を２つ以上履修することはできないし，一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することもできない。

以上の点を考慮し，自分の興味と関心にしたがって自由に意欲的な時間割を組んでほしい。さら

に具体的な履修方法については以下に詳説するが，まず，pp.78～80の「心理学科専門科目一覧」を概観して，カリキュラムの大筋を頭に入れてほしい。

(1) 転換・導入科目，教養科目，外国語科目の履修方法

転換・導入科目，教養科目，外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので，履修に際しては注意しなければならない。それぞれの課程については，転換・導入科目はp.37に，教養科目についてはpp.43～50に，外国語科目についてはpp.51～62に，それぞれ詳しい説明があるので，それを参考にして以下を確認してほしい。

1）転換・導入科目

① 専修大学入門科目，保健体育基礎科目

専修大学入門科目は，1年次前期に展開されている科目を必ず履修しなければならない。単位を修得できなかった場合でも，次年度に履修することはできない。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。保健体育基礎科目は，それぞれ半期1単位，合計2単位を必ず修得しなければならない。

② 上記以外の転換・導入科目

上記以外の転換・導入科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

2）教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位修得しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので，履修する際には注意しなければならない。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1，2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3，4年次で再履修することはできない。また，融合領域科目は2年次以降にしか開講されていない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。

② 8単位を超えて修得した教養科目の単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3）外国語科目

① 英語

1年次で英語4科目を履修し，前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群のBasics of English (RL) 1a（前期），1b（後期）またはIntermediate English (RL) 1a（前期），1b（後期）の2科目と，B群のBasics of English (SW) 1a（前

期），1b（後期）またはIntermediate English（SW）1a（前期），1b（後期）の２科目を履修する。

② 英語以外の外国語

１年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コリア語の７ヶ国語の中から１ヶ国語を選択して，前期２単位・後期２単位の計４単位を必ず修得しなければならない。初級１a（前期），初級１b（後期）の２科目と，初級２a（前期），初級２b（後期）の２科目を履修する。

③ 上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

⑵ 専門科目の履修方法

開講される具体的な科目名称等については，pp．97～98「人間科学部専門科目一覧」を見てほしい。

科目の中には，必ず単位を修得しなければならない「必修科目」（上記一覧で○印のついている科目），開講された科目中から指定された科目数・単位数だけ必ず修得しなければならない「選択必修科目」（◎印のついている科目），多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる「選択科目」（△印のついている科目），の３通りがある。

なお，科目の中には，年間を通して授業を行う「通年科目」と，半年で終了する「半期科目」とがある。また，毎年開講する科目の他に，隔年で開講される「隔年科目」が置かれる場合がある。履修計画を立てる上で注意してほしい。

① 必修科目

必修科目としては，「心理学基礎実験１（心理学実験）」（１年次・２単位），「心理学概論・臨床心理学概論」（１年次・各２単位），「心理学データ解析基礎１（心理学統計法）・心理学データ解析基礎２」（１年次・各１単位），「心理学基礎実験２」（２年次・４単位），「心理学実験演習１」（３年次・４単位），「心理学購読１」（３年次・４単位），「心理学実験演習２」（４年次・４単位），「卒業論文」（８単位）がある。原則として，それぞれの配当年次に履修すること。

心理学基礎実験１（心理学実験）　標準化された心理学実験・心理テスト・調査を中心に，その実施方法，得られたデータの整理・処理法，さらに処理結果を評価し，レポートにまとめる手順についての実習を行う。

心理学概論・臨床心理学概論　広範な心理学の諸領域の研究を理解する上で必要な心理学の基礎的な概念が解説される。

心理学データ解析基礎１（心理学統計法）・心理学データ解析基礎２　科学としての心理学の出発点であるデータの測定法と分析法の基礎について学修する。１年次に単位を修得すること。

心理学基礎実験２　「心理学基礎実験１（心理学実験）」をさらに発展させた技法と概念を実習

する。

心理学実験演習１　心理学のいくつかの研究領域について，その領域固有の問題を，その領域固有の方法で実習する。研究の立案からその実施・分析・報告まで，１年を通して指導する。これは卒業論文作成のための基礎となるものであるので，原則として，「心理学基礎実験２」が履修済みであることが前提である。なお，同一年度に「心理学実験演習１」を複数（並列で）履修することは出来ない。また，「心理学実験演習１」の単位を修得しない限り，４年次配当の必修科目である「心理学実験演習２」の履修はできない。そのため，３年次にこの単位を修得できなければ，４年次に「心理学実験演習２」を履修できず，４年間で卒業することが不可能になる。

心理学講読１　指導教員別に小グループで特定のテーマの下に，重要文献を講読したり文献研究をしたりする。

心理学実験演習２　「心理学実験演習１」をさらに発展させて研究を進めて論文にまとめる。「心理学実験演習１」の単位を修得していることが必須となる。原則として，「卒業論文」の指導教員が担当する授業を履修する。また，研究テーマが大きく変更した場合を除き，自分自身が受講した「心理学実験演習１」の担当教員が展開する「心理学実験演習２」を履修すること。加えて，「心理学実験演習１」同様に，同一年度に「心理学実験演習２」を複数（並列で）履修することは出来ない。

卒業論文　これまで学修してきたことを足場にして，各自のテーマについて自分なりの研究成果を，所定の様式にしたがって論文の形に仕上げる。

「卒業論文」は４年間の学修の総決算であり，学んできたことの最大の証となる。何かを学んだという実感が残る論文を書き上げるよう，取り組んでほしい。そのためには，学問のレベルを突破しようとする野心をもって臨まなければならない。

各人のテーマによって指導教員が決まるので，「心理学実験演習１」の担当教員とよく相談しておくこと（４年次になると何かと対外的に忙しくなるので計画性をもってほしい）（「卒業論文」については，p.30 参照）。なお，「心理学実験演習２」の履修が出来ない学生には，「卒業論文」の提出は認めない。また，「卒業論文」の作成にあたり，その進捗状況を報告する中間発表を義務づける。

所定の単位を修得し，中間発表を行い「卒業論文」を提出し，その口述試験に合格して初めて学士（心理学）の学位が与えられることになる。

②　選択必修科目

１・２年次に配当されている「心理学コンピュータ実習１・２」「心理学研究法」，２・３年次に配当されている「知覚心理学１・２」「認知心理学１（知覚・認知心理学）・２」「学習心理学１（学習・言語心理学）・２」「生理心理学１・２（神経・生理心理学）」「発達心理学１（発達心理学）・２」「社会心理学１・２（社会・集団・家族心理学）」「人格心理学１（感情・人格心理学）・２」「臨床心理学１（心理学的支援法）・２」「犯罪心理学１（司法・犯罪心理学）・２」「心理学データ解析応用１・２」の 20 科目，３・４年次に配当されている「心理学の思想と歴史１・２」「情報処理心理学実習１・２」，４年次に配当されている「心理学講読２」，計 28 科目のうちから 15〜17 科目 32 単位を必ず修得しなければならない。

これらの科目は，発展的なデータの解析手法や情報処理技能の修得，文献研究や重要文献の輪読，心理学の諸領域（各論）におおよそ該当している講義からなっている。

配当年次が複数にわたる科目は，計画的になるべく低年次で履修する方が望ましい。

③　選択科目

「専門科目」の「卒業要件単位」は84単位であるが，このうち「必修科目」で32単位，「選択必修科目」で32単位，計64単位が充当されるので，残り最低20単位は「選択科目」によって充当することになる。

(a)　「基礎心理学特殊講義 A～J 」と「心理学特殊講義 A～J 」は，「選択必修科目」の各論的講義においてはカバーできない発展的な特殊問題・領域を取り上げる講義となる。また「精神病理学１（精神疾患とその治療）・精神病理学２」と「心理演習１・２」「心理実習１・２」は，臨床心理学を深めるための医学的内容の講義と臨床心理学諸領域に関する演習・実習の授業である。

「基礎心理学特殊講義 A～J 」と「心理学特殊講義 A～J 」は，個々の講義の内容が年度ごとに変わる可能性があるので，講義要項（シラバス）を参照すること。心理学のどの側面に関心をもち，学修・研究をしたいかに応じて，選択するとよいであろう。

(b)　前記「選択必修科目」の項であげられた科目のうち，32単位を超えて修得した場合，それらはすべて「選択科目」の単位として算定される。

(3)　自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

「自由選択修得要件単位となる科目」とは，上記の卒業要件単位を修得した上で，さらに修得しなければならない22単位分の科目の総称である。「自由選択修得要件単位となる科目」に算入されるのは以下の７つである。

a．転換・導入科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

b．教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

c．外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

d．選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した心理学科開講の専門科目の単位。

e．心理学科の学生に受講が認められている人間科学部他学科開講の専門科目の単位。

f．教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）

g．心理学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし22単位まで。

「自由選択修得要件単位となる科目」は，科目区分にとらわれず，自由に履修する科目である。それぞれの興味と関心に応じ，自由で独創的なカリキュラムを組んでもらいたい。「卒業要件単位」（計124単位）というのは，あくまで卒業に必要な最低限の学修量を示すに過ぎない。人間性の理解にあたっては，広い視野と多角的な視点をもつ必要があるので，各自の興味と関心の広がりに応じて，選択履修の幅をさらに広げることが望まれる。

⑷　再履修について

①　必修科目の再履修

心理学科の「必修科目」は，専門の10科目32単位である。なんらかの理由でこれらの単位を指定年次に修得できなかった場合は，必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。「再履修」の必修科目はすべてに優先して履修しなければならない点を銘記しておいてほしい。

なお，一度単位を修得した科目の「再履修」はできない。

②　選択必修科目・選択科目の再履修

「選択必修科目」「選択科目」の単位を履修登録年次に修得できなかった場合は，翌年次以降に必ずしも同一名称の科目を「再履修」する必要はない。別の科目の単位を修得して「卒業要件単位」を充たすことが可能である。もちろん再履修してもよい。

⑸　資格取得を希望する者に対する履修上の注意

①　「公認心理師」について：公認心理師国家資格の取得を希望して，国家試験の受験資格を得ようとする場合，大学において公認心理師となるために必要な科目25科目を修めて卒業した後，①大学院において必要な科目を修めてその課程を修了する，または②認定された施設においてプログラムに基づいて実務を経験する必要がある。

本学においては，公認心理師となるために必要な25科目の全てが開講されるが，科目によっては履修できる年次が限られていることに留意し，公認心理師の資格取得を希望する者は，1年次から計画的に履修することが望ましい。p．76に公認心理師となるために大学において必要な25科目一覧を示す。

特に以下の実習演習科目4科目については，履修にあたっては授業内容と履修要件を必ず確認すること。

心理演習１・心理演習２　３年次配当科目。授業期間中の定時授業において，心理に関する支援の具体的な場面を想定したシミュレーションや実際の事例を検討すること等を行い，公認心理師に必要な知識や技能を身につける。心理演習１・２の履修者の上限は30名である。履修希望者が30名を超えた場合には，単位修得状況と学業成績による選抜を行う。

心理実習１・心理実習２　４年次配当科目。医療機関等において，公認心理師の行う心理支援とそのチームアプローチや様々な職種の連携について実習指導を受ける。前期及び後期の授業期間以外にも，保健医療，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働という５つの分野に関する施設における見学等の実習を夏期休業期間中にも実施する。また，定時授業以外で見学実習の前後に行われる指導も受けなければならない。実習時間は合計80時間を超えるものとなる。この科目を履修するにあたっては，「心理演習１」および「心理演習２」の単位を修得していることが必要である。また，この科目の履修にあたっては，所定の期限までに実習指導費を納入しなければならない。心理実習１・２の履修者の上限は30名である。履修希望者が30名を超えた場合には，単位修得状況と学業成績による選抜を行う。

②　「認定心理士」について：卒業後，社団法人日本心理学会「認定心理士」の資格取得を希望する場合は，同学会が指定する科目を履修して単位を修得し，認定を受けなくてはならない。

p．77 に学会による科目指定（新基準）の 概略と本心理学科の開講科目との対応を示す。

③ 「臨床心理士」について：将来，財団法人日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士」の資格取得をめざす場合は，原則として，大学院（心理学専攻）の修士課程を修了しなければならないが，学部段階においても，ある程度広い範囲におよぶ基礎的な知識および技能を習得しておくことが要望されている。その範囲は，上記「公認心理師」となるために必要な科目範囲に準じるものである。

④ その他の資格について：学会や協会が認定する資格で，本学心理学科が資格試験の受験資格を得るために認定・指定を受けているもの，科目について対応しているもの等があり，関連する授業等で都度紹介される。受験資格は変更されることがあるので，興味がある者はそれぞれの学会や協会のホームページなどで最新の情報を収集してほしい。「産業カウンセラー」（一般社団法人日本産業カウンセラー協会），「大学認定睡眠改善インストラクター」（一般社団法人日本睡眠改善協議会）等。

大学において公認心理師となるために必要な科目 25 科目一覧

	公認心理師法が定める「大学における必要な科目」	心理学科における該当科目	配当年次	必修/選択
1	公認心理師の職責	公認心理師の職責	1・2・3・4	選択
2	心理学概論	心理学概論	1	必修
3	臨床心理学概論	臨床心理学概論	1	必修
4	心理学研究法	心理学研究法	1・2	選択必修
5	心理学統計法	心理学データ解析基礎 1（心理学統計法）	1	必修
6	心理学実験	心理学基礎実験 1（心理学実験）	1	必修
7	知覚・認知心理学	認知心理学 1（知覚・認知心理学）	2・3	選択必修
8	学習・言語心理学	学習心理学 1（学習・言語心理学）	2・3	選択必修
9	感情・人格心理学	人格心理学 1（感情・人格心理学）	2・3	選択必修
10	神経・生理心理学	生理心理学 2（神経・生理心理学）	2・3	選択必修
11	社会・集団・家族心理学	社会心理学 2（社会・集団・家族心理学）	2・3	選択必修
12	発達心理学	発達心理学 1（発達心理学）	2・3	選択必修
13	障害者・障害児心理学	心理学特殊講義 A（障害者・障害児心理学）	3・4	選択
14	心理的アセスメント	心理的アセスメント	3・4	選択
15	心理学的支援法	臨床心理学 1（心理学的支援法）	2・3	選択必修
16	健康・医療心理学	心理学特殊講義 H（健康・医療心理学）	3・4	選択
17	福祉心理学	心理学特殊講義 E（福祉心理学）	3・4	選択
18	教育・学校心理学	教育・学校心理学	3・4	選択
19	司法・犯罪心理学	犯罪心理学 1（司法・犯罪心理学）	2・3	選択必修
20	産業・組織心理学	産業・組織心理学	3・4	選択
21	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	1・2・3・4	選択
22	精神疾患とその治療	精神病理学 1（精神疾患とその治療）	3・4	選択
23	関係行政論	関係行政論	1・2・3・4	選択
24	心理演習	心理演習 1 および心理演習 2（両科目必要） 注 1）	3	選択
25	心理実習（実習の時間が八十時間以上のものに限る）	心理実習 1 および心理実習 2（両科目必要） 注 1），注 2）	4	選択

注 1　履修の上限は 30 名です。履修が 30 名を超えた場合には，単位修得状況と学業成績による選抜を行います。心理演習と心理実習は，全ての授業への出席とともに授業外での活動も必要になりますので，全ての授業の出席や授業時間外の演習・実習活動が難しい場合は履修を勧めません。

注 2　履修にあたり，心理演習 1 および心理演習 2 の単位を修得している必要があります。

「認定心理士」資格取得のための科目概要

科目分類	領域	心理学科における該当科目			備考	
		科目名	認定される単位数	配当年次		
(1) 基礎科目	a：心理学概論	心理学概論 臨床心理学概論 心理学の思想と歴史１，２	基本主題２ 副次主題１ 副次主題各１	１ １ ３・４	４単位以上	総計36単位以上。１つの科目を２領域の単位として充当することはできない。心理実習１・２は，cの副次主題0.5単位と１単位かcの副次主題１単位とg２単位のいずれか一方のみで認定を受けること。
	b：心理学研究法	心理学研究法 心理学データ解析基礎１（心理学統計法），心理学データ解析基礎２ 心理学実験演習１ 心理学実験演習２ 心理学データ解析応用１，２	基本主題２ 基本主題各１ 基本主題４ 基本主題４ 基本主題各１	１・２ １ ３ ４ ２・３	８単位以上 最低４単位分はc心理学実験・実習の単位を含むこと。	
	c：心理学実験・実習	心理学基礎実験１（心理学実験） 心理学基礎実験２ 心理学コンピュータ実習１，２ 情報処理心理学実習１，２ 心理実習１，２	基本主題２ 基本主題４ 副次主題各１ 副次主題各１ 副次主題各0.5	１ ２ １・２ ３・４ ４		
	基礎科目小計				**合計12単位以上**	
(2) 選択科目	d：知覚心理学 学習心理学	知覚心理学１，２ 認知心理学１（知覚・認知心理学），認知心理学２ 学習心理学１（学習・言語心理学），学習心理学２	基本主題各２ 基本主題各２ 基本主題各２	２・３ ２・３ ２・３	**５領域のうち３領域以上で，それぞれが少なくとも４単位以上** 必ず基本主題を含むこと。	
	e：生理心理学 比較心理学	生理心理学１，生理心理学２（神経・生理心理学）	基本主題各２	２・３		
	f：教育心理学 発達心理学	発達心理学１（発達心理学），発達心理学２ 教育・学校心理学	基本主題各２ 基本主題２	２・３ ３・４		
	g：臨床心理学 人格心理学	臨床心理学１（心理学的支援法），臨床心理学２ 人格心理学１（感情・人格心理学），人格心理学２ 犯罪心理学１（司法・犯罪心理学），犯罪心理学２ 心理的アセスメント 心理実習１，２	基本主題各２ 基本主題各２ 基本主題各２ 基本主題２ 基本主題各１	２・３ ２・３ ２・３ ３・４ ４		
	h：社会心理学 産業心理学	社会心理学１，社会心理学２（社会・集団・家族心理学） 産業・組織心理学	基本主題各２ 基本主題２	２・３ ３・４		
	選択科目小計				**５領域 16単位以上**	
その他	i：心理学関連科目 卒業論文，卒業研究	卒業論文 心理学講読１ 心理学講読２ 基礎心理学特殊講義A～J 心理学特殊講義A～J 精神病理学１（精神疾患とその治療），精神病理学２	４ ４ ４ 各２ 各２ 各１	４ ３ ４ ３・４ ３・４ ３・４	基礎心理学特殊講義，心理学特殊講義は，その内容に応じて，領域a～hのいずれかの基本主題または副次主題の単位として認定されることがある。(1)，(2)の合計単位数が36単位以上の場合は必ずしも必要ではない。	
	総計				**総計36単位以上**	

人間科学部心理学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール					2	・卒業要件単位２単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　ことばと論理 日本の文学　歴史と社会・文化　芸術学入門 世界の文学　哲学　異文化理解の人類学 文学と現代世界　倫理学　ジャーナリズムと現代 英語圏文学への招待　論理学入門 歴史の視点				8	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　子どもと社会の教育学 法と社会　社会学入門　情報社会 政治学入門　現代の社会学　はじめての経営 政治の世界　社会科学論　マーケティングベーシックス 経済と社会　社会思想　企業と会計 現代の経済　教育学入門						・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　(4) 自然科学実験演習２　(4) 生物科学１a 生物科学１b 生物科学２a 生物科学２b 生物科学３a 生物科学３b 宇宙地球科学１a 宇宙地球科学１b 宇宙地球科学２a 宇宙地球科学２b 化学１a 化学１b 化学２a 化学２b 物理学１a 物理学１b 物理学２a 物理学２b 数理科学１a 数理科学１b 数理科学２a 数理科学２b 数理科学３a 数理科学３b 科学論１a 科学論１b 科学論２a 科学論２b				8		・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
外国語科目	英語	A群 Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)				4	8	・General Englishは，英語「A・B群」の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。
		B群 Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
			General English　(1)					
		English Speaking a　(1) English Speaking b　(1) Computer Aided Instruction a　(1) Computer Aided Instruction b　(1) Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b Screen English a Screen English b					・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
	英語以外の外国語	導入 ドイツ語初級１a　(1) ドイツ語初級１b　(1) ドイツ語初級２a　(1) ドイツ語初級２b　(1) フランス語初級１a　(1) フランス語初級１b　(1) フランス語初級２a　(1) フランス語初級２b　(1) 中国語初級１a　(1) 中国語初級１b　(1) 中国語初級２a　(1) 中国語初級２b　(1) スペイン語初級１a　(1) スペイン語初級１b　(1) スペイン語初級２a　(1) スペイン語初級２b　(1) ロシア語初級１a　(1) ロシア語初級１b　(1) ロシア語初級２a　(1) ロシア語初級２b　(1) インドネシア語初級１a　(1) インドネシア語初級１b　(1) インドネシア語初級２a　(1) インドネシア語初級２b　(1) コリア語初級１a　(1) コリア語初級１b　(1) コリア語初級２a　(1) コリア語初級２b　(1)				4		・１年次で英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１a・bと初級２a・bを履修しなければなりません。 ・同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎 ドイツ語中級１a　(1)　中国語中級１a　(1)　ロシア語中級１a　(1)　コリア語中級１a (1) ドイツ語中級１b　(1)　中国語中級１b　(1)　ロシア語中級１b　(1)　コリア語中級１b (1) ドイツ語中級２a　(1)　中国語中級２a　(1)　ロシア語中級２a　(1)　コリア語中級２a (1) ドイツ語中級２b　(1)　中国語中級２b　(1)　ロシア語中級２b　(1)　コリア語中級２b (1) フランス語中級１a (1)　スペイン語中級１a (1)　インドネシア語中級１a (1) フランス語中級１b (1)　スペイン語中級１b (1)　インドネシア語中級１b (1) フランス語中級２a (1)　スペイン語中級２a (1)　インドネシア語中級２a (1) フランス語中級２b (1)　スペイン語中級２b (1)　インドネシア語中級２b (1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
				応用 ドイツ語上級１a　(1)　ロシア語上級１a　(1) ドイツ語上級１b　(1)　ロシア語上級１b　(1) フランス語上級１a　(1)　ロインドネシア語上級１a　(1) フランス語上級１b　(1)　インドネシア語上級１b　(1) 中国語上級１a　(1)　コリア語上級１a　(1) 中国語上級１b　(1)　コリア語上級１b　(1) スペイン語上級１a　(1) スペイン語上級１b　(1)					・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			選択ドイツ語１a　(1)　選択スペイン語１a　(1)　選択イタリア語１a　(1) 選択ドイツ語１b　(1)　選択スペイン語１b　(1)　選択イタリア語１b　(1) 選択フランス語１a　(1)　選択コリア語１a　(1) 選択フランス語１b　(1)　選択コリア語１b　(1) 選択中国語１a　(1)　選択アラビア語１a　(1) 選択中国語１b　(1)　選択アラビア語１b　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１a・bを履修するためには，英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１a・bと初級２a・bをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１a・bを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１a・bをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語） 世界の言語と文化（フランス語） 世界の言語と文化（中国語） 世界の言語と文化（スペイン語） 世界の言語と文化（ロシア語） 世界の言語と文化（インドネシア語） 世界の言語と文化（コリア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１ 言語文化研究（ヨーロッパ）２ 言語文化研究（アジア）１ 言語文化研究（アジア）２ 言語文化研究（アメリカ）					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語） 海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語） 海外語学中期研修２（外国語） 海外語学中期研修３（外国語） 海外語学中期研修４（外国語） 海外語学中期研修５（外国語） 海外語学中期研修６（外国語） 海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修８（外国語）					・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。

【外国人留学生】人間科学部心理学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール					2	・卒業要件単位２単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情１ 一般日本事情２				4	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　ことばと論理 日本の文学　歴史と社会・文化　芸術学入門 世界の文学　哲学　異文化理解の人類学 文学と現代世界　倫理学　ジャーナリズムと現代 英語圏文学への招待　論理学入門 歴史の視点				4		
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　子どもと社会の教育学 法と社会　社会学入門　情報社会 政治学入門　現代の社会学　はじめての経営 政治の世界　社会科学論　マーケティングベーシックス 経済と社会　社会思想　企業と会計 現代の経済　教育学入門						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１ 自然科学実験演習２　(4) 生物科学１ａ　生物科学３ａ　化学１ａ　物理学２ａ　数理科学３ａ 生物科学１ｂ　生物科学３ｂ　化学１ｂ　物理学２ｂ　数理科学３ｂ 生物科学２ａ　宇宙地球科学１ａ　化学２ａ　数理科学１ａ　科学論１ａ 生物科学２ｂ　宇宙地球科学１ｂ　化学２ｂ　数理科学１ｂ　科学論１ｂ 宇宙地球科学２ａ　物理学１ａ　数理科学２ａ　科学論２ａ 宇宙地球科学２ｂ　物理学１ｂ　数理科学２ｂ　科学論２ｂ						
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	日本語	導入 日本語文章理解１　(1) 日本語文章理解２　(1) 日本語音声理解１　(1) 日本語音声理解２　(1) 日本語口頭表現１　(1) 日本語口頭表現２　(1) 日本語文章表現１　(1) 日本語文章表現２　(1)				8	8	・前期「１」と後期「２」はセットで履修しますが，前期「１」を単位修得できない場合は後期「２」の履修ができません。
			応用日本語理解１　(1)　応用日本語表現１　(1) 応用日本語理解２　(1)　応用日本語表現２　(1)					・１年次必修の日本語科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。各科目3単位まで履修することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
	母語以外の外国語	A群 Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
		B群 Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
		English Speaking a　(1)　Computer Aided Instruction a　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) English Speaking b　(1)　Computer Aided Instruction b　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					
		導入 ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) コリア語初級１ａ　(1) コリア語初級１ｂ　(1) コリア語初級２ａ　(1) コリア語初級２ｂ　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「導入」の各科目を履修する場合，同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂの４科目４単位をセットで履修しなければなりません。 ・「導入」の各科目は，同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎 ドイツ語中級１ａ　(1)　中国語中級１ａ　(1)　ロシア語中級１ａ　(1)　コリア語中級１ａ　(1) ドイツ語中級１ｂ　(1)　中国語中級１ｂ　(1)　ロシア語中級１ｂ　(1)　コリア語中級１ｂ　(1) ドイツ語中級２ａ　(1)　中国語中級２ａ　(1)　ロシア語中級２ａ　(1)　コリア語中級２ａ　(1) ドイツ語中級２ｂ　(1)　中国語中級２ｂ　(1)　ロシア語中級２ｂ　(1)　コリア語中級２ｂ　(1) フランス語中級１ａ　(1)　スペイン語中級１ａ　(1)　インドネシア語中級１ａ　(1) フランス語中級１ｂ　(1)　スペイン語中級１ｂ　(1)　インドネシア語中級１ｂ　(1) フランス語中級２ａ　(1)　スペイン語中級２ａ　(1)　インドネシア語中級２ａ　(1) フランス語中級２ｂ　(1)　スペイン語中級２ｂ　(1)　インドネシア語中級２ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
				応用 ドイツ語上級１ａ　(1)　ロシア語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1)　ロシア語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1)　インドネシア語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1)　インドネシア語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1)　コリア語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1)　コリア語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1)				・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			選択ドイツ語１ａ　(1)　選択スペイン語１ａ　(1)　選択イタリア語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1)　選択スペイン語１ｂ　(1)　選択イタリア語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1)　選択コリア語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1)　選択コリア語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1)　選択アラビア語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1)　選択アラビア語１ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ・ｂを履修するためには，母語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語）　世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（フランス語）　世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。

人間科学部心理学科専門科目一覧

凡例：○必修、◎選択必修、△選択

区分	1年次 科目名	単位	必・選	2年次 科目名	単位	必・選	3年次 科目名	単位	必・選	4年次 科目名	単位	必・選	卒業要件単位	備考
転換・導入科目													2	
教養科目													8	
外国語科目													8	
専門科目	心理学基礎実験1（心理学実験）	2	○	心理学基礎実験2	4	○	心理学実験演習1	4	○	心理学実験演習2	4	○	32	10科目32単位必修
	心理学概論	2	○				心理学講読1	4	○	卒業論文	8	○		
	臨床心理学概論	2	○											
	心理学データ解析基礎1（心理学統計法）	1	○											
	心理学データ解析基礎2	1	○											
	心理学コンピュータ実習1				2	◎							32	32単位選択必修
	心理学コンピュータ実習2				2	◎								
	心理学研究法				2	◎								
				知覚心理学1				2	◎					
				知覚心理学2				2	◎					
				認知心理学1（知覚・認知心理学）				2	◎					
				認知心理学2				2	◎					
				学習心理学1（学習・言語心理学）				2	◎					
				学習心理学2				2	◎					
				生理心理学1				2	◎					
				生理心理学2（神経・生理心理学）				2	◎					
				発達心理学1（発達心理学）				2	◎					
				発達心理学2				2	◎					
				社会心理学1				2	◎					
				社会心理学2（社会・集団・家族心理学）				2	◎					
				人格心理学1（感情・人格心理学）				2	◎					
				人格心理学2				2	◎					
				臨床心理学1（心理学的支援法）				2	◎					
				臨床心理学2				2	◎					
				犯罪心理学1（司法・犯罪心理学）				2	◎					
				犯罪心理学2				2	◎					
				心理学データ解析応用1				1	◎					
				心理学データ解析応用2				1	◎					
							心理学の思想と歴史1				2	◎		
							心理学の思想と歴史2				2	◎		
							情報処理心理学実習1				2	◎		
							情報処理心理学実習2				2	◎		
										心理学講読2	4	◎		
	公認心理師の職責										2	△	20	20単位選択 専門選択必修科目の超過修得単位は選択科目の単位に算入されます。
	人体の構造と機能及び疾病										2	△		
	関係行政論										2	△		
							基礎心理学特殊講義A				2	△		
							基礎心理学特殊講義B				2	△		
							基礎心理学特殊講義C				2	△		
							基礎心理学特殊講義D				2	△		
							基礎心理学特殊講義E				2	△		
							基礎心理学特殊講義F				2	△		
							基礎心理学特殊講義G				2	△		
							基礎心理学特殊講義H				2	△		
							基礎心理学特殊講義I				2	△		
							基礎心理学特殊講義J				2	△		
							心理学特殊講義A（障害者・障害児心理学）				2	△		
							心理学特殊講義B				2	△		
							心理学特殊講義C				2	△		
							心理学特殊講義D				2	△		
							心理学特殊講義E（福祉心理学）				2	△		
							心理学特殊講義F				2	△		
							心理学特殊講義G				2	△		
							心理学特殊講義H（健康・医療心理学）				2	△		
							心理学特殊講義I				2	△		
							心理学特殊講義J				2	△		
							精神病理学1（精神疾患とその治療）				2	△		
							精神病理学2				2	△		
							心理的アセスメント				2	△		
							産業・組織心理学				2	△		
							教育・学校心理学				2	△		
							心理演習1	1	△	心理実習1	1	△		
							心理演習2	1	△	心理実習2	1	△		
自由選択修得要件単位となる科目	心理学科の学生に受講が認められている転換・導入科目，教養科目，外国語科目，人間科学部の専門科目。教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）。全学公開科目。												22	転換・導入科目，教養科目，外国語科目，専門科目の超過修得単位は自由選択修得要件単位に算入されます。
年次修得単位の目安	38			38			36			12			124	

社　会　学　科

Ⅰ　社会学科の学生のために

1．社会学科の特色

社会学は現実認識の学として，社会の全体的な構造やその変動の法則，そしてそこに生きる人間そのものを研究するという目的をもっている。こうした目的のもとで，具体的にはさまざまな社会現象を，主として社会関係や社会集団などの「共同生活」の諸側面から，経験的・実証的な方法で研究する。

以上のような考え方にもとづき社会学科では，人びとの日常生活の場を主要な研究・学修の領域とし，そこに現れてくる人間の行為や意識，社会関係や組織などの実態を調査・研究することにより，現代社会の構造とその問題性を明らかにし，それがどこから生じ，どこに行くのか，過去と現在との対話をとおして未来を見とおすことを目指している。そのために，「文化・システム」系，「生活・福祉」系，「地域・エリアスタディーズ」系という３つのゆるやかに結びあう研究・学修領域を設定している。

「文化・システム」系では，経験的調査と社会理論，社会構造と社会意識を接続しながら，社会と個人の全体的解明を目指す。「生活・福祉」系においては，人の生活の場としての「家庭と職場」，人の成長プロセスとしての「子どもから高齢者」を軸に，人間生活の基礎的単位の基本的な理解と，それらを踏まえた上での実証的研究を目指す。「地域・エリアスタディーズ」系領域では，生活が営まれる地域に焦点をあわせ，現代の地域がグローバル化の過程におかれている現状を踏まえ，地域，都市の構造と変容を実証的に研究する。

この３つの系に専任教員が担当する16の専門的学修分野を配置し，さらに「現実科学としての社会学」「実証科学としての社会学」であることを前提に，調査研究とゼミナール教育を重視したカリキュラムを組んでいる。

社会学科では，①個人的な問題が社会の諸制度とのかかわりの中で生じていることを理解した上で，社会学の知識や理論を修得していること。②社会調査の手法をはじめとしてさまざまな科学的・実証的研究の方法を修得し，自らの思考を文書や口頭によって分かりやすく伝えることができること。③諸社会が有する文化や価値の多様性に関心を持ち，他者理解を深めることができること。④これらの能力を総合的に駆使して，社会における実践的な要請に応えるようとすること，を教育目標としている。これらの教育をとおして，⑴社会状況を的確に判断し，企業，自治体，公共機関，教育機関，市民団体，各種調査研究機関，国際機関等々で，現場に立ちながら着実に活動できる人材，⑵大学院に進学し，将来研究者として学問の発展に寄与する人材ならびに専門的職業人，の育成を目指している。

２．１年次でどう学ぶか

大学での学修は，あらかじめ設定された時間割表が与えられ受動的に履修をする高等学校までの学修とは異なり，自らの関心にあわせて自分で科目を選択し，同時に，決められた卒業要件の必修単位は最低限満たすように，自分で履修を組んでいかなければならない。これは，「転換・導入科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」いずれについても同じである。

社会学科が設けている「専門科目」には，「講義」・「実習」・「ゼミナール」の３つの授業形式がある。科目の学年配当に留意しつつ，自らの関心や将来の目標に見合った，主体的に学ぶ「私なりの時間割」を作成してほしい。

卒業までに124単位以上を修得しなければならないが，１年次には修得目標として最低限38単位を目安に，履修計画を立ててほしい。「教養科目」のうち「人文科学基礎科目」「社会科学基礎科目」は１・２年次にしか開講されていない。「教養科目」のその他の科目についても，上級年次になると専門科目の履修が多くなるので，教養科目をできるだけ低年次で履修しておくことが望まれる。

「専門科目」は，１年次には「社会学原論１，２」「社会調査の基礎」「調査設計と実施方法」「データ分析法実習」が必修科目としておかれている。

Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法

大学を卒業するために必要な諸要件と科目の具体的な履修方法について概説する。説明をよく読み，それに沿って履修計画を立ててほしい。

１．卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要であるが（一般的な要件については，p．24「大学卒業の要件と科目の履修」を参照），社会学科の学生は，以下の表に示した要件を充たさなければならない。次項「科目の履修方法」を読んで，具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し，要求されるものが何であるかを確認してほしい。

人間科学部社会学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学【必履修】			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	人文科学基礎科目	8	8	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	英語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	32	82	
	選択必修科目	28		
	選択科目	22		
自由選択修得要件単位		20		
卒業要件単位		124		

［社会学科］

【外国人留学生】 **人間科学部社会学科**

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学【必履修】			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	留学生専修科目	4	8	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	日本語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	32	82	
	選択必修科目	28		
	選択科目	22		
自由選択修得要件単位		20		
卒業要件単位		124		

［社会学科・外留］

２．科目の履修方法

履修にあたっては，以下の４点に注意を払ってほしい。

① 「転換・導入科目」で６単位以上，「教養科目」８単位以上，「外国語科目」８単位以上，「専門科目」82単位以上，「自由選択修得要件単位となる科目」20単位以上，合計124単位以上を修得しなければならない。

② 各年次に修得する単位の目安（１年次38単位，２年次38単位，３年次36単位，４年次12単位）があるので，この条件も充たすように毎年の履修計画を立ててほしい。

③ 配当年次が指定されている科目については，その年次に履修しなければならない。

また，指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は，それが「選択必修科目」である場合には，なるべく低年次で履修しておく方が望ましい。

④ 同一名称の科目は，原則として１つしか履修できない。一度に同一名称の科目を２つ以上履修することはできないし，一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することもできない。

さらに具体的な履修方法について以下に詳説するが，教養科目についてはp.94の「人間科学部社会学科転換・導入教育科目，教養科目，外国語科目一覧」，専門科目についてはp.96の「人間科学部社会学科専門科目一覧」を参照しながら，カリキュラムの大筋をつかんでほしい。

⑴ 転換・導入科目，教養科目，外国語科目の履修方法

転換・導入科目，教養科目，外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので，履修に際しては注意しなければならない。転換・導入科目はp.37に，教養科目についてはpp.43～50に，外国語科目についてはpp.51～62に詳しい説明があるので，それを参考にして以下を確認してほしい。

１）転換・導入科目

① 専修大学入門科目，専門入門ゼミナール，保健体育基礎科目

専修大学入門科目，専門入門ゼミナールは，１年次にそれぞれ半期２単位，保健体育基礎科目は，それぞれ半期１単位，合計６単位を必ず修得しなければならない。

② 上記以外の転換・導入科目

上記以外の転換・導入科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

２）教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から８単位修得しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので，履修する際には

注意しなければならない。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は１，２年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は３，４年次で再履修することはできない。また，融合領域科目は２年次以降にしか開講されていない。自然科学系科目は１年次から４年次まで開講されている。

② ８単位を超えて修得した教養科目の単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3）外国語科目

① 英語

１年次で英語４科目を履修し，前期２単位・後期２単位の計４単位を必ず修得しなければならない。A群のBasics of English（RL）1a（前期），1b（後期）またはIntermediate English（RL）1a（前期），1b（後期）の２科目と，B群のBasics of English（SW）1a（前期），1b（後期）またはIntermediate English（SW）1a（前期），1b（後期）の２科目を履修する。

② 英語以外の外国語

１年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コリア語の７ヶ国語の中から１ヶ国語を選択して，前期２単位・後期２単位の計４単位を必ず修得しなければならない。初級１a（前期），初級１b（後期）の２科目と，初級２a（前期），初級２b（後期）の２科目を履修する。

③ 上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

⑵ 専門科目の履修方法

専門科目の中には，必ず修得しなければならない必修科目（pp.97～98「人間科学部社会学科専門科目一覧」で○印のついた科目），開講された科目の中から指定された数だけ必ず修得しなければならない選択必修科目（◎印のついた科目），多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目（△印のついた科目）の３通りがある。

なお，科目の中には，年間を通して授業を行う通年科目と，半年で完了する半期科目とがある。また，毎年開講する科目と隔年に開講する科目とがある。履修計画を立てる上で，注意してほしい。

その上で，可能な範囲で出来るだけ多く履修し，幅広い学修を通して，総合的な視野を持つようにしてほしい。

A．社会学科のカリキュラム編成の特徴

専門科目の履修方法を説明するにあたって，まず，社会学科のカリキュラム編成の特徴を簡単に示すと，次頁のようになる。

教育システム（カリキュラム編成）の特徴

（1）主要研究・学修領域と専門学修分野

1）基礎部門

① 社会学の基礎　　社会学原論，社会調査の基礎，データ分析法実習

2）専門領域

① 「文化・システム」系　　現代社会論，比較社会論，ネットワーク・メディア論，社会意識論，現代文化論，教育と社会

② 「生活・福祉」系　　生活の社会学，家族の社会学，仕事の社会学，福祉の社会学，学びの社会学，ケアの社会学，民俗学

③ 「地域・エリアスタディーズ」系　　地域社会学Ａ（地域社会変動），地域社会学Ｂ（環境・災害・コミュニティ），地域社会学Ｃ（エスニシティと都市），エリア・スタディーズＡ（グローバル都市論），エリア・スタディーズＢ（地域・国家・アイデンティティ）

（2） 教育方法

① ゼミナール教育の重視

専修大学入門ゼミナール（１年次前期必修）
専門入門ゼミナール　（１年次後期必修）
専門ゼミナールＡ　（研究テーマ別の演習　３年次必修）
専門ゼミナールＢ　（専門ゼミナールＡと連続で履修し研究を深化させ，卒業論文につなげる　４年次必修）

※ゼミナールに準じた科目，文献研究Ａおよび社会調査実習Ａ（２年次必修）もある。

② 調査・実証教育の重視

実証研究の基礎であり社会学方法論の基礎ともなる「社会調査の基礎」「調査設計と実施方法」（１年次必修）の設置

２・３年次連続の「社会調査実習Ａ，Ｂ」（Ａは２年次必修，Ｂは３・４年次選択）の設置

分析方法としての「データ分析法実習」（１年次必修）と「統計学実習」（１年次選択），「多変量解析法実習」（２・３・４年次選択），「質的分析法」（２・３・４年次選択）の設置

※上記はすべて，社会調査士資格取得の際の必修科目となる。

③ 特殊講義の設置

主要研究・学修領域，専門的学修分野に関連した講義，時代の変容に対応する個性あ

る講義科目の設置

④　単位履修の柔軟性

他学科・他学部との単位の互換性を推進するため，卒業に必要な学科の専門科目の最低履修単位数を少なくし（82 単位），学際的に学べるようにするとともに，他方では社会学科の専門科目を 102 単位以上履修できるように科目設置し，専門をより深く学ぶことも可能にしている。

⑤　卒業論文の必修

本学社会学科で学修・研究したことの集大成としての論文執筆

以上の特徴あるカリキュラム編成のもとで，社会学科に所属する学生は，次に示す研究・学修領域と専門学修分野を履修できるようにしている。

〈研究・学修領域と専門学修分野〉

（1）基礎部門

社会学の歴史や理論，社会学的研究の方法，社会調査の理論と技法などを学び，社会学の基礎知識・社会学的思考を身につける。

①　社会学原論　　社会学の理論と社会学的思考法を学ぶ。

②　社会調査の基礎　　社会学の方法論と社会調査の基礎を学ぶ。

③　調査設計と実施方法　　社会調査を実施するための技法を学ぶ。

④　データ分析法実習　　データ分析の技法を学ぶ。

（2）専門分野

1）〈「文化・システム」系〉

経験的調査と社会理論，社会構造と社会意識を接続しながら，個人と社会の全体的解明を目指している。人びとの意識・文化とその背景にある社会構造との解明を目標に，調査，統計，文献を用いて実証的／理論的な社会学的方法によって現代社会を幅広く研究し，多角的視点から社会構造と行為の間の因果関係を分析的に理解し説明できる力を育成する。

①　現代社会論　　現代社会の構造を規定している社会階層の動向をにらみながら，現代社会を全体的に論じてゆく専門分野。

②　比較社会論　　社会システム，体制といったようなマクロな観点から社会構造と社会変動などを学んでいく専門分野。

③　ネットワーク・メディア論　　激変するメディア環境を主な対象とし，メディア・コミュニケーションに関する理論と実証研究の成果を学ぶ専門分野。

④　社会意識論　　個人レベルでの社会的相互行為論を，全体社会レベルでの社会構造論に接続させてゆく理論を学ぶ専門分野。

⑤　現代文化論　　現代社会における変貌著しい文化のあり方を，社会構造や社会階層との関連で論じてゆく専門分野。国境を越えて広がるグローバルな文化論を学ぶ。

⑥　教育と社会　　子どもが育ちゆく過程や仕組みに注目しながら，社会の構造・価値観・諸問題について理論や事例を媒介にして学ぶ専門分野。

2）〈「生活・福祉」系〉

生活の場としての「家庭と職場」，人の成長プロセスとしての「子どもから高齢者」を軸に，人間生活の基礎的単位とそのつながりや関係についての基本的な理解と実態的，事象的な把握を目指している。

①　生活の社会学　　現代社会の現実を，生活構造やライフスタイルの側面から研究する専門分野。

②　家族の社会学　　家族をめぐる諸現象の分析を通して，変貌する家族と家族の将来を研究する専門分野。

③　仕事の社会学　　労働の「意味」，職業をめぐる集団，労使関係，そして働く者の生活や意識，産業を中心とする地域構造の変化などを学ぶ専門分野。

④　福祉の社会学　　社会福祉に関する諸問題と人々の生活，それに対応するサービスの歴史的展開と現状の分析をとおして，社会福祉のあり方を学ぶ専門分野。

⑤　ケアの社会学　　現代社会における人々の生活問題，特に高齢者・その他の援助を必要とする人々の介護・ケアをめぐる諸問題とそれに対応する制度やサービスの政策的・実践的展開，現状の理解と分析をすることで，社会福祉の在り方を学ぶ専門分野。

⑥　民俗学　　民間伝承・知識を素材に「常民」の生活をたどり，日本社会の文化的・思想的根源と現代日本の生活・文化への「継続」を明らかにする専門分野。

⑦　学びの社会学　　学ぶとは人の本性である。生涯にわたるその学びを見つめ，善き学びを実現する方法と支援のあり方を人間科学の知見から探求する専門分野。

3）〈「地域・エリアスタディーズ」系〉

人びとの生活と，生活が営まれる地域に焦点を合わせた社会学の学修・研究を目標にする。現代の地域がグローバリゼーション過程におかれている現状を認識し，グローバル化のなかでの地域，都市の構造と変容の実証的，経験的な理解を目指す。

①　地域社会学Ａ　　地域社会のしくみと住民の生活への働きを理解し，その変動を人びとの共同の実践として捉えることをとおして，現代社会の変容を明らかにする専門分野。

②　地域社会学Ｂ　　地域開発や災害などを契機とする劇的な生活変容としての「生活環境」の問題に焦点をあわせ，現代社会の問題を研究する専門分野。

③　地域社会学Ｃ　　都市に生ずる諸問題，生成するネットワークやコミュニティ，そして人びとの生き方などを手がかりに，現代社会の性格を学ぶ専門分野。

④　エリア・スタディーズＡ　　グローバル都市の問題を切り込み口に，グローバル化にともなうマイグレーション・ネットワークの形成，移住のプロセス，地域社会の多様化と統合の問題を研究する専門分野。

⑤　エリア・スタディーズＢ　　グローバル化にともなって生じる民族関係の変容やナショナリズムの展開，国民国家の変容とアイデンティティ変容の問題を研究する専門分野。

これらの学び方については，諸分野のうちからひとつの分野を選び，それを集中的に学ぶやり方もあれば，また，特定分野を選びつつもその他の諸分野を横断するような課題を設定して研究・学修を進めるやり方もある。いずれにせよ，ひとつの専門分野，問題を深めようとすれば，おのずから他の専門分野，他の諸科学の広い学修も不可欠になっていく。それぞれが主体的な学修計画をたてることが望ましい。

なお，社会学科で「社会調査士」の資格を取得するための独自のカリキュラムも用意している（資格については，後述の「E．社会学における資格取得について」を参照のこと）。

さらに深く社会学の諸領域に関する高度な研究・学修を望む人，あるいはより専門的な職業人を目指し教育を受けたいと望む人には，大学院で学ぶ道が開かれている。

B．必修科目

社会学原論１，２　社会学の基本的なものの見方，考え方を学ぶ。これから社会学を学んでいこうとする学生にとってのイントロダクションとなる科目である。

社会調査の基礎，調査設計と実施方法　社会調査は，社会の経験的・実証的研究を進めていくための必要不可欠な研究方法のひとつである。「社会調査の基礎」，「調査設計と実施方法」では，社会調査に関する基礎知識を修得し，具体的な方法を理解すると同時に，社会調査の根底に流れる社会学的思考法についても理解を深める。

社会調査実習Ａおよび文献研究Ａ　２年次で，「社会調査実習Ａ」および「文献研究Ａ」の２科目を履修しなければならない。いずれも少人数の演習ないし実習形式による授業であり，ゼミナールに準ずる重要な科目である。

① 社会調査実習Ａ　社会調査は，社会の経験的・実証的研究を進めていくための必要不可欠な研究方法のひとつであり，２年次に「社会調査実習Ａ」が置かれている。さらに社会調査を継続して実践的に学修したいと考える学生には，「社会調査実習Ａ」の単位修得を前提条件として，３年次以降に履修可能な「社会調査実習Ｂ」が，選択科目として用意されている。実習科目は，通年で行われる「授業」と主に夏期休暇中に行われる「実査」とがセットになっており，履修者は，必ずこの双方に出席しなければならない。なお，「実査」にかかる交通費・宿泊費の費用は自己負担となっている。

② 文献研究Ａ　文献研究は，主として社会学の学修全般に必要な基礎概念や方法，テーマ等に関する基本的な知識，考え方を体得するために，特に社会学の古典として評価された文献の講読を行うものであり，２年次に「文献研究Ａ」が置かれている。古典的な研究や理論的な研究をさらに深めたいと考える学生には，「文献研究Ａ」の単位修得を前提条件として，３年次以降に履修可能な「文献研究Ｂ」が，選択科目として用意されている。

ゼミナール　テキストの講読・討論，あるいは各自のテーマ別学修の報告・討論などの形式により，特定問題についての研究を，原則として少人数で行うものである。

① 専門入門ゼミナール　文献の読み方や発表の仕方などの具体的な学修方法を含めた大学での基本的な研究・学修スタイルを身に付けたり，社会学への興味や関心を呼び起こし，今後の研究・学修の助走をつけることを目指す，新入学生のための科目である。

② 専門ゼミナールA　1年次の「専門入門ゼミナール」や，2年次の「社会調査実習A」,「文献研究A」，講義等で学んだことを基礎に，学生個々人が最も関心を持つ社会学の領域・分野を決定し，それを専門的に研究していくためのゼミナールである。学生は，各人の興味関心に沿って，開講されているゼミナール群からひとつを選択する。なお，この科目は，後述の卒業論文の作成のための研究を主とする「専門ゼミナールB」と連続するので，各人のテーマに沿って慎重に選ぶこと。

③ 専門ゼミナールB　「専門ゼミナールA」と連続している科目であり，3年次で学修・研究したことを基礎に，大学生活の集大成として，担当教員の指導のもとで論文作法を学びつつ，卒業論文を書くための文献講読や調査結果のとりまとめを行う。

卒業論文　社会学科に所属する学生は，4年次で，大学における学修・研究の総決算として「卒業論文」を執筆することが義務づけられている。なお，卒業論文は，所定の期日までに提出し，論文に関する口述試験に合格しなくてはならない（卒業論文については p. 30参照）。

必修科目のとり方として,「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」はそれぞれ，同一年次に同じ名称の科目を複数履修することはできない。さらに,「専門ゼミナールB」の履修は「専門ゼミナールA」の単位を修得した上でないと認められないし，また,「専門ゼミナールA」と「専門ゼミナールB」を同一年次に同時履修することも認められないので，注意すること。

また，卒業論文の提出は,「専門ゼミナールB」の履修が要件になっている。
（ただし，特例として，3年次で留学（協定校）の場合には，4年次での「専門ゼミナールA」と「専門ゼミナールB」の同時履修と卒業論文の提出を認める。）

C．選択必修科目

専門講義科目　2・3・4年次では，社会学をさらに専門的に学んでいく上に必要な基礎・関連領域の専門講義科目が36科目，選択必修科目として置かれている。社会学科の学生は，これらの科目群のうち, 14科目28単位以上を必ず履修しなければならない。また, 専門分野の科目には必ず「専門ゼミナールA・B」と「卒業論文」作成が連動することになる。

D．選択科目

「社会調査実習B」,「文献研究B」,「社会学特殊講義A～F」，その他が選択科目として置かれている。

このうち,「社会調査実習B」と「文献研究B」は，2年次で履修した「社会調査実習A」,「文献研究A」それぞれのテーマをさらに深化させ，3年次ゼミナールでの各人の関心を文献や調査研究という側面からサポートするために置かれている科目である。

「社会学特殊講義A～F」は，社会学の基礎としての選択必修科目群を補完する講義や，それに関連する他専門分野の講義および今日的なテーマを取り上げる講義から成っており，各人の興味や関心に沿って履修する。

なお，心理学科の一部の科目については，自由選択単位となる科目に繰り入れることができる。

前述のように社会学は，幅広い対象領域を含むものであるから，自らのテーマを明確にし，それを中心に関連する科目を自主的，計画的に選択することが望まれる。

E．社会学における資格取得について

社会調査士資格の取得について

2004年度から社会調査協会によって，「社会調査士」の資格が認定されている。現在社会学科に設置してある「社会調査士資格関連科目（以下，「資格関連科目」とする）」を履修することによって，「社会調査士」資格を申請する条件を整えることができる。

① 社会調査とはなにか

社会調査は社会学では不可欠の現実認識の手段であるが，現在では社会学という学問分野を超えて官公庁，企業活動など社会と密接なかかわりをもつ領域においても注目されている方法である。国や地方自治体が行う「国勢調査」や「消費動向調査」，新聞社やテレビ局が行う「世論調査」や「政党支持率調査」，企業が行う「市場調査」や「需要予測調査」など，行政の政策・計画立案，企業活動の方針・計画決定などになくてはならないものになりつつある。

② 社会調査士とは

社会調査士とは，以上のような社会的要請に応えられる人材の能力に対して，社会調査協会（日本社会学会をはじめとする諸学会が設立した一般社団法人）が，その調査能力について，資格関連科目を履修したことをふまえて認定するものである。社会調査士にはさまざまな調査を企画，実施，集計・分析し，調査レポートの取りまとめやプレゼンテーションなど，社会調査実務担当者としての充分な能力が必要とされる。なお，資格関連科目とは，社会調査協会の定める標準カリキュラム科目（⑤を参照）に対応しているものであり，協会によって資格取得条件として認定された科目のことである。

③ 社会調査士資格取得のメリットと注意点

社会調査士資格は，今後官公庁，企業などにおいて実務担当者の能力の一環を示すものとして認知されていく可能性が高い。しかし同時に，資格認定はその実力を示すものでなくてはならず，単に科目を履修すればよいというものでなく，はっきりとした目的意識をもって積極的に学んだものに与えられるべきものである。

したがって調査士の資格を取得しようとするものは相応の覚悟と努力で勉学に臨む必要がある。

④ 社会調査士資格の取得方法

社会調査士の資格の取得は，以下のように二通りの方法がある。一つは，資格取得希望者が，社会調査協会の定める標準カリキュラムに対応した学内の資格関連科目を修得して，卒業時に必要書類を揃えて申請する方法。もう一つは，この資格を就職活動に活用するためなどのために，社会調査協会の指定する一定の要件を満たして大学在籍中の２～３年時に「社会調査士（キャンディデイト：取得候補者）」を申請・取得した上で，大学卒業時に資格変更申請を行って正式な認定証の交付を受ける方法。詳細は，社会調査協会のホームページ（https://jasr.or.jp/）を参照のこと。これらの手続については，社会学科でガイダンスを実施し

て詳しく説明するので，社会学科の掲示板に注意すること。

⑤　社会調査士資格関連科目（カッコ内Ａ～Ｆが社会調査協会の定める標準カリキュラム科目の名称である。資格の申請にはＡ～ＤおよびＧの５科目と，ＥとＦのいずれかの１科目の計６科目の単位取得が必要である。）

「社会調査の基礎」（Ａ.「社会調査の基本事項に関する科目」）

「調査設計と実施方法」（Ｂ.「調査設計と実施方法に関する科目」）

「データ分析法実習」（Ｃ.「基本的な資料とデータ分析に関する科目」）

「統計学実習」（Ｄ.「社会調査に必要な統計学に関する科目」）

「多変量解析法実習」（Ｅ.「多変量解析の方法に関する科目」）

「質的分析法」（Ｆ.「質的な調査と分析の方法に関する科目）

「社会調査実習Ａ」（Ｇ.「社会調査を実際に経験し学習する科目」）

⑥　履修モデル

望ましい履修モデルを示せば，次の通りとなる。

１年次で　「社会調査の基礎」(A)，「調査設計と実施方法」(B)，「データ分析法実習」(C)
「統計学実習」(D)

２年次で　「多変量解析法実習」(E) もしくは「質的分析法」(F)，「社会調査実習Ａ」(G)

社会調査士に関する詳しい情報は，社会調査協会のホームページ（http://jasr.or.jp）を参考にすること。

⑶　自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは，上記の卒業要件単位を修得した上で，さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるものは，以下の７つになる。

ａ．転換・導入科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

ｂ．教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

ｃ．外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

ｄ．選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した社会学科開講の専門科目の単位。

ｅ．社会学科の学生に受講が認められている人間科学部他学科開講の専門科目の単位。

ｆ．教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし８単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）

ｇ．社会学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし22単位まで。

「自由選択修得要件単位となる科目」は，の科目区分にとらわれず，自由に履修する科目である。それぞれの興味と関心に応じ，自由に独創的なカリキュラムを組んでもらいたい。

なお，「卒業要件単位」（計124単位）は卒業に必要な最低限の学修であり，より裾野を広げた学修を主体的に組んでゆくことが期待される。

⑷　再履修について

①　必修科目の再履修

「必修科目」の単位をなんらかの理由で指定年次に修得できなかった場合は，必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。「再履修」の必修科目は，すべてに優先して履修しなければならないことを銘記しておいてほしい。

なお，一度単位を修得した科目の「再履修」はできない。

②　選択必修科目および選択科目の再履修

「選択必修科目」および「選択科目」の単位を修得できなかった場合は，翌年次以降に同一名称の科目を「再履修」してもよいが，必ずしも同一名称の科目を「再履修」せずに，選択科目群内の別の科目の単位を修得して「卒業要件」を充たすことも可能である。

人間科学部社会学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール				2		
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　論理学入門 日本の文学　歴史と社会・文化　ことばと論理 世界の文学　基礎心理学入門　芸術学入門 文学と現代世界　応用心理学入門　異文化理解の人類学 英語圏文学への招待　哲学　ジャーナリズムと現代 歴史の視点　倫理学				8	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　情報社会 法と社会　社会科学論　はじめての経営 政治学入門　社会思想　マーケティングベーシックス 政治の世界　教育学入門　企業と会計 経済と社会　子どもと社会の教育学 現代の経済						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　生物科学３ａ　化学１ａ　物理学２ａ　数理科学３ａ 自然科学実験演習２　(4)　生物科学３ｂ　化学１ｂ　物理学２ｂ　数理科学３ｂ 生物科学１ａ　宇宙地球科学１ａ　化学２ａ　数理科学１ａ　科学論１ａ 生物科学１ｂ　宇宙地球科学１ｂ　化学２ｂ　数理科学１ｂ　科学論１ｂ 生物科学２ａ　宇宙地球科学２ａ　物理学１ａ　数理科学２ａ　科学論２ａ 生物科学２ｂ　宇宙地球科学２ｂ　物理学１ｂ　数理科学２ｂ　科学論２ｂ						
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	英語	A群：Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)				4	8	・General Englishは，英語「Ａ・Ｂ群」の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。
		B群：Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
			General English (1)					
		English Speaking a (1)　Computer Aided Instruction a (1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) English Speaking b (1)　Computer Aided Instruction b (1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
	英語以外の外国語	導入：ドイツ語初級１ａ (1) ドイツ語初級１ｂ (1) ドイツ語初級２ａ (1) ドイツ語初級２ｂ (1) フランス語初級１ａ (1) フランス語初級１ｂ (1) フランス語初級２ａ (1) フランス語初級２ｂ (1) 中国語初級１ａ (1) 中国語初級１ｂ (1) 中国語初級２ａ (1) 中国語初級２ｂ (1) スペイン語初級１ａ (1) スペイン語初級１ｂ (1) スペイン語初級２ａ (1) スペイン語初級２ｂ (1) ロシア語初級１ａ (1) ロシア語初級１ｂ (1) ロシア語初級２ａ (1) ロシア語初級２ｂ (1) インドネシア語初級１ａ (1) インドネシア語初級１ｂ (1) インドネシア語初級２ａ (1) インドネシア語初級２ｂ (1) コリア語初級１ａ (1) コリア語初級１ｂ (1) コリア語初級２ａ (1) コリア語初級２ｂ (1)				4	8	・１年次で英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂを履修しなければなりません。 ・同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎：ドイツ語中級１ａ (1)　中国語中級１ａ (1)　ロシア語中級１ａ (1)　コリア語中級１ａ (1) ドイツ語中級１ｂ (1)　中国語中級１ｂ (1)　ロシア語中級１ｂ (1)　コリア語中級１ｂ (1) ドイツ語中級２ａ (1)　中国語中級２ａ (1)　ロシア語中級２ａ (1)　コリア語中級２ａ (1) ドイツ語中級２ｂ (1)　中国語中級２ｂ (1)　ロシア語中級２ｂ (1)　コリア語中級２ｂ (1) フランス語中級１ａ (1)　スペイン語中級１ａ (1)　インドネシア語中級１ａ (1) フランス語中級１ｂ (1)　スペイン語中級１ｂ (1)　インドネシア語中級１ｂ (1) フランス語中級２ａ (1)　スペイン語中級２ａ (1)　インドネシア語中級２ａ (1) フランス語中級２ｂ (1)　スペイン語中級２ｂ (1)　インドネシア語中級２ｂ (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
				応用：ドイツ語上級１ａ (1)　ロシア語上級１ａ (1) ドイツ語上級１ｂ (1)　ロシア語上級１ｂ (1) フランス語上級１ａ (1)　インドネシア語上級１ａ (1) フランス語上級１ｂ (1)　インドネシア語上級１ｂ (1) 中国語上級１ａ (1)　コリア語上級１ａ (1) 中国語上級１ｂ (1)　コリア語上級１ｂ (1) スペイン語上級１ａ (1) スペイン語上級１ｂ (1)					・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			選択ドイツ語１ａ (1)　選択スペイン語１ａ (1)　選択イタリア語１ａ (1) 選択ドイツ語１ｂ (1)　選択スペイン語１ｂ (1)　選択イタリア語１ｂ (1) 選択フランス語１ａ (1)　選択コリア語１ａ (1) 選択フランス語１ｂ (1)　選択コリア語１ｂ (1) 選択中国語１ａ (1)　選択アラビア語１ａ (1) 選択中国語１ｂ (1)　選択アラビア語１ｂ (1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ・ｂを履修するためには，英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語）　世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（フランス語）　世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。

【外国人留学生】人間科学部社会学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専門大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位２単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール				2		
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情１ 一般日本事情２				4	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　論理学入門 日本の文学　歴史と社会・文化　ことばと論理 世界の文学　基礎心理学入門　芸術学入門 文学と現代世界　応用心理学入門　異文化理解の人類学 英語圏文学への招待　哲学　ジャーナリズムと現代 歴史の視点　倫理学						
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　情報社会 法と社会　社会科学論　はじめての経営 政治学入門　社会思想　マーケティングベーシックス 政治の世界　教育学入門　企業と会計 経済と社会　子どもと社会の教育学 現代の経済						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　生物科学３a　化学１a　物理学２a　数理科学３a 自然科学実験演習２　(4)　生物科学３b　化学１b　物理学２b　数理科学３b 生物科学１a　宇宙地球科学１a　化学２a　数理科学１a　科学論１a 生物科学１b　宇宙地球科学１b　化学２b　数理科学１b　科学論１b 生物科学２a　宇宙地球科学２a　物理学１a　数理科学２a　科学論２a 生物科学２b　宇宙地球科学２b　物理学１b　数理科学２b　科学論２b				4		
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4) テーマ科目 新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４ キャリア科目１ キャリア科目２ 教養テーマゼミナール１　(4)　教養テーマゼミナール２　(4)　教養テーマゼミナール３　(4) 教養テーマゼミナール論文					
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	日本語	導入：日本語文章理解１　(1) 日本語文章理解２　(1) 日本語音声理解１　(1) 日本語音声理解２　(1) 日本語口頭表現１　(1) 日本語口頭表現２　(1) 日本語文章表現１　(1) 日本語文章表現２　(1)				8	8	・前期「１」と後期「２」はセットで履修しますが，前期「１」を単位修得できない場合は後期「２」の履修ができません。
			応用日本語理解１　(1)　応用日本語表現１　(1) 応用日本語理解２　(1)　応用日本語表現２　(1)					・１年次必修の日本語科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。各科目3単位まで履修することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
	母語以外の外国語	A群：Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
		B群：Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
		English Speaking a　(1)　Computer Aided Instruction a　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) English Speaking b　(1)　Computer Aided Instruction b　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
		導入：ドイツ語初級１a　(1) ドイツ語初級１b　(1) ドイツ語初級２a　(1) ドイツ語初級２b　(1) フランス語初級１a　(1) フランス語初級１b　(1) フランス語初級２a　(1) フランス語初級２b　(1) 中国語初級１a　(1) 中国語初級１b　(1) 中国語初級２a　(1) 中国語初級２b　(1) スペイン語初級１a　(1) スペイン語初級１b　(1) スペイン語初級２a　(1) スペイン語初級２b　(1) ロシア語初級１a　(1) ロシア語初級１b　(1) ロシア語初級２a　(1) ロシア語初級２b　(1) インドネシア語初級１a　(1) インドネシア語初級１b　(1) インドネシア語初級２a　(1) インドネシア語初級２b　(1) コリア語初級１a　(1) コリア語初級１b　(1) コリア語初級２a　(1) コリア語初級２b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「導入」の各科目を履修する場合，同一言語の初級１a・bと初級２a・bの４科目４単位をセットで履修しなければなりません。 ・「導入」の各科目は，同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎：ドイツ語中級１a　(1)　中国語中級１a　(1)　ロシア語中級１a　(1)　コリア語中級１a (1) ドイツ語中級１b　(1)　中国語中級１b　(1)　ロシア語中級１b　(1)　コリア語中級１b (1) ドイツ語中級２a　(1)　中国語中級２a　(1)　ロシア語中級２a　(1)　コリア語中級２a (1) ドイツ語中級２b　(1)　中国語中級２b　(1)　ロシア語中級２b　(1)　コリア語中級２b (1) フランス語中級１a (1)　スペイン語中級１a (1)　インドネシア語中級１a (1) フランス語中級１b (1)　スペイン語中級１b (1)　インドネシア語中級１b (1) フランス語中級２a (1)　スペイン語中級２a (1)　インドネシア語中級２a (1) フランス語中級２b (1)　スペイン語中級２b (1)　インドネシア語中級２b (1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
				応用：ドイツ語上級１a　(1)　ロシア語上級１a　(1) ドイツ語上級１b　(1)　ロシア語上級１b　(1) フランス語上級１a　(1)　インドネシア語上級１a　(1) フランス語上級１b　(1)　インドネシア語上級１b　(1) 中国語上級１a　(1)　コリア語上級１a　(1) 中国語上級１b　(1)　コリア語上級１b　(1) スペイン語上級１a　(1) スペイン語上級１b　(1)				・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			選択ドイツ語１a　(1)　選択スペイン語１a　(1)　選択イタリア語１a　(1) 選択ドイツ語１b　(1)　選択スペイン語１b　(1)　選択イタリア語１b　(1) 選択フランス語１a　(1)　選択コリア語１a　(1) 選択フランス語１b　(1)　選択コリア語１b　(1) 選択中国語１a　(1)　選択アラビア語１a　(1) 選択中国語１b　(1)　選択アラビア語１b　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１a・bを履修するためには，母語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１a・bと初級２a・bをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１a・bを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１a・bをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語）　世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（フランス語）　世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					

人間科学部社会学科専門科目一覧

凡例：○必修、◎選択必修、△選択

区分	1年次 科目名	単位	必・選	2年次 科目名	単位	必・選	3年次 科目名	単位	必・選	4年次 科目名	単位	必・選	卒業要件単位	備考
転換・導入科目													6	
教養科目													8	
外国語科目													8	
専門科目	社会学原論１	2	○	社会調査実習Ａ	4	○	専門ゼミナールＡ	4	○	専門ゼミナールＢ	4	○	32	10科目32単位必修
	社会学原論２	2	○	文献研究Ａ	2	○				卒業論文	8	○		
	社会調査の基礎	2	○											
	調査設計と実施方法	2	○											
	データ分析法実習	2	○											
	（文化・システム）			現代社会論１							2	◎	28	14科目28単位選択必修
				現代社会論２							2	◎		
				比較社会論１							2	◎		
				比較社会論２							2	◎		
				現代文化論１							2	◎		
				現代文化論２							2	◎		
				ネットワーク・メディア論１							2	◎		
				ネットワーク・メディア論２							2	◎		
				社会意識論１							2	◎		
				社会意識論２							2	◎		
				教育と社会１							2	◎		
				教育と社会２							2	◎		
	（生活・福祉）			生活の社会学１							2	◎		
				生活の社会学２							2	◎		
				家族の社会学１							2	◎		
				家族の社会学２							2	◎		
				仕事の社会学１							2	◎		
				仕事の社会学２							2	◎		
				学びの社会学１							2	◎		
				学びの社会学２							2	◎		
				福祉の社会学１							2	◎		
				福祉の社会学２							2	◎		
				ケアの社会学１							2	◎		
				ケアの社会学２							2	◎		
				民俗学１							2	◎		
				民俗学２							2	◎		
	（地域・エリアスタディーズ）			地域社会学Ａ-１							2	◎		
				地域社会学Ａ-２							2	◎		
				地域社会学Ｂ-１							2	◎		
				地域社会学Ｂ-２							2	◎		
				地域社会学Ｃ-１							2	◎		
				地域社会学Ｃ-２							2	◎		
				エリア・スタディーズＡ-１							2	◎		
				エリア・スタディーズＡ-２							2	◎		
				エリア・スタディーズＢ-１							2	◎		
				エリア・スタディーズＢ-２							2	◎		
	統計学実習	2	△										22	22単位選択 専門選択必修科目の超過修得単位は選択科目の単位に算入されます。
	自然地理学概論１				2	△								
	自然地理学概論２				2	△								
	日本史概説１				2	△								
	日本史概説２				2	△								
	アジア史概説１				2	△								
	アジア史概説２				2	△								
	欧米史概説１				2	△								
	欧米史概説２				2	△								
				経済学概論１				2	△					
				経済学概論２				2	△					
				現代経済論１				2	△					
				現代経済論２				2	△					
				憲法１				2	△					
				憲法２				2	△					
				多変量解析法実習							2	△		
				質的分析法							2	△		
				ポップカルチャー論							2	△		
				宗教学１							2	△		
				宗教学２							2	△		
				心の哲学							2	△		
				社会の哲学							2	△		
				社会運動論１							2	△		
				社会運動論２							2	△		
				社会政策論１							2	△		
				社会政策論２							2	△		
				社会保障論１							2	△		
				社会保障論２							2	△		
				ジェンダー史１							2	△		
				ジェンダー史２							2	△		
				地方自治論							2	△		
				国際協力論							2	△		
				多文化共生国際社会論							2	△		
				地球環境問題							2	△		
				言論法							2	△		
				ジャーナリズムの倫理							2	△		
				社会学特殊講義Ａ							2	△		
				社会学特殊講義Ｂ							2	△		
				社会学特殊講義Ｃ							2	△		
				社会学特殊講義Ｄ							2	△		
				社会学特殊講義Ｅ							2	△		
				社会学特殊講義Ｆ							2	△		
							社会調査実習Ｂ				4	△		
							文献研究Ｂ				2	△		
							日本経済史１				2	△		
							日本経済史２				2	△		
							社会学思想史				2	△		
							日本社会史				2	△		
							地域研究概論				2	△		
自由選択修得要件単位となる科目	社会学科の学生に受講が認められている転換・導入科目，教養科目，外国語科目，人間科学部の専門科目。教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）。全学公開科目。												20	転換・導入科目，教養科目，外国語科目，専門科目の超過修得単位は自由選択修得要件単位に算入されます。
年次修得単位の目安	38			38			36			12			124	

人間科学部専門科目一覧

心理学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次 心理	配当年次 社会	○：必修 ◎：選択必修 △：選択 #：自由選択修得要件単位 心理	社会
心理学概論	2	1	1	○	#
臨床心理学概論	2	1	1	○	#
心理学データ解析基礎1（心理学統計法）	1	1		○	
心理学データ解析基礎2	1	1		○	
心理学基礎実験1（心理学実験）	2	1		○	
心理学基礎実験2	4	2		○	
心理学実験演習1	4	3		○	
心理学実験演習2	4	4		○	
心理学講読1	4	3		○	
心理学講読2	4	4		◎	
卒業論文	8	4		○	
知覚心理学1	2	23	23	◎	#
知覚心理学2	2	23	23	◎	#
認知心理学1（知覚・認知心理学）	2	23	23	◎	#
認知心理学2	2	23	23	◎	#
学習心理学1（学習・言語心理学）	2	23	23	◎	#
学習心理学2	2	23	23	◎	#
生理心理学1	2	23	23	◎	#
生理心理学2（神経・生理心理学）	2	23	23	◎	#
発達心理学1（発達心理学）	2	23	23	◎	#
発達心理学2	2	23	23	◎	#
社会心理学1	2	23	23	◎	#
社会心理学2（社会・集団・家族心理学）	2	23	23	◎	#
人格心理学1（感情・人格心理学）	2	23	23	◎	#
人格心理学2	2	23	23	◎	#
臨床心理学1（心理学的支援法）	2	23	23	◎	#
臨床心理学2	2	23	23	◎	#
犯罪心理学1（司法・犯罪心理学）	2	23	23	◎	#
犯罪心理学2	2	23	23	◎	#
心理学コンピュータ実習1	2	12		◎	
心理学コンピュータ実習2	2	12		◎	
心理学研究法	2	12		◎	
心理学データ解析応用1	1	23		◎	
心理学データ解析応用2	1	23		◎	
心理学の思想と歴史1	2	34	34	◎	#

科目名	単位	配当年次 心理	配当年次 社会	○：必修 ◎：選択必修 △：選択 #：自由選択修得要件単位 心理	社会
心理学の思想と歴史2	2	34	34	◎	#
情報処理心理学実習1	2	34		◎	
情報処理心理学実習2	2	34		◎	
公認心理師の職責	2	1234		△	
人体の構造と機能及び疾病	2	1234		△	
関係行政論	2	1234		△	
基礎心理学特殊講義A	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義B	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義C	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義D	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義E	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義F	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義G	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義H	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義I	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義J	2	34	34	△	#
心理学特殊講義A（障害者・障害児心理学）	2	34	34	△	#
心理学特殊講義B	2	34	34	△	#
心理学特殊講義C	2	34	34	△	#
心理学特殊講義D	2	34	34	△	#
心理学特殊講義E（福祉心理学）	2	34	34	△	#
心理学特殊講義F	2	34	34	△	#
心理学特殊講義G	2	34	34	△	#
心理学特殊講義H（健康・医療心理学）	2	34	34	△	#
心理学特殊講義I	2	34	34	△	#
心理学特殊講義J	2	34	34	△	#
精神病理学1（精神疾患とその治療）	2	34	34	△	#
精神病理学2	2	34	34	△	#
心理的アセスメント	2	34		△	
産業・組織心理学	2	34		△	
教育・学校心理学	2	34		△	
心理演習1	1	3		△	
心理演習2	1	3		△	
心理実習1	1	4		△	
心理実習2	1	4		△	

社会学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次 心理	配当年次 社会	○：必修 ◎：選択必修 △：選択 #：自由選択修得要件単位 心理	社会
社会学原論１	2	1	1	#	○
社会学原論２	2	1	1	#	○
社会調査の基礎	2	1	1	#	○
調査設計と実施方法	2	1	1	#	○
データ分析法実習	2		1		○
多変量解析法実習	2		234		△
統計学実習	2		1		△
質的分析法	2		234		△
社会調査実習Ａ	4		2		○
社会調査実習Ｂ	4		34		△
文献研究Ａ	2		2		○
文献研究Ｂ	2		34		△
現代社会論１	2	234	234	#	◎
現代社会論２	2	234	234	#	◎
比較社会論１	2	234	234	#	◎
比較社会論２	2	234	234	#	◎
ネットワーク・メディア論１	2	234	234	#	◎
ネットワーク・メディア論２	2	234	234	#	◎
社会意識論１	2	234	234	#	◎
社会意識論２	2	234	234	#	◎
教育と社会１	2	234	234	#	◎
教育と社会２	2	234	234	#	◎
現代文化論１	2	234	234	#	◎
現代文化論２	2	234	234	#	◎
生活の社会学１	2	234	234	#	◎
生活の社会学２	2	234	234	#	◎
家族の社会学１	2	234	234	#	◎
家族の社会学２	2	234	234	#	◎
仕事の社会学１	2	234	234	#	◎
仕事の社会学２	2	234	234	#	◎
学びの社会学１	2	234	234	#	◎
学びの社会学２	2	234	234	#	◎
福祉の社会学１	2	234	234	#	◎
福祉の社会学２	2	234	234	#	◎
ケアの社会学１	2	234	234	#	◎
ケアの社会学２	2	234	234	#	◎
民俗学１	2	234	234	#	◎
民俗学２	2	234	234	#	◎
地域社会学Ａ－１	2	234	234	#	◎
地域社会学Ａ－２	2	234	234	#	◎
地域社会学Ｂ－１	2	234	234	#	◎
地域社会学Ｂ－２	2	234	234	#	◎
地域社会学Ｃ－１	2	234	234	#	◎
地域社会学Ｃ－２	2	234	234	#	◎
エリア・スタディーズＡ－１	2	234	234	#	◎
エリア・スタディーズＡ－２	2	234	234	#	◎
エリア・スタディーズＢ－１	2	234	234	#	◎
エリア・スタディーズＢ－２	2	234	234	#	◎

科目名	単位	配当年次 心理	配当年次 社会	○：必修 ◎：選択必修 △：選択 #：自由選択修得要件単位 心理	社会
ポップカルチャー論	2	234	234	#	△
宗教学１	2	234	234	#	△
宗教学２	2	234	234	#	△
心の哲学	2	234	234	#	△
社会の哲学	2	234	234	#	△
経済学概論１	2	23	23	#	△
経済学概論２	2	23	23	#	△
現代経済論１	2	23	23	#	△
現代経済論２	2	23	23	#	△
社会政策論１	2	234	234	#	△
社会政策論２	2	234	234	#	△
社会運動論１	2	234	234	#	△
社会運動論２	2	234	234	#	△
社会保障論１	2	234	234	#	△
社会保障論２	2	234	234	#	△
日本経済史１	2	34	34	#	△
日本経済史２	2	34	34	#	△
ジェンダー史１	2	234	234	#	△
ジェンダー史２	2	234	234	#	△
自然地理学概論１	2	12	12	#	△
自然地理学概論２	2	12	12	#	△
地方自治論	2	234	234	#	△
国際協力論	2	234	234	#	△
多文化共生国際社会論	2	234	234	#	△
地球環境問題	2	234	234	#	△
社会学思想史	2	34	34	#	△
日本社会史	2	34	34	#	△
地域研究概論	2	34	34	#	△
日本史概説１	2	12	12	#	△
日本史概説２	2	12	12	#	△
アジア史概説１	2	12	12	#	△
アジア史概説２	2	12	12	#	△
欧米史概説１	2	12	12	#	△
欧米史概説２	2	12	12	#	△
言論法	2	234	234	#	△
ジャーナリズムの倫理	2	234	234	#	△
憲法１	2	23	23	#	△
憲法２	2	23	23	#	△
社会学特殊講義Ａ	2	234	234	#	△
社会学特殊講義Ｂ	2	234	234	#	△
社会学特殊講義Ｃ	2	234	234	#	△
社会学特殊講義Ｄ	2	234	234	#	△
社会学特殊講義Ｅ	2	234	234	#	△
社会学特殊講義Ｆ	2	234	234	#	△
専門ゼミナールＡ	4		3		○
専門ゼミナールＢ	4		4		○
卒業論文	8		4		○

第４章

資格課程について

Ⅰ　教　職　課　程

Ⅱ　司書・司書教諭・学校司書課程

Ⅲ　学 芸 員 課 程

Ⅳ　大学院教職課程

Ⅴ　科 目 等 履 修 生

資格課程について

Ⅰ．教職課程

本学では，中学校および高等学校の「教育職員免許状」（以下「免許状」という）を取得することを希望する学生のために，教職課程を設置しています。

現在の法律では，原則として免許状を取得していないものは教職に就くことができませんので，将来教職に就く意思のある学生は，教職課程を履修し，免許状を取得してください。

本学で免許状を取得するためには，原則として３年間以上教職課程の科目を履修し，単位を修得しなければなりません。教職課程の履修方法等は，年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し，説明を受けてください。

また，修得科目・修得単位は学部・学科によって異なります。詳細については，履修初年度のガイダンスで配布する**「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」**を参照してください。

なお，教職課程を履修する場合は履修初年度に教職課程受講料を納入する必要があります。

取得できる免許状は次のとおりです。

学部	学科	種類・教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史，公民

Ⅱ．司書・司書教諭・学校司書課程

司書課程は，公共図書館，大学図書館，研究機関や企業の資料室などで，資料や情報を収集・整理し，これらを利用者に対して適切に提供する専門職（司書）の養成を目的としています。

司書教諭課程は，初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門職（司書教諭）の養成を目的としています。なお，司書教諭の資格を取得するためには，司書教諭課程の履修と併せて，教職課程を履修し，教育職員免許状を取得しなければなりません。

学校司書課程は，学校および学校図書館において，図書館資料の管理や提供および授業の支援や情報活用能力の育成などの職務について，司書教諭と協働しながら従事する学校司書の養成を目的としています。

本学で司書の資格を取得するためには原則として３年間以上，司書課程の授業を履修し，15 科目 30 単位以上を修得しなければなりません。また，司書教諭については５科目 10 単位以上，学校司書については 13 科目 26 単位を修得しなければなりません。

司書，司書教諭，学校司書課程の履修方法等は，年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し，説明を受けてください。また，履修初年度のガイダンスで配布する**「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」**も併せて参照してください。

なお，司書課程，司書教諭課程，学校司書課程を履修する場合は履修初年度に各課程の受講料を納入する必要があります。

Ⅲ．学芸員課程

学芸員課程は，博物館，美術館，歴史資料館，考古資料館，民俗資料館，民芸館，文学館，文書館，動・植物園，水族館，科学館等に勤務し，その事業の目的を達成するために，資料の収集，保管，展示および調査研究，その他これに関連する事業についての専門的事項を司る専門職員を養成することを目的としています。

本学で学芸員の資格を取得するためには，原則として２年間以上，学芸員課程の科目を履修し，13 科目 27 単位以上を修得しなければなりません。

学芸員課程の履修方法等は，年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し，説明を受けてください。また，履修初年度のガイダンスで配布する**「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」**も併せて参照してください。

なお，学芸員課程を履修する場合は履修初年度に，学芸員課程受講料を納入する必要があります。

Ⅳ．大学院教職課程

大学において教育職員免許法に定める所定単位を修得し，中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の授与を受けた者が，大学院修士課程で本学所定の単位を修得し修了した場合，中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状を取得することができます。詳細は教務課資格課程事務室で確認してください。

Ⅴ．科目等履修生

在学中の単位不足等により本学卒業後，教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程の履修を希望する者は，科目等履修生として必要単位を修得できる制度があります。ただし，科目等履修生となるためには，前年度の２月中旬～下旬に出願し，面接選考のうえ，合格した場合に限り許可されます。

なお，詳細については，教務課窓口（神田校舎）へお問い合わせください。

付　　録

Ⅰ　専修大学履修規程

Ⅱ　専修大学定期試験規程

Ⅲ　定期試験における不正行為者処分規程

Ⅰ　専修大学履修規程

（趣旨）

第１条　この規程は，専修大学学則第４条第４項の規定に基づき，専修大学（以下「本学」という。）における授業科目並びにその単位数及び履修方法並びに修得すべき単位に関し必要な事項を定めるものとする。

（授業科目の種類）

第２条　授業科目の種類は，次のとおりとする。

⑴　必修科目　当該学部・学科の教育目的を達成するため，卒業要件として修得を必要とする授業科目をいう。

⑵　選択科目　学生の履修目的に応じて選択し，修得単位を卒業要件に算入する授業科目（選択必修科目及び必履修科目を含む。）をいう。

⑶　自由科目　履修することはできるが，修得単位を卒業要件に算入しない授業科目をいう。

（履修方法）

第３条　各学部・学科並びに教職課程，司書課程，司書教諭課程，学校司書課程及び学芸員課程（以下「資格課程」という。）において履修する授業科目は，入学した年次に適用される学修ガイドブック及びこの規程に従い，学生本人が決定するものとする。

（単位数及び授業科目）

第４条　各学部・学科の卒業要件単位数及び授業科目並びに資格課程の取得等要件単位数及び授業科目は，別表第１から別表第３まで及び前条の学修ガイドブックに定めるところによる。

（履修登録）

第５条　授業科目の履修登録は，前期及び通年の授業科目（後期の授業科目のうち，前期に履修登録することが必要な授業科目を含む。）にあっては前期履修科目登録期間，後期の授業科目にあっては後期履修科目登録期間に行うものとする。

（スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録）

第６条　スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録に関し必要な事項は，入学した年次に適用される「SWP 学修ガイドブック」に定めるところによる。

（資格課程科目の履修登録）

第７条　教職課程科目は，教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者が，所定の期日までに，所定の受講料，実習料等を納入することにより履修することができる。

２　司書課程科目及び司書教諭課程科目は，司書又は司書教諭の資格を取得しようとする者が，所定の期日までに，所定の受講料を納入することにより履修することができる。

３　学校司書課程科目は，学校司書課程を修了しようとする者が，所定の期日までに，所定の受講料を納入することにより履修することができる。

４　学芸員課程科目は，学芸員の資格を取得しようとする者が，所定の期日までに，所定の受講料及び実習料を納入することにより履修することができる。

５　資格課程科目の履修登録に関し必要な事項は，入学した年次に適用される「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」に定めるところによる。

（履修上限単位数）

第８条　１年間に履修登録することができる履修上限単位数は，各学部・学科が別に定めるところによる。

２　履修上限単位数には，再履修科目の単位を含めるものとし，次に掲げる単位を含めないものとする。

⑴　海外語学短期研修に参加したことにより認定される単位

⑵　資格試験により認定される単位

⑶　専修大学科目等履修生（付属高等学校生徒）として履修し，本学に入学した後，単位認定される授業科目の単位

⑷　資格課程科目として履修する授業科目の単位

（履修登録することができない授業科目）

第９条　教養科目及び外国語科目の授業科目のうち，外国人留学生のために開講する授業科目は，外国人留学生以外の学生は，履修登録することができない。

２　前項の授業科目を履修登録した場合は，当該授業科目の履修登録を無効とする。

（再度の履修登録の禁止）

第 10 条　既に単位を修得した授業科目と同一名称の授業科目は，各学部・学科が指定する授業科目を除き，再び履修登録することができない。

２　再び履修登録した場合は，当該授業科目の履修登録を無効とする。

（重複した履修登録の禁止）

第 11 条　履修する年度において，同一の履修期間，曜日及び時限に行われる授業科目は，重複して履修登録してはならない。

２　重複して履修登録した場合は，いずれの授業科目の履修登録も無効とする。

（履修登録の修正，削除，追加及び変更）

第 12 条　履修登録の修正，削除，追加及び変更は，各学部・学科が指定する授業科目を除き，履修科目登録期間及び履修修正期間に限り認めるものとする。ただし，当該期間以外の期間であっても特別の理由があると認められる場合は，履修登録の修正，削除，追加及び変更を認めることができる。

２　あらかじめ履修クラスが指定されている授業科目については，原則として，履修クラスの変更を認めないものとする。

３　履修者制限が行われた授業科目で，一旦履修を許可されたものについては，原則として，その削除及び変更を認めないものとする。

（履修の中止）

第 13 条　履修を継続する意思のない授業科目は，各学部・学科が指定する授業科目を除き，所定の履修中止申請期間に，所定の手続を行うことにより履修を中止することができる。

２　履修の中止については，次に定めるところにより取り扱うものとする。

⑴　履修を中止した授業科目は，授業への出席，定期試験の受験及び単位の修得をすることができない。

⑵　履修を中止した授業科目の単位は，当該年度の履修上限単位数に含める。

⑶　履修を中止した授業科目の単位数分の新たな履修登録は認めない。
⑷　履修を中止した授業科目は，GPA 及び平均点に算入しない。
⑸　履修の中止により当該年度に履修登録した授業科目が無くなる場合は，履修中止申請を認めない。
⑹　履修中止申請は，取り下げることができない。

（単位の修得）

第 14 条　履修登録を行わない授業科目については，単位を修得することができない。ただし，履修登録を行わない授業科目であっても本学が認定する単位については，この限りでない。

（事務所管）

第 15 条　この規程に関する事務は，教務部教務課の所管とする。

（規程の改廃）

第 16 条　この規程の改廃は，教授会の議を経て，学長が行う。

附　則

この規程は，平成 30 年４月１日から施行する。

〔中略〕

附　則

（施行期日）

１　この規程は，令和６年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正後の別表第３の規定は，令和６年度以後の入学者について適用し，令和５年度以前の入学者については，なお従前の例による。

別表第１（第４条関係）　略
別表第２（第４条関係）　略
別表第３（第４条関係）　略

Ⅱ　専修大学定期試験規程

（趣旨）

第１条　この規程は，専修大学学則第17条第３項の規定に基づき，試験の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第１条の２　この規程において「試験」とは，学事暦により期間を定めて実施する定期試験をいう。

（種類）

第２条　試験の種類は，次の各号に定めるとおりとする。

⑴　前期試験　　前期で終了する授業科目について実施する試験をいう。

⑵　後期試験　　後期で終了する授業科目及び通年で終了する授業科目について実施する試験をいう。

⑶　前期追試験　　第１号の試験を受験できなかった者に対し，当該授業科目について実施する試験をいう。

⑷　後期追試験　　第２号の試験を受験できなかった者に対し，当該授業科目について実施する試験をいう。

（時期）

第３条　試験の実施の時期は，次の各号に定めるとおりとする。ただし，実施の時期を変更することがある。

⑴　前期試験　　７月～８月

⑵　後期試験　　１月～２月

⑶　前期追試験　　８月

⑷　後期追試験　　２月～３月

（試験方法）

第４条　試験は，筆記，口述又は実技によるものとする。ただし，レポートをもってこれに替えることができる。

（試験時間）

第５条　試験時間は，原則として60分とする。

（試験監督）

第６条　試験監督は，当該授業科目担当教員が行う。ただし，必要に応じて補助者を加えることがある。

２　試験監督者は，試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

（試験委員）

第７条　試験の実施に際し，試験委員を置く。

２　試験委員は，試験の実施を統轄する義務と権限を有する。

３　試験委員は，教授会の承認を得て，学長が委嘱する。

４　試験委員は，試験の実施結果を学長に報告しなければならない。

（受験資格の取得）

第８条　受験資格は，次の各号の所定の手続を完了することにより取得する。

⑴　履修科目登録の手続

⑵　学費の納入手続

⑶　その他所定の手続

２　前項の規定にかかわらず，試験時において休学又は停学中の者は，受験資格を有しない。

（受験資格の喪失）

第９条　次の各号のいずれかに該当する者は，当該授業科目の受験資格を失う。ただし，第４号に該当する者については，定期試験における不正行為者処分規程の定めるところによる。

⑴　学生証を携帯していない者

⑵　試験開始後20分を超えて，遅刻した者

⑶　試験監督者の指示に従わない者

⑷　試験において不正行為を行った者

２　前項第１号に該当する者に対して，当日のみ有効とする臨時学生証による受験を認める。

３　臨時学生証の交付を受けようとする者は，当該試験開始時刻までに，教務部教務課の窓口に申し出なければならない。

４　前項の規定にかかわらず，同項の規定による申出をしなかった場合であっても，その者が試験教室において，当該試験開始時刻までに試験監督者に対し，学生証不携帯の旨を申し出たときは，臨時学生証の交付を認めることができる。

５　前２項の規定による臨時学生証の交付に当たっては，所定の交付手数料を徴収するものとする。

（受験手続）

第10条　第２条第１号及び第２号による受験者は，試験前に公示する「定期試験実施要領」により，所定の手続を完了しなければならない。

２　第２条第３号及び第４号による受験者は，所定の期日までに追試験受験願及び次の各号に定める試験欠席理由を証明する書類を提出し，受験許可を得なければならない。

⑴　教育実習	教育実習参加を証明するもの
⑵　就職試験	就職試験受験を証明するもの
⑶　業務命令による出張又は超過勤務	所属長による証明書
⑷　公式試合	公式試合参加を証明するもの
⑸　天災その他の災害	被災を証明するもの

(6) 二親等以内の危篤又は死亡　　危篤又は死亡を証明するもの
(7) 本人の病気又は怪我　　医師の診断書
(8) 交通機関の事故　　遅延又は事故を証明するもの
(9) その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項　　学部長の承認を得た本人記載の理由書

（成績発表）

第11条　試験の成績結果は，９月及び３月に本人に通知する。

（受験者の義務）

第12条　受験者は，次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

(1) 試験場においては，試験監督者の指示に従うこと。
(2) 試験開始後20分以内の遅刻者は，試験監督者の入室許可を得ること。
(3) 学生証を机上に提出すること。
(4) 解答にさきだって，学籍番号及び氏名を記入すること。
(5) 学籍番号及び氏名の記入は，ペン又はボールペンを使用すること。
(6) 試験開始後30分以内は，退場しないこと。
(7) 配付された答案用紙は，必ず提出すること。
(8) 試験場においては，物品の貸借をしないこと。

（無効答案）

第13条　次の各号の一に該当する答案は，無効とする。

(1) 第８条に定める受験資格を有していない者の答案
(2) 第９条に該当する者の答案
(3) 学籍番号及び氏名が記入されていない答案
(4) 不正行為に該当する者の答案
(5) 授業科目の担当者，曜日又は時限を間違えて受験した者の答案

（不正行為）

第14条　試験における不正行為とは，次の各号の一に該当する場合をいう。

(1) 代人が受験したとき。（依頼した者・受験した者）
(2) 答案を交換したとき。
(3) カンニングペーパーを廻したとき。
(4) カンニングペーパーを使用したとき。
(5) 所持品（電子機器を含む。）その他へ事前に書込みをして，それを使用したとき。
(6) 他人の答案を写したとき。（見た者・見せた者）
(7) 言語・動作・電子機器等で連絡したとき。（連絡した者・連絡を受けた者）
(8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品を使用したとき。
(9) 他人の学生証で受験したとき。（貸した者・借りた者）

⑽　偽名答案を提出したとき又は氏名を抹消して提出したとき。

⑾　故意による答案無記名のとき。

⑿　答案を提出しなかったとき。

⒀　使用が許可された参考書等で貸借をしたとき。

⒁　その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めたとき。

（不正行為の確認）

第15条　試験監督者は，不正行為を発見した場合，その受験者の受験を直ちに中止させ，本人を同行して試験委員に報告するものとする。

２　試験委員は，学生部委員の立ち合いのもとに，不正行為の事実確認を行う。

３　試験委員は，不正行為が確認された場合，本人に始末書を提出させ，速やかに当該学部長に報告しなければならない。

（不正行為者の処分）

第16条　不正行為者の処分は，別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

（規程の改廃）

第17条　この規程に関する事務は，教務部教務課の所管とする。

第18条　この規程の改廃は，教授会の議を経て学長が行う。

附　則

この規程は，昭和54年7月10日から施行する。

〔中略〕

附　則

この規程は，令和6年4月1日から施行する。

Ⅲ　定期試験における不正行為者処分規程

第１条　この規程は，専修大学定期試験規程第16条の規定に基づき，定期試験（以下「試験」という。）における不正行為者の処分に関し，必要な事項を定めるものとする。

第２条　不正行為者の処分は，学部長が行う。

第３条　不正行為者の処分は，次の基準による。

⑴　代人受験（依頼した者・受験した者）	２ケ月の停学処分とし，当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。
⑵　答案交換	第１号に同じ
⑶　カンニングペーパー廻し	けん責処分とし，当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。
⑷　カンニングペーパーの使用	第３号に同じ
⑸　当該試験に関する事項の書込み（所持品・電子機器・身体・机・壁等）	第３号に同じ
⑹　答案を写す（見た者・見せた者）	第３号に同じ
⑺　言語・動作・電子機器等により連絡する行為（連絡した者・連絡を受けた者）	第３号に同じ
⑻　使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品の使用	第３号に同じ
⑼　他人の学生証を利用した受験（貸した者・借りた者）	第３号に同じ
⑽　偽名又は氏名抹消	第３号に同じ
⑾　故意による無記名	第３号に同じ
⑿　答案不提出	第３号に同じ
⒀　使用が許可された参考書等の貸借（貸した者・借りた者）	けん責処分とし，当該受験科目を無効とする。
⒁　その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めた場合	第１号から第13号に準じて処分する。

２　学部長は，前項の処分について速やかに学長及び教授会に報告しなければならない。

第４条　前条により処分を受けた者が，再度不正行為をした場合は，前条の規定にかかわらず教授会の議を経て２カ月以上１年以下の停学とし，当該不正行為が行われた学期における定期試験実施科目を無効とする。

第５条　試験終了後に不正行為が発覚した場合においても，第３条及び第４条により処分する。

第６条　処分の起算日は，処分決定日とする。

第７条　不正行為者の氏名及び処分は，速やかに掲示し，本人及び保証人に通知する。

第８条　処分事項は，学籍簿に記載するものとする。

第９条　不正行為者が本学奨学生制度による奨学生であるときは，直ちにその資格を失う。

第10条　停学処分中の者は，当該学部長の指導に従わなければならない。

第11条　この規程に関する事務は，教務部教務課の所管とする。

第12条　この規程の改廃は，教授会の議を経て学長が行う。

附　則

この規程は，昭和 54 年７月 10 日から施行する。

〔中略〕

附　則

この規程は，令和６年４月１日から施行する。

２０２４　人間科学部学修ガイドブック

令和６年４月１日

編集・発行　専修大学人間科学部
〒214－8580

神奈川県川崎市多摩区東三田２－１－１

ＴＥＬ　044-911-7191（ダイヤルイン）